

社会福祉法人 雲柱社

2008（平成 20）年度事業報告

社会福祉法人 雲柱社 2008（平成20）年度 事業報告

I：事業基本理念・事業目標に基づく、社会福祉施設の設置・経営、及び収益事業の設置・経営

社会福祉法人 雲柱社 事業基本理念

(1999年12月24日)

- (1) 私たちは、賀川豊彦の思想と実践（キリスト精神）を継承し、神と人ともに仕える仕事をします。
- (2) 私たちは、一人ひとりの人格を尊重し、その成長を支援します。
- (3) 私たちは、常に利用者の立場に立って、そのニーズに応え、サービスの向上に努めます。
- (4) 私たちは、地域社会の福祉課題を積極的に掘り起こし、それに取り組みます。

保育ブロック事業目標

- (1) 私たちは、子どもたちが神を敬い、人を愛するように成長することを願って保育をします。
- (2) 私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、それを受け入れ伸ばしていく保育をします。
- (3) 私たちは、子どもたちの自ら育つ力を信じ、意欲を育て支える保育をします。
- (4) 私たちは、子どもたちが心身共に健やかに育つために、保護者の子育てを支援します。
- (5) 私たちは、地域に開かれた保育園を目指します。
- (6) 私たちは、保育の質の向上を常に心がけ、専門の知識を深め、技能の研鑽に努めます。

グループかがわブロック事業目標

- (1) 私たちは、障害児・者一人ひとりが神に愛され、生かされているという事実に基づいて事業を行います。
- (2) 私たちは、障害児・者一人ひとりの人格と個性を尊重し、その成長と生活を支援します。
- (3) 私たちは、障害児・者の家族が抱える課題を深く受け止め、その解決に向けて努力します。
- (4) 私たちは、地域社会の障害者福祉のニーズを掘り起こし、積極的にこれに取り組み、共に生きることを目指す、地域のセンターとしての役割を果たすことに努めます。
- (5) 私たちは、障害児・者一人ひとりのハンディキャップを理解し、かれらに最適のケアを提供するために、専門の知識を深め、技能の研鑽に努めます。

児童館ブロック事業目標

- (1) 私たちは、みんなの居場所となる児童館を目指します。
- (2) 私たちは、子どもたちが多くの人と出会い、遊びや行事などへの参加を通して社会力を培う児童館を目指します。
- (3) 私たちは、子どもたちやその家族が抱えている問題を受け止め、共に担う児童館を目指します。
- (4) 私たちは、世界の人たちと共に生きるための学習や異文化体験、ボランティア活動などに取り組む児童館を目指します。
- (5) 私たちは、子どもたちが平和を愛し、差別や偏見に立ち向かう力を育む児童館を目指します。

子ども家庭支援センター事業目標

- (1) 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりが、神に愛され、生かされているという事実に基づいて、事業を行います。
- (2) 私たちは、地域の子どもとその家族一人ひとりの人格と個性を尊重し、子ども達が心身ともに健やかに育つまちや社会をつくることを目指します。
- (3) 私たちは、センターがそこに集うすべての子どもと大人にとって、安全で安心、大切にされていると感じることのできる場となるよう、日々努力します。

- (4) 私たちは、地域の子どもとその家族が抱える問題を受け止め、よりよい解決に向かえるよう、専門性に基
づき対応します。
- (5) 私たちは、地域の人々や他の専門機関と連携して、子どもとその家族のニーズに合わせて、必要な支援を
行うことに努めます。

社会福祉事業（第一・二種）

種 別	名 称	※□は2008年度開始	個 所
第二種	保育所	愛の園保育園・五日市保育園・神愛保育園・祖師谷保育園・高根学園保育所・ともしび保育園・ <u>光の園保育学校</u> ・黎明保育園・烏山保育園 ※__は分園併設	9
	児童厚生施設	さくら橋コミュニティセンター・ <u>墨田児童会館</u> ・ <u>文花児童館</u> ・ <u>外手児童館</u> （墨田区）、 <u>汐入ふれあい館</u> （荒川区）、和泉児童館・狛江市立岩戸児童センター（子ども家庭支援センター事業併設・狛江市）、上池台児童館（大田区）、たまだいら児童館ふれっしゅ（日野市）、平野児童館・亀戸児童館（江東区） ※__は学童クラブ分室併設館	11
	放課後児童健全育成事業	れいめい堀切学童保育クラブ・れいめい宝学童保育クラブ、第七峡田小学童クラブ・汐入小学童クラブ（荒川区）、深川学童クラブ・大島四丁目学童クラブ・大島八丁目学童クラブ（江東区）	7
	共同生活介護 （知的障害者ケアホーム）	かがわの家	5
	共同援助介護 （知的障害者グループホーム）	シリウス・ベガ・ミラ・カペラ（小金井地区） ジュピター（あきる野地区）	
	生活介護	小金井生活実習所	1
	就労継続支援B型		
	短期入所（ショートステイ）		
	居宅介護事業	かがわサポートセンター・ウイングス（小金井地区）	1
	行動援護事業		
移動支援事業			
東京都障害者（児）移動支援従業者養成研修事業	（かがわサポートセンター・ウイングス）法人本部	1	
第一種	知的障害児通園施設	賀川学園	1
第一種	旧法知的障害者通所授産施設	かがわ工房（小金井地区） ワークスタジオかがわ（あきる野地区）	2

社会福祉事業（公益事業）

地域デイサービス事業 （知的障害学齢児 個別・グループ学習）	さくらの木（小金井地区）	1
-----------------------------------	--------------	---

小金井市小規模作業所	小金井市福祉共同作業所（障害者・高齢者共同）	1
ファミリー・サポート・センター	狛江市全域（和泉児童館内）、小金井市全域（小金井市子ども家庭支援センター内）、小平市ファミリー・サポート・センター（小平市子ども家庭支援センター併設・小平市）	3
子ども家庭支援センター	江東区東陽子ども家庭支援センター・江東区大島子ども家庭支援センター・江東区深川北子ども家庭支援センター・江東区南砂子ども家庭支援センター（江東区）、狛江市子ども家庭支援センター（狛江市）、小金井市子ども家庭支援センター（小金井市）、小平市子ども家庭支援センター（小平市）、練馬区立光が丘子ども家庭支援センター（練馬区）	8

収益事業

店舗賃貸ビル	和光ビル	1
共同賃貸住宅	友愛コーポ	1

II：法人の中期計画（～2010年）にもとづく事業の展開

世界規模の不況の波が押し寄せてくる中で、多くの人たちが職を失い、また、生活が苦しくなる中で働く女性が増加し、それに伴い、保育園の待機児問題が深刻さを増してきた。このような状況において、当法人は社会福祉法人としての責務を果たすべく事業に取り組んできた。また、社会の変化の中で組織的にも変革がせまられようになってきたことを踏まえて、「次世代育成プロジェクト」を発足させ、法人の今後の方針ならびに計画についての準備作業を開始した。今年度も中期計画に基づいて、その実質化に取り組んできた。また、新しい事業にも取り組み、社会が求めるニーズに積極的に応えるべく努力を続けてきた。

この一年の事業報告ができることを神に感謝すると共に、理事会、評議員会の方々、労苦を担った職員、そして、共に歩んだ利用者の皆さんにも深く感謝する次第である。

社会の状況が激しく変化する中で、当法人は創立者賀川豊彦が実践の根拠としたキリスト精神に立ち、さらに荒野の中で努力をして行きたいと願っている。

(1) 次世代を担う人材育成のための研修の強化と人材の登用。

① 社会福祉事業はそれを担う人材によって、サービスの質が決定される。年々若年労働者が減少傾向にある中で、民間社会福祉事業の現場は人材の獲得において厳しい状況を迎えつつある。当法人としては採用した職員に対して、法人のミッションに立つ志の高い職員の養成に力を注いできた。そのための研修（別紙研修報告参照）に力を注ぐと共に、職制についても、その役割などを明確にし、今後法人を担っていく人材の育成に努めてきた。また、新しい事業にも積極的に取り組み職員の登用を通して人材の育成に努めてきた。

② 研修の展開

時代を担う人材育成のための研修にも取り組んできた。各ブロックの主任研修、リーダー研修を実施し、組織人としての自覚を深めると共に、各部門の専門知識の研修にも力を注いできた。

③ 次世代育成プロジェクトの発足

現在管理職の任務を担っている者のうち、40歳以上55歳未満の管理職で構成する「次世代育成プロジェクト」を、理事長の諮問機関として立ち上げ、第二次中期計画（案）の策定を目標に作業を開始することにした。

このプロジェクトは、2011年度から始まる、「第二次中期計画」（案）の策定にとどまらず、今後の法人の方向性や事業のあり方にまで踏み込んで検討を重ねていくことを目指している。自ら策定した計画を自らが実践していく、という重い責任が伴う作業ではあるが、参加したメンバーたちは意欲的に取り組んできた。（作業の詳細は別紙参照）

(2) サービスの質の維持と向上を目指すための正規雇用化、ならびに労働環境の整備

収入が減少する中で、職員の処遇は上昇しつつある。この傾向が続けば社会福祉法人は労務倒産の危機に見舞われかねない。この危険を回避するために給与制度を改定すると共に、サービスの質を維持し向上させていくことを目指して、職員の採用に当たっては正規職員としての雇用を原則としてきた。また、スケールメリットを活かした法人経営を展開していくために、身の丈を考慮しつつ事業の拡大を図ってきた。

また、職員が長く働くことができるための労働環境の整備にも取り組んできた。女性職員が多い当法人にとって、子育てをしながら仕事を続けていくための労働環境の整備はこれからも更なる改善が求められてくるものと考えている。

(3) 各事業別ブロックの質的向上、と共に施設が存在するエリア毎の協働関係の構築

地域福祉が主流となってくる21世紀の社会福祉事業は、当法人にもそれに対応する組織変革を促している。従来のブロック別の事業形態を緩やかに地域別の事業形態に変えていくことが求められている。

新規事業を開始する際にもこのような長期事業戦略に立った判断が求められてきている。今年度は、練馬区立光が丘子ども家庭支援センターの委託を受けて事業を開始した。やがて、この地域に新たな事業エリアを形成していくことができると願っている。

また、今年度は次年度に向かっての新しい事業展開の準備も進められることになった。それらは、墨田区押上保育園、さくら橋コミュニティセンター学童クラブ言問分室（言問小学校内）、祖師谷保育園分園である。これらの新しい取り組みも、今後の法人の地域福祉事業展開の方向性に沿ってすすめられることになる。

(4) 本部事務局の体制の確立、と共に法人のスケールメリットを活かした合理化・効率化によるコストの削減

① 現場・本部事務局間の事務作業の合理化を目指して、新しいコンピューターシステムを導入した。年々増えつつある事務量を軽減すること、情報の安全を守ること等を検討のうえ導入に踏み切ることとした。その結果、法人全体が新しいITシステムによって結ばれることになり、情報伝達の円滑化、書類のやり取り、連絡、報告などが合理化されることになる。これらの結果をより質の高いサービスの展開につなげていきたいと考えている。

② 法人として社会が求めるコンプライアンスを確立していくためには、諸規定の整備、書類のデジタル化、本部事務局職員の施設経営への参与、情報の公開、個人情報の管理、苦情対応、社会の変化に対応した人事、労務管理、等々については、新しい年度においても、引き続き力を傾注していきたいと考えている。

③ 文書管理室の設置と業務の展開

和光市にある法人所有のビルの一部分を用いて、文書管理室を設置し業務を開始した。これにより、今後は未整理の文書の整理が行われ、従来バラバラになっていた法人、各施設の資料が整えられていくことになる。

(5) 人材育成に力を注ぎつつ、必要とされる新しい事業にチャレンジする。

当法人は、ミッションの尊重、法人施設との共働体制が可能な地域条件、財政の安定等々の諸条件を考慮して、公からの事業の受託に対応してきた。今後もこの姿勢を堅持して新しい事業にチャレンジしていきたいと考えている。

今年度は新しい事業として、練馬区立光が丘子ども家庭支援センター、外手児童館学童クラブ業平分室（業平小学校内）が新しく加わることになった。さらに、2009年度4月から、墨田区

押上保育園、さくら橋コミュニティセンター学童クラブ言問分室（言問小学校内）、7月から祖師谷保育園分園が事業を開始することになっている。

また、江東区にある4つの子ども家庭支援センターでは、「乳幼児のひと時預かり事業」が開始されることになった。また、墨田区の4つの児童館においても、今年度から「ひと時預かり事業」に取り組むことになった。また、懸案であったともしび保育園の新築工事が完了し、4月末から新園舎での保育事業が実施できることになった。

これらの諸事業は、いずれも法人のミッションの具体化である、「神と人に仕える」ことを目指して展開されるものであり、新しい年度も職員が一体となってこの課題に取り組んでいきたいと考えている。

Ⅲ：各ブロックにおける事業の展開について

(1) 保育事業ブロック

法人の事業の中で最も古い歴史を有する保育事業は、激しい時代の変化による保育ニーズの多様化、利用者の変化の中で、保育園自身も変革を迫られている。烏山保育園も加わって、9つの園が相互に協力しながら事業を展開してきた。研修においては、「保育と環境」のテーマのもとに講師を招いての研修、法人内の保育園の見学、全体会での研修成果の発表など、スケールメリットを活かした研修にとり組むことが出来た。また、施設長会では保育所保育指針の改訂を踏まえて、その対応にも取り組んできた。

一方、新たに墨田区より墨田区押上保育園の委託（指定管理）を受け、2009年度の事業開始に向かって、この一年間準備に取り組んできた。さらに、世田谷区より待機児対応の一環として、中学校の校庭の一部を利用して祖師谷保育園の分園設置の依頼があり、この計画についても取り組みを始め、2009年7月開園を目指して建設が始まっている。

今年度に着工されたともしび保育園は、いくつかの障害を乗り越えて、2009年4月末に完成した。新しい園舎では、地域の保育（福祉）ニーズに応じて、地域の子育て支援の拠点としての役割を担っていききたいと考えている。

今後、保育事業ブロックには待機児解消への取り組みと共に、子育てが困難な家庭への支援、在宅子育て支援など、果たすべき課題が山積している。保育ニーズ、政策の変化を見据えながらそれに対応していける実践力と経営力をつけていかなければならないと考えている。

(2) 障がい児・者事業ブロック

障害者自立支援法の施行により、この1年間現場は大きく揺さぶられてきた。事務量が増え、経営的にも見通しを建てるのが困難な時期でもあった。この過程で見えてきた問題について、これからじっくり腰を落ち着けて取り組んでいく。グループホームのニーズの増加、建物の老朽化への対応、利用者の高齢化、職員の確保等々、沢山の問題を抱えながら職員が一体となって、多様な仕事を引き受け、努力を重ねてこの1年間を乗り切ることが出来た。今年度から開始した小金井生活実習所のパン製造、軽食喫茶「リトルシープ」も順調に業務を遂行してくることが出来た。

研修においては、年三回の全体研修会を中心に、ブロック全体で問題を共有する方向で実施してきた。社会福祉予算の削減の波を受けて、今後の事業展開は楽観を許さない状況であるが、法人全体で事業を支え利用者、その家族も視野に入れたサービスを展開していきたいと考えている。また、必要な事業には今後も積極的に取り組んでいきたいと考えている。

(3) 児童館（学童クラブ）事業ブロック

0歳から18歳までを対象とした事業を展開している児童館事業も、現在、社会状況の変化の中で従来の事業意識の転換を求められている。事業のすべてが行政からの委託（指定管理）であるため、民間の自由さや先駆性を十分に発揮出来ない面もあるが、概ね行政の要請に応え、さ

らに新しい事業を提案しながら、公と民の協働の成果を上げてくることが出来た。

しかし、少子時代を迎え、子どもたちの地域の居場所（第三の居場所）である児童館への来館児童の数に陰りが見えてきている。一方では、児童館に居場所を求め、そこで自己発揮をしている子どもも増えて来ている。

多様な子どもの育ちの場の一つとして、児童館の担う課題は重要さを増してきている。一方、学童クラブは保護者の就労の増加、地域の安全安心力の衰退により、そのニーズは高まるばかりである。今年も定員を超えて受け入れを行ってきた。また、各クラブにおいて障がい児を積極的に受け入れて来た。保護者の放課後の養護を支援し、子どもたち同士が共に生きることを経験してもらいたいと考えたからである

児童館の午前中の時間を用いて展開されている、子育てひろば事業にも多くの参加があり、地域の子育て支援に大きな役割を果たしている。さらに、夜間の時間を利用して地域の中・高校生の健全な余暇活動も展開している。地域の子育て、子育て支援の拠点として、今後も社会や子どもの生活環境、保護者のニーズにもしっかりと耳を傾け、地域に必要とされる施設を目指して新年度も努力を続けていきたい。

(4) 子ども家庭支援センター

子ども家庭支援センターは、在宅で子育てをしている保護者が抱えている子育て不安を受けとめ、交流の場を設けて子育ての仲間を作り、地域で安心して子育てができる環境づくりを目指して、事業を展開してきた。事業内容は広場事業、相談事業、子育て講座等々で、法人は現在8箇所の子ども家庭支援センターを行政より委託されて、これらの事業に取り組んできた。

今年度も地域の利用者から支持され、ボランティアの協力も得て地域に根ざした活動を行ってることができた。さらに、このうち3館が児童虐待の対応と予防に取り組む先駆型センターとして、専門のワーカーを配置して、その予防と対応に取り組んできた。

江東区においては、センター事業の一環として「乳幼児のひと時預かり」を今年度から開始することになった。日ごろ通り慣れて、職員とも顔見知りになっているため、保護者も安心かつ気楽に預かりを依頼しやすいようで、多くの人に利用されている。

地域の中に子育て共同体が崩壊したいまは、子ども家庭支援センターが子育ての拠点として、また、最後の砦として、その役割はさらに重要性を増していくことと思われる。江東区東陽子ども家庭支援センターから始まったこの事業が、東京の各地に広がり法人のミッションに立つ事業が展開されていることは心強い限りである。

IV：理事会の開催

法人の最高決議機関である理事会の役割が重さを増してきている。今年度も重要議題を審議するために、下記のような日程で理事会が開催された。慎重な審議を経て多くの議案が議決され法人の事業の充実と発展に繋がることになった。

開催日程並びに議事内容は以下の通りである。（別途記載を除き会場はすべて法人本部会議室）

第1回 2008年5月1日 午後6:30～

*ともしび保育園施設整備に関する件、他

第2回 2008年5月24日 午後1:30～

*2007（平成19）年度事業報告に関する件、他

第3回 2008年6月3日 午後6:30～

*ともしび保育園施設整備本園舎工事の入札の結果に関する件、他

第4回 2008年7月19日 午後12:00～

*祖師谷保育園基本財産変更の件（定款変更の件）、他

第5回 2008年9月20日 午後1:30～

*嘱託職員就業規則に関する件、他

第6回 2008年12月6日 午後2:30～

*2008（H20）年度第二次資金収支補正予算に関する件、他

*この回は場所を小金井生活実習所に移し、小金井地区の法人施設の見学を兼ねて理事会を行った。

第7回 2008年12月16日 午後6:00～

*祖師谷保育園分園入札参加基準に関する件、他

第8回 2009年 2月3日 午後6:00～

*祖師谷保育園分園入札結果に関する件、他

第9回 2009年3月7日 午後5:00～

*2008（平成20）年度資金収支最終補正予算に関する件、他

V：評議員会の開催

理事会とは異なった立場で、法人運営に関わっていただく評議員会は、理事会の決定事項について吟味し諮問する役割を担っている。今年度も広い視野から貴重な意見をいただくことが出来た。日程、議事内容等は以下の通りである。（別途記載を除き会場はすべて法人本部会議室）

第1回 2008年5月24日 午前10:30～

*2007（平成19）年度事業報告に関する件、他

第2回 2008年9月20日 午前10:30～

*嘱託職員就業規則に関する件、他

第3回 2008年12月6日 午前10:30～

*2008（H20）年度第二次資金収支補正予算に関する件、他

*この回は小金井生活実習所を会場にし、法人の小金井地区の施設見学も行った。

第4回 2009年3月7日 午後2:00～

*2008（平成20）年度資金収支最終補正予算に関する件、他

VI：協議機関の設置並びに委員会等の開催

1：担当役員会（月1回程度）

- ・理事長、常務理事、各事業ブロックの担当理事によって構成
- ・理事会が開かれるまでの間、法人の動き、事業・人事・労務・財政、等々の諸問題に対応してきた。

2：人事委員会（随時）

- ・担当役員会がこれにあたり、管理職等の人事、人材育成に関わる事項の検討し、必要に応じて理事会に提案を行った。

3：給与制度検討委員会（随時）

- ・社会状況や行政の動きを踏まえながら、今後の給与制度のあり方について検討し、理事長に諮問してきた。
- ・理事長はこれを受けて、必要に応じて理事会に議案として提出した。

4：IT委員会

- ・法人並びに施設のIT環境の整備について検討した。
- ・新しいITシステムの導入について検討した。

VII：会議・集会等

1：法人全体会－財団法人、学校法人と合同で実施－

2009年3月15日 午後1:00～4:00 墨田産業会館
*礼拝 *三法人の課題と展望 *永年勤続者表彰 *辞令伝達

2：各ブロック全体会

①保育ブロック全体会

2009年2月8日 午後1:00～5:00 中ノ郷信用組合本店ホール
*礼拝 *2009年にむかっの課題と展望
*研究発表 「保育と環境」 *グループ討議

②障がい児・者グループ全体会

第1回 2008年7月19日 午前9:30～ 小金井生活実習所

*礼拝・法人報告・講演、他

第2回 2008年12月13日 午前9:00～ 小金井生活実習所

・国分寺教会でアドベント礼拝・研究発表、他

第3回 2009年3月28日 午前9:00～ 墨田産業会館

*2009年度事業の課題と展望の共有 *実践の報告と共有、他

③児童館ブロック全体会

*2009年2月11日 午前9:00～ 墨田児童会館

*礼拝 *2009年度の課題と展望 *研究発表、他

④子ども家庭支援センター全体会

*2009年1月12日 午後1:00～ 法人本部礼拝堂

*礼拝 *2009年年度の課題と展望、他

3：施設長会

①全体施設長会（年3回）

*全施設の施設長が集まって、法人の現状や今後の課題、人材育成、研修等について話し合った。

*各事業ブロック間の現状や課題について話し合い、相互に意見を交換し理解を深め合った。

第1回2008年4月21日 午前10:30～ 法人本部

*2008年度・事業の展望と課題

*2008年度・人材育成と研修の展開

*話し合いと情報交換

第2回2008年10月19日から20日（宿泊研修） かんぼの宿 青梅

*各ブロックの現状と課題

*話し合い：法人の人材確保、育成の課題

*情報交換と交流会

第3回2009年2月16日 午前10:30～ 代々木 全理連ビル

*キリスト精神とは何か

*各ブロック報国 *「施設に求められるコンプライアンスについて」

・話し合いと情報交換

②ブロック別 施設長会（毎月1回）

・各事業ブロック固有の課題や問題の検討（保育・児童館・かがわ・支援センターの四つに分かれて実施）

・ブロック毎の研修計画の立案と展開

・人事、労務、財政、危機管理、苦情対応などについての検討と対応策

VIII：集会等

①賀川豊彦召天記念墓前祈祷会 2008年4月26日 午後1:00～

*イエスの友会、松沢教会、本所賀川記念館との共催

*毎年賀川豊彦の召天日（4月23日）前後の土曜日に行われる。

*礼拝・奨励 齊藤 宏牧師

*感話 元祖師谷伝道所牧師 花盛勳一先生

②雲柱社創立70周年記念会

*2008年11月21日 午後7:00～

*青山学院礼拝堂

*礼拝説教 石川和夫牧師

*講演 阿部志郎先生

*DVD「雲柱社70年の歩み」上映

*三法人理事長の挨拶

IX：協力関係の構築

雲柱社の三法人（財団・社会福祉・学校法人）は、お互いの独自性を尊重しつつ互いに協力して事業にあたっている。また、イエス団、本所賀川記念館との協力関係の維持に努めてきた。

①三法人協議会の実施－随時開催－

*三法人の理事長、常務理事によって構成

*情報の交換、協力事業についての話し合い。他

X：法人創立70周年（2008年）に向けての記念事業の展開

*財団法人、学校法人と協力して以下のような事業を行った。

①70年の歴史をたどるDVDを製作し職員に配布

*専門の業者に依頼し、雲柱社の70年の歩みを約30分のDVDにまとめた。

②雲柱社創立70周年記念史編纂委員会の発足

*雲柱社創立70周年記念史編纂委員会を立ち上げ、石川和夫先生を主筆として刊行する。

③雲柱社創立70周年記念会の開催（VIIに詳細あり）

2008年度社会福祉法人雲柱社研修報告

I:2008年度研修の方向性と課題

1: 社会福祉法人が直面する時代状況と研修課題

社会福祉基礎構造意改革が進められて以来、社会福祉を取り巻く状況は急激な変化を遂げています。行政は危機意識を明確にし、組織変革や事業の枠組みの改革をどんどん進めていっています。ところが、社会福祉法人はこの変化に対して、認識の上でも、事業展開の上でも十分に対応が出来ていない状況にあります。雲柱社は、このよう状況を見ながらいくつかの改革を進めてきました。

その改革の中で最も重要な課題は、サービス提供の最前線に立つ職員の資質の向上とそのための研修の充実であります。また、社会福祉の主流が地域福祉となって行くことを踏まえながら、ブロック型から地域福祉型に移行していくことを視野に入れながら研修にとり組んできました。

2: 法人ミッションの理解と具体化を目指す研修の展開

今年度も法人事業基本理念（キリスト精神）を基盤とした研修を最重要課題として取り組んできました。すべての研修では礼拝を守り、聖書のみ言葉を学んできました。

職場では、毎朝聖書を読み祈りを持って仕事を進めるようにしてきました。

研修の中に必ず創立者賀川豊彦の思想と実践を学ぶ場をつくり、より広くミッションに触れる機会を設けてきました。

また、月1回程度、各施設では近隣教会の牧師さんを招いて、聖書の学びを行ってきました。年3回程度、礼拝に出席するなどして、教会との交わりも深めてきました。年々職員の中に占めるキリスト者の数が減少してくる中で、このような試みは不可欠であると考えたからでした。

3：法人の一員（組織人）としての資質向上を目指す研修の展開

今年度、法人は職員研修のスタイルを下記のような内容のもとに勧めてきました。

- ①法人の職員としての資質の向上－法人主体の研修－
- ②各ブロックごとに行う専門知識、スキル研修－各ブロックが中心となって展開－
- ③各施設が実施する職場内研修－OJT、SDSなど－
- ④Off・JTの実施－職場を離れての研修－

社会に対して社会福祉法人が果たす役割が重さを増してくると共に、その責任性も重くなってきました。サービスの提供に加えて、苦情対応、個人情報管理、安全安心対応など。職員が担う課題は増える一方であります。

職員ひとり一人が法人の公的役割を認識し、法人が置かれている状況を理解して現場に立つことができるための研修にも取り組んできました。

4：次世代管理職プロジェクトの立ち上げと会議の実施

事業の広がりに伴い管理職の養成が急務となってきました。

今年度から時代を担う管理職（40歳以上55歳以下）を対象に研修の場を持ち、21世紀に向かっての法人のあり方、事業の展開、研修計画などを中心に議論と作業を重ね、最終的には「第二次中期計画試案」を、理事会に提案することを目標に活動を開始しました。

今年度は、11月22日（土）、12月27日（土）1月31日（土）2月28日（土）

このプロジェクト活動は今年度も継続していく予定です。

5：松沢塾の継続

*月曜日の午前中を用いて、聖書の学び、法人報告、自己紹介、懇談等

*松沢塾は以下の目的の下に昨年度から実施してきました。

- ①法人のミッションをより深く理解する場として
- ②法人の現状を理解する場として
- ③法人に対して日ごろ疑問に思っていることを質問する場として
- ④参加メンバー同士の交流の場として

具体的には、理事長と数人の職員との学びと話し合いが主な内容です。

今年ではほぼ全職員との対話を終了することができました。

後半は管理職を対象に実施し、常務理事、理事長と3人前後の施設長を加えて話し合いを行いました。

6：ブロック間の交流研修と情報の交換

四つの事業部門を持つ当法人は、そのスケールメリットと専門知識、スキル、情報交換を相互に活かしつつ研修を展開して来ました。

*子ども家庭支援センターによる各施設への相談活動支援

*学童クラブ児童と支援センターの乳幼児と交流

*学童クラブの障がい児を理解するための研修支援

*協働プログラム（出前保育など）の立ち上げ

7：社会福祉研究室の設置と自主研修の活性化

今年度は図書の整理などを行いました。

各種研修が研究室をもちいて行われた。

ゆくゆくは、法人本部に社会福祉研究室としての内容を具備していきたいと考えています。

II：2008年度研修の展開

1：全職員に関わる研修（集会）

- ①法人全体会 2008年3月22日（土）すみだ産業会館

*礼拝 *新年度の三法人の方針 *永年勤続者の表彰 *新入職員の紹介 *辞令の伝達
*新規事業の紹介など

②アドベント礼拝 —12月上旬—

* アドベントの期間中に各施設が近隣の教会の礼拝に出席した。

③創立者召天記念墓前礼拝 2008年4月26日(土)

*創立者の召天日の前後の土曜日に、その墓前に集い礼拝を守り、その後、賀川豊彦にかかわりの深かった人の話を伺った。

*今年度は元祖師谷伝道所牧師 花森勳一先生からお話を聞くことができた。

2: 全体施設長研修

*第1回 2008年4月21日(月) 法人本部

・礼拝 ・キリスト精神に学ぶ ・法人の現況と今後の課題 ・各ブロック報告 ・他

*第2回 2008年10月19日(日) —20日(月) 青梅簡保の宿—1泊2日—

・礼拝 ・発題とディスカッション「法人における人材育成について」 ・報告 ・他

*第3回 2009年2月16日(月) 代々木全理連ビル

・礼拝 ・法人基本事業理念について ・2009年研修計画について

・次世代プロジェクト報告 ・新年度に向かっての現場の事務作業について

・社会福祉法人の現状と展望 ・各ブロック2009年度の課題

3: 主任研修

①保育ブロック主任研修

*礼拝 ・文献購読 ・研修の分かち合い ・各園報告 ・テーマに沿った研修

*第1回 5月20日(火)

*第2回 7月15日(火)

*第3回 9月16日(火)

*第4回 11月30日(日) —12月1日(月) 三浦半島 まほろば

*第5回 1月13日(火)

*9つの保育園の主任が一緒になって、現在直面している保育園の問題について学び話し合い研鑽を深めることができた。

②障がい児・者ブロック主任研修

*第1回 6月17日(火) ・11月26日(水) ・2月5日(木)

*聖書の学び ・法人ミッション研修 ・法人の現状と課題

4: 経験年数別研修

*法人の職員として、志を高く喜びを持って現場で働くためのミッション理解、経験に応じ職員として担うべき課題と役割の確認、同期の職員間の交流などを中心に研修を行った。

①新入職員研修 全5回

・礼拝、・事業基本理念研修 ・賀川豊彦の生涯に学ぶ ・新人のためのスキル研修

・実施日 4月19日 ・5月17日 ・6月14日 ・7月5日 ・8月23日

・最終回には反省会と懇親会を行った。

②2年目職員研修 2008年9月13日(土) 10月11日(土)

—礼拝 ・法人ミッション研修・賀川豊彦の「子どもの権利」・コミュニケーション力

*3年目職員研修 第1回 2008年5月23日(金) ~25日(日) —2泊3日—

第2回 2008年10月3日(金) ~5日(日) —2泊3日—

*山梨県北杜市

あさひ福祉作業所で田植え、稲刈り等の農業・鶏飼育・椎茸栽培等の体験研修

・夜はミッションについての研修

③5年目職員研修 11月—テーマに基づき職員の話し合いを中心とした研修—

④中堅職員研修 I (経験6年以上10年未満) 2008年11月29日(土)

*礼拝 ・ミッション研修 ・雲柱社の課題 ・他

- ⑤中堅研修Ⅱ（経験10年以上の職員を対象に）2008年11月1日（土）
 ＊礼拝 ・ミッション研修 ・キリスト教社会福祉論文講読、他
- ⑥パート職員研修－経験2年未満のパート職員を対象に－ 2008年6月7日（土）
 ＊礼拝 ・法人のミッションの学び ・法人の現状と課題 ・接遇マナー、
- ⑦パート職員研修－経験2年以上のパート職員を対象に－
 ＊11月8日（土） ＊1月24日（土）
 ＊礼拝 ＊パート職員の皆さんに望むこと ＊法人の現状と展望 ＊懇談

Ⅲ：ブロック別研修の展開

- ＊ ブロック別の研修は、各ブロックの施設長会において計画並びに、実施されました。
- ＊ ブロック別研修においては、各々のブロックの専門知識、スキルの修得を中心に展開されました。

1：保育ブロック

- ＊今年度のテーマ「保育と環境」
- ・2回の講演会を中心に、各園で実践を展開し、また、指定園の見学、ブロック全体会での研究発表などを行った。
- ＊食事担当研修－食育について、保育士との連携などについて
- ＊看護師研修－保育士との連携、子どもの健康、保護者への支援
- ＊園長研修－改訂保育所保育指針研修－1泊2日－

2：児童館（学童クラブ）ブロック

- ＊児童館ブロックリーダー研修（5回）
- ・聖書研究 ・組織のあり方 ・リーダーシップについて ・コミュニケーションなど
- ・館長・リーダー合同研修会
- ＊論文講読研修（4回）
- ・吉野源三郎、フロム、大塚久雄らの論文を読む。
- ＊わらべうた研修 ＊人形劇ワークショップ ＊講演会
- ＊学童クラブ研修リーダー研修（5回）
- ・学童クラブリーダーの役割について ・パート職員のOJT ・苦情対応について
- ・ケース研究 ・事業計画など
- ＊学童クラブ担当者全体会
- 「学童クラブに携わる者として」－発題と話し合い－
- ＊学童クラブ担当者研修
- ・PDCAについて ・ケース研究 ・子ども発達
- ＊2年目職員研修
- ・礼拝 ・キリスト教社会福祉について ・2年目職員の課題
- ・5年目職員研修
- ・礼拝 ・セツルメント運動について ・児童館事業の課題
- ＊館長研修－キリスト教社会福祉について、児童館ブロック事業計画、研修計画

3：子ども家庭支援センター（ファミリーサポートセンター）ブロック

- ＊虐待対策ワーカー研修（年2回）－仕事の状況、問題、悩み等を話し合った。－
- ＊若手職員研修－ケース研究（ロールプレイなどを用いて）
- ＊中堅職員研修－対人援助スキルの研鑽
- ＊ファミリーサポートセンターは都、区が指定する研修に参加した。
- ＊全体会－礼拝、2009年度に向けて、グループでの話し合い

4：障がい児・者グループ

- ＊第1回－礼拝、法人報告、講演会、他

*第2回全体会－アドベント礼拝、研究発表、他

*第3回全体会－研究発表、2009年度の向けて

*以上あげたのは法人並びに各ブロック内で実施された研修です。

*この他、各施設では行政が主催する研修やその他の団体が主催する研修（OFF-JT）にも多くの職員が参加した。

*各施設は年間テーマを定めて、施設内での研修も行った。

*職員各自が取り組むSDS（自己啓発研修）を奨励し、発表の機会などを設けた。

記入者（施設長）

武井まさ子

前文

2008 年度は第三者評価の利用者アンケートを受けた。「温かい雰囲気の中で子ども達が大切にされている、また私たち大人の事も受け止めてもらい、安心して」と温かい評価をいただいた。しかし、現実的に子ども達と保護者と関わっている保育者は悩む事も多くなっている。両面の支援の大切さ、難しさを感じさせられている。

保育指針が新しくなり、保育士の資質が問われてくるところで記録の取り方を学ぼうと今井和子先生にお願いして、子どものとらえ方、記録の仕方を 4 回にわたって学んだ。今後それぞれに反省、考察に力を入れていこう、子どもとしっかり関わっていこうと話し合う事が出来た。また、子育て、仕事で悩んでいる保護者も多くなっているので一緒に考えていける保育者集団でありたいと考えている。

一時保育も一年目を終え多くの人に利用してもらい、そこから地域のニーズも感じる事が出来た。

その中でもアレルギー児の対応をした事は好評だった。

保護者からセキュリティについて声が上がっていた門の設置は完成した。どなたでもどうぞお入り下さいという設立当時からはこちら側の思いとは異なる結果となったが、利用者からは大変喜ばれている。ここにも時代の変化を感じている。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：18 名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（1 時間延長後 30 分は自主事業）
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障害児保育事業実施（3 名受け入れ）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施(12 名)

イ 地域子育て推進

- ・ 育児講座 年 3 回実施
- ・ 退所児童との交流 年 3 回実施
- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年 28 名受入れ
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 園庭開放 毎日

- ・プール開放 夏期期間中120名ほど参加。とても好評だった。
- ・保育所体験 年13回・30人受入れ実施
- ・育児困難家庭への支援 (10名受入れ在籍)
- ・外国人児童受入れ (6名受入れ在籍)
- ・自園型年末保育 (7名)
- ・自主的取組 障害児との交流保育

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
つぼみ	0歳	6名(2名)	18名		午前フリー、看護師
たんぽぽ	1歳	4名(1名)	20名		午前、午後フリー
ちゅうりっぷ	2歳	4名	24名	1名	午前フリー
花	3歳	3名(1名)	26名	2名	午前フリー
星	4歳	2名	26名		
月	5歳	2名	25名		
延長		1名			
一時保育		2名(1名)	10名定員		(フリー)
他朝、夕、土曜日の保育士		25名(25名)			
合計		55名(30名)	140名	3名	

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 296 日
24日	24日	25日	26日	26日	24日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	23日	27日	23日	23日	25日	

ウ 健康管理

健康診断

- 乳児 毎月
- 幼児 年2回(5月、11月)
- 歯科検診 年1回(6月)
- 蟯虫卵検査 年1回(6月)

エ 保 育

各組の保育目標

つき組（5歳児）の年間目標

- ・ 様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ・ 様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。
- ・ 健康、安全に必要な基本的な習慣や自主、自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ・ 様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ生活の経験を広げる。
- ・ 異年齢や様々な人と関わる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
- ・ 人の話をよく聞き、自分で考え自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ・ 自分の持つ好奇心や知的探究心を働かせる事により、考える力が育ち、表現力が豊かになり、感じた事や思った事、想像した事などを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題 自分の思いを通そうとする傾向の子が多く、その都度話し合いをし、自分の思いを伝え、相手の思いを聞く事をしてきた。自分の思いばかりを優先させると友達から指摘を受け、その思いを担任と話し合う事で子ども達だけで話し合えるようにもなった。製作などは、やりたい子だけでしていると、周りが興味を持ち出し自然に広がっていった。運動会・クリスマスは、「やりたくない」「役がいや」と話し合いで決まらず、お互いに譲歩するところでの葛藤もあったが、その葛藤が子どもたちの意欲を育ててくれることになった。

ほし組（4歳児）の年間目標

- ・ 一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ・ 友だちと遊ぶ事の喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
- ・ 意欲的に色々な事に挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・ 健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ・ 人の話を聞いたり、自分の経験した事や思っている事を話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ・ 自然や身近な事柄にふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、その事を表現しようとする。

年間目標 評価・課題 全般的に穏やかな甘えん坊が多く、一つ一つのことを大人に訴えてくるので、自分の思ったことを皆の前で話せるような場面を設け、「話す」「聞く」という経験が出来るようにしてきた。また、サッカー・中当て・鬼ごっこを通して皆で遊ぶ楽しさを知る中で、お互いの思いを理解する事が豊かになって行った。時に気持ちの持ちようが定まらない子に関しては、個別の関わりをしたり、あえて集団の中での自分の立場などに気付けるようにして行けたのは良かったと思う。

はな組（3歳児）の年間目標

- ・ 生活が自立してくる事で自信を持ち、自分のやりたいことが表現できるようになる。
- ・ 外遊びを十分にするなど遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。
- ・ 食事・排泄・睡眠・衣服の着脱などの生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ・ 自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ・ 様々な物を見たり触れたりして、面白さ、美しさなどに気づき感性を豊かにする。

年間目標 評価・課題 一人ひとりが自分を出し、大人に関わって欲しい気持ちの子が多く、思いの出し方も攻撃的だったり、変化球のようだったりとその一つ一つの対応が難しかった。また、障害の子2名が多動でそこに大人の手と思いが分散されてしまう傾向があった。自分の感情、友達の思いを言葉に変えて伝えるようにしてきたことで、少しずつコントロールする力はついてきたが、大人主導の遊びでないとクラスがまとまらない状況がおおかった。その中で友達と一緒に遊ぶ姿も見られるようになり、適度に子どもたちに遊びを委ねるようにしてきた。

ちゅうりっぷ組（2歳児）の年間目標

- ・ たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け入れてもらう事で、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ・ 身体を動かす事が楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ・ 簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ・ 保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ・ 大人やまわりの事に興味を持ち、見立て、つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

年間目標 評価・課題 自分をしっかり主張してくる子どもたちなので、その中で思いを汲むようにしてきたが、子どもたちの出し方が激しいので、どう関わって行ったら良いかを常にクラスで話し合ってきた。その中で、感触あそび（水遊び・豆遊び・米とぎなど）一人一人の遊びを保障しあう空間をつくと、本当に集中してじっくり遊び出した。保育士と思いを共感し、達成感を味あう中で信頼関係が作られていった。また、お友達と思いを共有して遊ぶ力もつき、皆で遊ぶ力が付いてき、人との言葉のやり取りも増えてきた。子どもたちの表情が明るくなった1年であった。

たんぼぼ組（1歳児）の年間目標

- ・ 一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と、情緒の安定を図る。
- ・ 保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い身体を動かすことを楽しむ。
- ・ 安心できる保育士との関係の下で、食事、排泄などを自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ・ 安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ・ 身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心を持つ。

年間目標 評価・課題 友だちへの関心が高まり、叩いたり、噛んだりが多く、一人一人の子どもへの対応が常に必要でした。同時に自分の中で揺らいでいる気持ちの表し方や表現方法が分からず、クラス全体が落ち着かない状態であった。まずは、子どもたちとの関係を作るために「感触遊び・感覚遊び」をし、心の開放を試みた。また、思いを言葉に変えることを繰り返すことで、子どもたちも安定し、自分の遊びをしっかりと出来るようになってきた。

つぼみ組（0歳児）の年間目標

- ・ 一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ・ 安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を変えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ・ 保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快

適な生活が出来るようにする。

- ・ 一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
- ・ 個人差に応じて離乳を進め、色々な食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ・ 優しく語りかけたり、発生や喃語に応答したりして、発語の意欲を育てる。
- ・ 聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
- ・ 安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを見たり、触ったりする機会を通して、身のまわりのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題 子どもたちが全体的に落ち着いていたので、丁寧に声掛けをし、一人ひとり丁寧に関わることを心がけた。日々の生活全般では、手順を同じようにし、生活の見通しを持って安心できるように努め、個々にあわせて生活リズムを整え見通しを持てるようにしたことで、大人との信頼関係をつくることが出来た。一方のグループではなかなか話し合いが進まず、子どもたちの状況をつかむのも難しかったので、何を大事にして保育をしていくかを話し合っていくようにした。気になる子に関してはお家の問題ではなく、園でどう関わっていくかを話し合うようにしたが、もう少し早く話し合いを進めるべきだったと反省する。

つくし組（一時保育）の年間目標

- ・ お家の生活リズムにあわせながら、安心して過ごせるようにする。
- ・ 安心できる環境・人的環境を考え、居心地の事の良い空間を提供していく。
- ・ 思いを受けとめ信頼関係を作り、情緒の安定を図る。

年間目標 評価・課題 半年間の実績を積んでのスタート。とは言え新学期は初めてです。今まで利用してくれていた方が幼稚園に入ったり、入所が決まりメンバーが変わって来たが、一人一人を大事にし、落ち着いてゆったり保育で子どもたちも自分のお部屋という感じで利用している。お散歩保育・アレルギー食・育児相談・など親御さんにとっても安心して預けられる場所になり、利用者は増えてきている。また、お誕生日会や園庭では保育のお友達と一緒に遊ぶこともあり、交流も芽生えている。利用者の負担を考え、多少ではあるが料金を下げることにした。

2008 年度実施行事

- 4月 3日 入園式 ・ 保護者会総会（19日）
- 5月 日 保護者懇談会(随時各クラス) ・ 個人面談
- 6月 日 歯科検診・歯磨き指導・保育参観・学童訪問
- 20日 救命救急法講習会
- 30日 プール開き・地域プール開放
- 7月 5日 地域お楽しみ会
- 12日 1年生の会
- 14日 地域食事講座
- 18日 0歳父親懇談会
- 19日 5歳児お泊り保育
- 26日 まきばの会（ケアーの必要な子を支える会）

- 9月 12日 Wercomeday (敬老の集い)
- 10月 4日 地域食事講習会
18日 運動会
21日 防災訓練 (賀川と合同)
幼児遠足
- 11月 8日 秋祭り
19日 感謝礼拝・感謝訪問・歯科検診
クラス懇談会(随時各クラス)
- 12月 20日 クリスマス会・OBと地域のクリスマス会
- 1月 9日 餅つき会
- 2月 日 保育参観・懇談会・年間総括
- 3月 日 新入児説明会・お別れ会食
14日 卒園式
18日 卒園遠足
26日 進級を祝う会
- 月例行事 誕生会・避難訓練

年間行事 評価・課題 一つひとつの行事が子どもにとってどういう意味があるのかを検討し、確認しながら、大事にしていきたいものは残し、日々の保育の中で大人と子どもがゆっくり、過ごせる時間を多く持てるようにしてきた。目的ねらいの確認もし、次年度に向けてのあゆみも作れた。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 4 回
栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題 年度初めに愛の園の調理目標を作り、そこに目標を置きながら子どもと食事を考えながら調理してきた。定期的に調理委員会を開き、目標の確認をしながら愛の園の「食事」を皆で確認しあえたと思うし、これからも続けて行こうと考えている。家庭での食事のあり方が気になっているところで、子どもの食の基本をどこに据えるかも確認しあい、健康の為の薄味・食材選びなども考慮しながら、楽しく食事をするために保育士と調理担当が話し合い食育について考え合ってきた。

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練 毎月 1 回 隔月は夕方
引き渡し訓練の実施 (10月 21 日)

安全管理 評価・課題 非常災害時に関しては、職員や子どもが災害時、混乱することが少しでも少なくなるように毎月の避難訓練には力を入れてきた。また、隣の障害児・者の施設と合同の総合訓練を消防署立会いの下に消化訓練、通報訓練もしてきた。

防犯の面では防犯用のカメラや防犯ブザーを設置したり、新たにセキュリティの門を設置し、不審者侵入防止対策をしてきた。不審者の件では市の子育て支援課、警察との地域連絡体制をとっており、連絡(メール)が入ると玄関に掲示し、保護者に伝えるようにしてきた。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	19名
調理員	3名 (栄養士含む)
看護師	1名
嘱託医	2名 (非常勤)
臨時職員、パート職員	30名

イ 健康管理

健康診断 年 1 回 (7~9 月)
 細菌検査 年 12 回
 給食、0歳児調乳担当のみ毎月 1 回

ウ 職員会議

定例会 毎月 2 回
 行事前打合せ会 (随時)
 期別反省会 (年 4 回)
 リーダー会 (月 1 回)
 乳児・幼児打ち合わせ会 (週 1 回)
 クラス別打ち合わせ会 (月 1 回)
 調理委員会(月 1 回)

会議 評価・課題 月 2 回職員会議を持っている。1回は牧師先生に来ていただいて、聖書の学びをした後、諸問題について話し合い。2回目は学習会とし、今年度は 2009 年 4 月から保育指針が変わる事の中にある保育士の資質の向上から、子どもの見方、記録の取り方の学びをし、次の保育に役立つ記録などの書式を考えてきた。その他に幼児ブロック・乳児ブロックのそれぞれの会議の中で、自分たちの抱えている悩み問題をじっくり話し合う事によってお互いの保育を知り、理解しあう関係ができていった。リーダー会では気になる子の話しを中心に話しをした。また、保育の中身の事、園内に起こっている問題を話し合い共有し合う会にしていくことも確認しあった。

エ 研修報告

- 法人内研修
- 園内研修
 - ・牧師先生に来ていただいて聖書の学びをしている。

- ・講師にお願いして*記録の取り方、子どもの見方について(7月、9月、11月、12月)に学ぶ
- ・発達の気にかかる子の巡回指導 (月1回)

○法人外研修

- ・小金井子ども地域ケア一連絡会
- ・子どもの文化学校研修
- ・キリスト教保育所同盟
- ・民間保育園協会研修
- ・東社協保育団体研修 食事研修

研修 評価・課題 法人内、法人外の研修に参加し、その報告を職員会でしてもらい、皆のものとなるようにしてきた。法人外の研修は新人のための研修や年齢別、保護者との関わり、食育等に参加し、共有してきた。法人の研修では法人の理念など学ぶことが出来た。また職員全員が環境というテーマで話が聞けたことは良かった。松沢塾への出席は昨年行かなかった人が参加した。

オ 退職・福利厚生

- 社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
- 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- 財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理 (出勤管理、有給休暇管理 等)

イ 児童処遇事務 (保育、給食、健康管理)

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題 ・子ども達一人ひとりの成長を考えていく上で指導計画の充実に努力している。

・アレルギー児がますます増えてきて、食材が広がってきているので大変な面はあるが、医者、看護師、栄養士、保護者と話し合いながら、他の子とあまり変わらない物が提供できたのは良かった。子どもの食育を考える上で一人ひとりの食事について保育者と調理側が調理委員会などを通し考えながら進めてこれたのはよかった。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

- ・セキュリティの門の設置
- ・オゾン空気洗浄器設置(0歳クラス)

- イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新
 - ・全クーラーのメンテナンス

設備関係 評価・課題 保護者から声のあった防犯に関してセキュリティーの門を設置した事で保護者からは喜ばれた。古くから使われているクーラーなどのメンテナンスを行った。又痛んだ場所の修理が多かった。
0歳児で感染症の流行が気にかかるので市内の園の情報ももらいオゾン空気洗浄器を取り付けた。(リース)

(3) 備品関係

- ア 備品購入
 - ・電話機取り換え
- イ 保育用品購入
 - ・砂場の砂の取り換え
- ウ 給食用品購入
 - ・食器補充
- エ 固定資産物品購入

備品関係 評価・課題
子ども達が安心して落ち着いて遊べる環境づくりのためにおもちゃを充実させた。
少しずつ各クラスの棚の設置も考えているところ。

(4) 災害対策

- ア 避難訓練
 - 毎月1回
- イ 防災設備の点検委託
 - 年2回(内、届け出1回)
- ウ 非常食糧の備蓄
 - (全園児数+全職員数)×3食×(1日~3日)分

災害対策 評価・課題 月に一回避難訓練を行なう中で子ども達は、火事、地震などが起こったらどうしたらよいかの話を開き、避難の仕方も上手になってきている。非常食も防災訓練の日に昼食として食べながら、本当に地震が起こっても保育園には食べるものがとってある事を伝えるとともに、在庫のものを新しいものと取り替えるようにしている。

3 地域社会との連携

- ・地域の子育て中の家庭を対象に母子通園、プール開放、育児講座、お楽しみ会などをおこなった。

地域社会との連携 評価・課題

- ・園に入所している家庭で気になる家庭の事を近隣にある子ども家庭支援センターと連絡を取りながら必要な場合には児童相談所、保健所、市の子育て支援課などと定期的に話し合いを持ってきた。昨年送致された子どもの妹がまだ通ってきているため親からは恨まれ罵倒されながらも受け入れを行ってきた。上の子どもは帰りたくないと言い、施設で元気にしているとの事なのでホッとしている。しかし親との関係は切れたまま。妹の事も目を離せないので関係機関と連絡を取り合ってきた。
- ・地域に向けてのお楽しみ会、プール開放などはとても喜ばれている。また育児不安があり、週一回母子通園で来られていた家族も子どもを一時保育で預かるようになり、そこで子どもの気になる事の相談は引き続き受けてきた。そしてこの4月幼稚園に入園した。一時保育も利用者が増えてきており、その中には支援センターの紹介による利用者も増えている。

社会福祉法人 雲柱社 五日市保育園 2008（平成 20）年度 事業報告

記入者（施設長）小山 正弘

前文

- 法人内の保育環境研修では当園が当番園になった。これに合わせ、クラスの保育の様子をビデオに取り合い DVD にまとめることになった。これを作成するにあたり、話合いの時間を重ねたことで、職員同士の共通理解・確認を行うことができたのではないかと考えている。また、リーダーを中心に正規職員からパート職員にも DVD を通して説明することで、全職員が同じ方向性で保育環境を整えていくように意識することが出来たと考えている。また他保育園の見学研修も行う。見学先は絞り、そのレポートを見せ合いながら、共通理解を高めていくことが出来たと考えている。「玩具のアルバム」づくり、「行事計画書」のマニュアル化、などを行い一過性のものとして終わってしまうことがないように(積み上げていくことができるような)準備に着手することが出来た。
- 4月は90名スタート。途中入園のニーズに応え、年度末3月で95名となる。（定員97名）

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：6名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（1時間延長）
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障害児保育事業実施（その他：5名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年 27 日受け入れ
- ・ 保育所体験 年 10 回実施
- ・ 出前保育 年 1 1 回実施
- ・ 年末保育 1 2 / 2 9 ・ 30 に実施。

(2) 児童の処遇

ア クラス編成（3月現在）

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
つぼみ	0歳	3名	9名		+看護師
たんぽぽ	1歳	2名	10名		+パート1名
ちゅうりっぷ	2歳	2名	12名	2名	+パート1名
れんげ	3歳	2名	20名	2名	+パート1名
すみれ	4歳	1名	22名	1名	+パート1名

いちよう	5歳	1名	22名		
合 計		11名	95名	5名	

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 294 日
24日	24日	26日	25日	27日	24日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
25日	24日	24日	23日	22日	26日	

ウ 健康管理

健康診断

- 乳児 毎月
- 幼児 年2回（4月16日、10月15日）
- 歯科検診 年1回（6月25日）
- 蟻虫卵検査 年1回（5月16日配布。19日回収）

エ 保 育

各組の保育目標

いちよう組（5歳児）の年間目標

- ①神と人から愛され、自分が欠けがいのない存在であることを感じる子ども
- ②健康で体力のある子ども
- ③自分で出来ることを自分です。また、意欲的に物事に取り組む子ども
- ④友達と遊ぶことを楽しむ子ども
- ⑤色々な人との関わりの中で相手を思いやりつつ、自己発揮できる子ども
- ⑥自然や命あるものとの出会いを大切に、豊かに感じとり、表現する子ども

年間目標 評価・課題

子どもたちは、お泊り保育やクリスマス会を通して団結してひとつのものを作り上げる喜びを経験することが出来たのではないかと感じている。幼さを感じる子どもが例年よりは多いかと感じられたが、保護者との情報交換もスムーズに行われ、子どもたちも安心して過ごせたのではないかと感じられる。小学校とも早めに情報交換を行う。

すみれ組（4歳児）の年間目標

- ①保育士との関わりの中で、自分が大切にされ、安心して自分が出せる子ども
- ②身近な遊具や用具を使い、体を十分に動かし楽しむ子ども
- ③自分で出来ることを自分です。
- ④異年齢児に関心やいたわりを持つ。簡単なルールのある遊びを楽しむ子ども
- ⑤自然事象、動植物への関心や愛護の心、身近な社会事象などにも興味関心を持つ子ども

年間目標 評価・課題

室内のコーナー保育は春先から整えられ、子どもたちの活動がスムーズに進められてきた。いつも同じ流れで進められたので、保育の流れが子どもたちにも理解でき、子どもたちが自分で出来る部分が少しずつ多くなってきたのではないかと感じている。ルールを守りながら友達と関わる点・遊びの広がりについては、今後の課題として残ったかと思われた。

れんげ組（3歳児）の年間目標

- ①保育士との関わりの中で、自分が大切にされ、安心して自分が出せる子ども
- ②散歩や戸外遊びなどで、自ら楽しんで体を動かす子ども
- ③身の回りのことで、自分で出来ることをしようとする。
- ④ごっこ遊び等友達と仲良く遊びを楽しむ子ども
- ⑤身近な自然や小動物に興味をもつ子ども

年間目標 評価・課題

気になる子が二名在籍する上、その他にも話しを落ち着いて聞いてもらえない子どもが何人かいて、クラス担任も大変な状況がみられた。気になる子に関しては補助のパート職員にも記録をとってもらい、お互いのかかわり方の調整をするために、情報交換ノートを用いる。複数担任ではあるが、シフトの関係からひとりとは他のクラスに入らざるをえないケースも多々あり、二人で連携をとりながら仕事を進めていくことが難しかったかと思われた。少しずつ慣れて落ち着いたクラスになっていったと感じられる。

ちゅうりっぷ組（2歳児）の年間目標

- ①自分の要求を大人の援助を受けながら言葉で伝えようとする子ども。
- ②体を思い切り動かして遊ぶ子ども（走る、はねる、飛び降りる等）
- ③保育士に声をかけられながら、自分で出来ることをしようとする子ども
- ④少人数の友達と関わって遊ぶことを楽しむ子ども
- ⑤身の回りの事物や自然などに興味を持つ子ども

年間目標 評価・課題

このクラスも気になる子が二人在籍している。そのうち一名は家庭環境やリズムにも気になる点があり、そのため、散歩に十分にいけなかったり、室内外共に落ち着かないと感じられた日もあったが、職員の連携プレーにより、だいぶ落ち着いたクラスとなったと感じている。関係機関との連携をとりながら保育にあたる。2歳児室は朝夕・延長保育時間にも使用するため、室内の環境の作り方は大変難しいものであると感じている。

たんぽぽ組（1歳児）の年間目標

- ①保育士に受け止められながら、自分の世界を広げていく子ども
- ②自由に体を動かして遊んだり、色々な道具を使い一人遊びを楽しむ子ども

- ③自分でしようとする気持ちを持ちながら、少しずつ基本的な習慣が身についてくる。
- ④大人からの話掛け絵本を喜び、自分でも片言話すことを楽しむ子ども
- ⑤子ども相互のふれあいや、人とのふれあいを経験する。

年間目標 評価・課題

最近にしては人数が少ないこともあったかもしれないが、室内環境が整えられて、子どもたちはだいぶ落ち着いた生活・遊びが出来ていたのではないかと感じられる。食事も担当制でゆっくりしっかりとる体制が身についてきており、落ち着いたクラスとなった。基本的な生活習慣はそれぞれに出来ているクラスであった。

れんげ組（0歳児）の年間目標

- ①特定の保育士との愛着関係が出来、安心して過ごせる。
- ②はいはい、伝い歩き等を経ながらしっかりと歩けるようになっていく。
- ③基本的な生活習慣が芽生え、徐々に離乳食が完成していく。
- ④簡単な言葉を理解したり、言葉を発したり、大人の真似を楽しむ。
- ⑤身近な人の働きかけや言葉かけを通して、身の回りのものに関心を示す。

年間目標 評価・課題

ゆるやかな担当制をとり、それぞれに安心出来る愛着関係が出来たのではないと思う。年度当初から園児数が大きく変わらず、年度途中における職員の動きの変更もなかったため、例年に比べると大きな混乱が生じることはなかった。毎年月齢のさまざまな子どもたちがいるので、室内外に用意するおもちゃの類をより充実させていきたいとかがえている。

2008年度 実施行事

4月	1日	入園式・進級式
5月	15日	遠足（幼児は親子遠足）
6月	13日	花の日。老人ホーム訪問。
7月	5日	夏祭り
7月	10・11日	お泊り保育
7月31日・8月1日		卒園児キャンプ
9月	19日	祖父母の集い
10月	18日	運動会
10月	30日	2歳クラス親子遠足
11月	7日	遠足(2歳クラス以外)
11月	14日	感謝祭・豚汁大会
12月	20日	クリスマス会
1月	5日	新年挨拶会
1月	10日	6年生同窓会
3月	14日	卒園式

月例行事 誕生会 園開放

年間行事 評価・課題

園庭開放は月に一日程度実施しているが、特に決められた日以外でも来ていただいて良いように案内している。特に宣伝はしていないが、人から人へ伝えられ、実施日は数人遊びに来るようになる。今後の課題としては、園内の雰囲気・子どもの様子を見ていただきやすい企画を考えてみるることかと思う。今年度からは誕生日会とは別に、園児の誕生日当日には誕生日シールを子どもの胸に付け、「おめでとう」と声を掛けることにしたが、子どもたちや保護者の方はとても喜んでくれている。（例えば一緒に室内で遊んだり、給食を食べたりする日を設けるなど）

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年4回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

- ・乳幼児期における成長・発達を促すエネルギー量、たんぱく質量を考慮し、季節感を取り入れ、栄養素のバランスのとれた献立を作成し、実施することが出来た。
- ・今後も引き続き、子どもたちに食の大切さを伝えていきたい。（畑での野菜づくり・クッキングデー他）

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練（月1回）

引き渡し訓練の実施（9月8日）

安全管理 評価・課題

小学校のグラウンドを使い引渡し訓練を行う。並び方・引渡し方、いつもと違う人がお迎えに来たときの想定など色々なケースが考えられるので、更なる共通理解が必要であると考えられた。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	10名
産休・育休職員	1名
調理員	3名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	1名（非常勤）

臨時職員、パート職員 32名

イ 健康管理

健康診断 年 1 回 (10 月 24 日)
細菌検査 年 12 回 (全員)

ウ 職員会議

定例職員会 毎月 1 回
事前リーダー打ち合わせ会
乳児カリキュラム会議・乳児クラス打ち合わせ 毎月各 1 回
幼児カリキュラム会議・幼児クラス打ち合わせ 毎月各 1 回
反省会 (1月17日)
非常勤職員研修

会議 評価・課題

事前にリーダーと議題を確認してから始めているので、各打ち合わせがスムーズに行われるようになってきている。内容にもよるが、役割を分担し、職員主導でどんどん進めていくことが出来るように整えていきたいと考えている。

エ 研修

- ・園内研修 毎月 1 回
- ・法人内研修 (階層別研修・職種別研修・他職場体験研修等)
- ・他保育園見学研修
- ・その他研修

研修 評価・課題

パート職員が多く在籍しており、職員会議に出ていない職員には決定事項が伝わりにくい。そこで今年度は昼間・夜の時間をつかい、パート職員研修を充実。決定事項の伝達とともに研修を行うことが出来た。パート職員はその勤務時間の関係から日常的にあまり会わない職員同士もいるので、これを機会に関係が蜜になり、良かったのではないかと感じている。法人内の研修は、その内容が多岐にわたっており、充実していたと思われる。特に法人の使命としての精神に毎回触れることが大切だと思われた。保育内容については、皆が同じ他施設の見学研修に出掛けることで、共通のイメージが出来、とても大きな刺激になる。今後の検討課題として大いに役立つと感じている。学んできたことをそれぞれの職員が「感じ」、情報交換する場を積極的に作り出していくことが、これからより必要になるだろうと思われる。

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入

東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

会計事務においては整理が進んでおり、業務も行いやすくなってきている。今後はパソコン等の導入で更なる業務の効率化を目指したい。事務所内もそのために整え始めることが出来た。児童処遇事務においては、より实际的に生きる書類となるように書式などを検討しているところである。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

設備関係 評価・課題

「環境整備チェックリスト」に基づき、職員が分担された箇所を定期的にチェックする。今まで気付かなかった点が報告されることもあり有効である。中には設備上の問題ですぐに直せないものも出てくるが、安全に関わるものについては、臨時的な対応をしながら、なるべく早く解決していけるように努めたい。

(3) 備品関係

ア 備品購入

イ 保育用品購入

ウ 給食用品購入

エ 固定資産物品購入

備品関係 評価・課題

子どもがその興味・関心に応じて遊び、また生活の場面においても各々の空間が保障されるように、コーナー的な室内のつくりを必要とする。少しずつではあるがおもちゃの棚・

ままごとセット・しきり等を購入し、全体的に充実してきている。今後も家庭的で落ち着けるような雰囲気的环境づくりを目指し、少しずつ整えていく。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回(4/13、3/26の2回。)

ウ 非常食糧の備蓄

○(全園児数+全職員数)×3食×(1日~3日)分

災害対策 評価・課題

避難訓練はほぼ予定通りに行われ、非常食糧の備蓄も出来ている。ただより現実的に災害を想定して訓練を行う為には、土曜日・朝夕・延長保育時間等、職員の数人が少なくなっている時間帯・曜日での避難訓練をしていく必要があると感じられた。

3 地域社会との連携

地域社会との連携 評価・課題

近隣の老人ホームや障害者施設とは行事等を通して交流を続けている。特に障害者施設は近いこともあり、散歩のときにお互い立ち寄りなど無理なく継続した交流が出来ている。小中高生の職場体験等も可能な限り受け入れ、様々な人との交流が出来るようにしている。はじめ慣れない子どももいるが、ほとんどの子どもは喜んで関わりをもっている。

4 その他(特記)

(1) 卒園児キャンプ・・・7/31・8/1日。伊奈キャンプ場。31名が参加。

(2) 6年生同窓会・・・1/10日。保育園内で実施。

(3) 母親講座・・・1/10。小学校の校長先生から「今の小学生の姿から学ぶ」。20名の参加。

記入者（施設長）

伊藤 美代子

前文

- 新保育所保育指針の告示化に向けて、保育ブロック全体で保育課程の見直し作業を進めてきた。もちろん、神愛保育園としても園長はじめ職員がいろいろな研修に参加して、会議などで職員全体の共通理解が進むよう努めて来た。新しい保育指針だが、大切にしたいことはいままで神愛が考え実践してきたことと大きな差異はないと思っている。新たに取り組むこともあるが、社会の変化に目を留め、求められることを実践していきたいと思う。
- 子育て支援は16年目を終わり、色々と変化するところもあった。大きなところは『5時間開所』である。必要性は感じながらも狭い園舎で難しいと足踏みしていたが、実施してみて、求められる所はここにあったと思わざるを得ない位、利用者数が増えてきた。保育室のすぐとなりであることで、利用者にとっても園側にとっても工夫していく余地はまだたくさんあるが、子育て支援のスタッフだけでなく、職員みんなで考えながら進めていきたい。
- 卒園児支援のプログラムは多い。これらの事業を正規職員が減った中で続けていくことは更なる工夫が必要だと思う。神愛の大事な柱として続けているこの事業をしっかりと継いでいくために、今までの既成概念にとらわれずに考えることが求められてくるだろう。
- 第三者評価の利用者調査に表れた「保護者の意見」を職員皆で共有し、対策を施した。もちろん全部にこたえられるわけでもなく、またその必要もないと思うが、できるところ、必要な所は誠実に変えていきたいと思う。
- 保護者への発信も積極的に園便りに日誌の掲載をしたことも大きな意味があったと思う。これから日誌の掲載を通して少しずつ理解が進むことを願っている。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（1時間延長）
- ・ 延長保育事業（零歳児のスポット受入れ）
- ・ 障碍児保育事業実施（今年度は在籍2名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 育児講座 年6回実施
- ・ お年寄りとの交流 年10回実施
- ・ 退所児童との交流 年6回実施

- ・小中高生の育児体験受入れ 年 20 日間受入れ
- ・育児相談 随時実施
- ・保育所体験 年 10 回・22 人受入れ実施
- ・出前保育 年 11 回実施
- ・子育てサークル支援 年 10 回実施
- ・子育て情報誌の発行 年 5 回発行
- ・育児困難家庭への支援 (2 名受入れ在籍)
- ・自主的取組 障害児との交流保育

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
つくし	0 歳	3	9	0	
たんぼぼ	1 歳	2	10	0	
もも	2 歳	2	14	0	
ちゅうりっぷ	3 歳	1	16	0	
ひまわり	4 歳	1	15	0	
ひまわり	5 歳	1	15	2	
子育て広場	その他	1			
合 計		11	79	2	

イ 月別保育日数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合 計 293 日
25	24	25	26	26	24	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
26	23	23	23	23	25	

ウ 健康管理

健康診断

乳児	毎 月
幼児	年 2 回 (5 月、 10 月)
歯科検診	年 2 回 (6 月、 10 月)
蟯虫卵検査	年 2 回 (6 月、 10 月)

エ 保 育

各組の保育目標

ひまわり組 (4・5 歳児) の年間目標

好きな友達やクラスの仲間と一緒に遊ぶ楽しさを十分に味わう。

様々な活動や遊びに意欲的に取り組んで行く。

自分なりのイメージを表現することを楽しむ。

自分の好きなこと、得意なことがあり、友だちのものも知り、皆で認め合うことで自身になっていく。

人の話をよく聞き、自分なりの考えを持ち、自分の気持ちを言葉で伝えることができる。

年間目標 評価・課題

障がい児2名を含むクラス集団だったが、クラスの一人としてしっかり認め合い生活してきた。話を聞くという場面でも大分落ち着いて聞けるクラスでもあった。子どもたちから出たアイデアを活かしながら活動を組み立て、楽しみを十分に広げられたことは評価できる。

この1年も、たてわり保育を考えながら3・4・5歳児の保育も考えた。園内で研修を重ねながら、これからにつなげていきたい。2009年度は具体的に動いていきたい。

(4歳児)の年間目標

自分が思ったり、考えたことを言葉で伝えあい、相手のことも受け止められるようになってくる。

年間目標 評価・課題

4、5才混合クラスの中の年中児は、ちょっと中途半端な感じになりがちだが、はじめから一緒に考えるということでスタートしたので、全くそんな感じはなかった。特に何人かの子は隣のひだまりの赤ちゃんをかわいがり頼りにされて、お兄ちゃん気分もあり頼もしかった。

ちゅうりっぷ組(3歳児)の年間目標

生活する中で自分でできることが多くなり、大人が受け止めていく中で自身が持てるようになる。「ぼくが、わたしが」と自分でやって見たいと思うようになる。

身体を動かして遊ぶ楽しさを十分味わえるように、泥んこ遊び、水遊びなど年間を通して様々な遊びを楽しんでいく。

大人に見守られながら、生活の流れが分かるようになり自分で身の回りのことが少しずつで切れるようになってくる。

経験したことや楽しかったことなど、大人や周りの友達に伝えていくことが楽しいと感じられる。また自分の思いをたくさん出していく中で、少しずつ相手の思いに気付いていくようになる。

ごっこ遊びを十分に楽しみイメージを広げていき、その中で友だちとの関わりが楽しいものとなってくる。

年間目標 評価・課題

外遊びが大好きでたくさん外での遊びを楽しんできた。中には、部屋の方が好きな子もいるが、「ごっこ遊びを中心に」部屋でじっくり遊んでいる。どちらにしてもたくさん遊んでいく中で、友達同士の関係はより親密になってきている。

個別に見ると気なる姿のある子はいるが、丁寧に関わりながら子どもたちの変化を見て生きたい。重度のアレルギー児がいる中、調理活動や絵の具の活動に前向きに迎えたことは評価できる。

もも組（2歳児）の年間目標

沢山の自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して自分の気持ちを出せると共に、自分の気持ちを切り替えられるようになる。

自分の好きな遊びをじっくりと遊んだり、さまざまな遊びを通して他の子どもたちと遊ぶのが楽しくなり、一緒に遊びたいと思う仲間ができてくる。

日々の様々な体験の中で感じる嬉しさや楽しさ、新しい発見などを

大人や他の子どもに伝えようとしたり、思いがぶつかった時には「どうしようか」と少しずつ考えようとする。

絵の具や土粘土など様々な素材に十分触れて、のびのびと表現活動を楽しむ。

年間目標 評価・課題

子どもたちの自己主張に対して、保育者はそれぞれの気持ちに耳を傾け、受け止めてきた。また、あまり出せない子にはその子の思いを代弁することで少しずつ思いを出せるようになってきている。好きな遊びをじっくり楽しむという点でも打ち込んで遊ぶ姿をたくさん見ることが出来る。遊びが見つからなかった子も、視野が広がり集中して楽しめるようになってきた。子ども同士の関わりも多く見られるようになり、一緒に喜んだり素直に自分の思いを相手に伝えられるところはすごい。表現活動（粘土）は保育者の計画性のなさが大きな反省として残った。

たんぼぼ組（1歳児）の年間目標

保育しに親しみ、安定した中で十分に自分の思いを出す。

一人ひとりが自分の興味あるものに向かい、好奇心をふくらませ、じっくりと満足するまで探索活動を楽しむ。

他の子や保育士と一緒に遊ぶことを楽しむ。

歩いたり全身を動かして遊ぶことを楽しむ。

年間目標 評価・課題

子どもの遊具、遊びについていろいろな取り組みをした1年だった。東間先生の研修を受け積極的に可動遊具を作成し子どもの姿を見ていった。戸外では、砂場遊びに焦点を当て、意図的に関わってきたがおもしろい子どもの姿を共有できた。少人数でじっくり遊べるようにしたいと思い努力を重ねてきた。子どもたちは興味のある物、好きな遊びを通して関わりが見られ、誰かと遊びたいという気持ちが育ち始めている。

つくし組（0歳児）の年間目標

園と家庭とで連携して、24時間の生活リズムを大切にすることで、気持ちよく過ごす。

大人とのかかわりの中で、様々な欲求や要求を十分に受け止めてもらい、信頼できる大人の存在ができ、その大人を介して、周りの人や物へと興味を広げていく。

姿勢を変えたり、移動、歩行など身体を十分に動かすことを楽しむ。

室内外での探索活動を楽しみ、見る、聞く、触る、しゃぶるなどの感覚や手の動きが育つ遊び

を沢山する。

嬉しい、悲しいなどの感情が育ち、泣く・笑う・表情・仕草・喃語・片言などで自分の気持ちを表す。

大人が歌う歌を喜んできたりする中で心地よく過ごし、大人にあわせて声を出したり動作を真似て楽しむ。

年間目標 評価・課題

子どもの遊びの環境を積極的に考え、計画的に実行してきたことは大いに評価できる。一人ひとりの子どもに向き合い、丁寧な関わりを心掛けてきた。わらべうたあそびを職員皆で共有しゆったり楽しめたことも評価したい。親とのかかわりでは難しいと感じることもあったが、信頼関係は築けてきていると思う。

2008 年度実施行事

- 4月 2日 入園式
- 6月 17日 こどもの日、花の日
- 6月 6日 親子遠足
- 7月 8日 プール開き
- 7月 17～19日 4・5歳児キャンプ
- 8月 1日～3日 卒園児キャンプ
- 9月 12日 おじいちゃん、おばあちゃんと親しむ会
- 10月 11日 運動会
- 10月 17日 いもほり遠足（3～5歳児）
- 10月 21日 収穫感謝礼拝
- 10月 26日 神愛まつり
- 12月 13日 クリスマス会
- 1月 8日 餅つき
- 2月 16～21日 作品展示
- 3月 18日 お別れ会
- 3月 14日 卒園式

月例行事 誕生会・隔月で園外保育

年間行事 評価・課題

年間行事については見直しをしながら進めている。行事の中心となる年中・年長クラスを初めて持つという職員にとっては、確認をしながらの作業が必要であり、時間もかかるが子どもにとってという視点と見通しを大事にしていく。どこを大切にしていけるか？という確認は今まで以上に必要だろう。昨年、行事にかかる準備段階での作業の効率化を進めてきたが、少しずつ実ってきているように思う。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 4 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

年間を通して、季節の素材を積極的に取り入れた献立をたてること、安心・安全な食材を使用していくことは、園としての大事な考え方である。それをより積極的に伝える方法として、季節の食材の展示を行なった。保育との連携という点では、お互いに意見を聞きながら進めているが時間に追われ、もう一步踏み出せないところもある。また、アレルギー児への対応で、不十分なところもあり更なる確認が必要である。しかし給食室の努力は評価するところである。

カ 安全管理

交通安全教育 (11月 14日)

非常災害時の避難訓練 毎月

引き渡し訓練の実施 (9月 1日)

安全管理 評価・課題

「ホンダ」の交通キャラバン隊による交通安全指導を実施した。子どもたちの興味、反応も大きく、親の反応も大きかった。日常の保育士による指導だけでなく、今後はこういう機会も大切にしていきたい。避難訓練は子どもたちの中に浸透してきており、上手に避難できるようになっている。そしてかんたんメールでその報告をするように心がけている。引渡し訓練は、親の意識も大きいので防災の日に設定している。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園 長	1 名
主任保育士	1 名
保 育 士	11 名
調 理 員	3 名 (栄養士含む)
看 護 師	1 名
嘱 託 医	1 名 (非常勤)
臨時職員、パート職員	16 名

イ 健康管理

健康診断 年 1 回 (9月～11月)

細菌検査 年 2 回 (5月、10月)

給食、0歳児調乳担当のみ毎月 1 回

ウ 職員会議

定例会 毎月 2 回

行事前打合せ会（随時）

期別反省会（年 2 回）

会議 評価・課題

職員会議は少ない時間で中身の濃い話し合いにしたいと、主任を中心に工夫している。職員の意識もすこしずつ変化してきていると思うが、十分とはいえない。主任・リーダーは会議の進行（必要な話しか、まとめられるものかを見極めて）工夫しなければと思う。期末反省は、年 2 回で十分な話し合いの時間をとっている。それぞれの反省を全体のものとして生かす努力がもっと必要と思われる。

エ 研修計画

- ・園内研修（年 5 回）
- ・法人内研修
- ・キリスト保育連盟研修
- ・全国私立保育園連盟カウンセリング研修
- ・子どもの文化学校研修
- ・東社協保育士会研修、給食研修
- ・行政主導の研修
- ・江東区私立園長会研修・公私立園長会研修

研修 評価・課題

外部の研修は近場に出かけることが多かったが、職員が自分で学びたいと思う研修に行くことが出来たのは良かったと思う。職員みんなで共有していくために、会議の冒頭に研修報告の時間を入れるようにしたが、これは研修に参加した本人も、また報告を受けた職員も双方にとって良かったと思う。こんな保育がしたいと休日を使ってでも参加する意欲は認めていきたい。

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入

東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入

財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成・日誌・児童票
- ・給食献立表等の作成・給食日誌
- ・健康診断記録表等の作成・保健日誌

事務関係 評価・課題

会計事務、管理事務とも事務局の助けを借りながら、把握できるように努めている。まだ、園の会計全体は見渡せない部分もあるので、更に理解を進めていきたい。事務のパートを雇い入れたが、職員のいろいろな動きで安定してやってもらえなかった。保育、給食の事務はなんとか時間内にとの気持ちはあるが、現実はとても難しい。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

- ・ 配水管改修工事
- ・ 3歳児室の床暖房工事

設備関係 評価・課題

施設の建物自体の老朽化と設備の老朽化と双方を考えなければならない。見渡せば改修したい場所はたくさんあるので、計画的にすすめていくことの大切さを痛感している。

(3) 備品関係

ア 備品購入

・

イ 保育用品購入

ウ 給食用品購入

・

エ 固定資産物品購入

- ・ 3階エアコン
- ・ 貴重品ロッカー
- ・ 監視カメラ、赤外線システム設置

備品関係 評価・課題

出来るだけ予算に沿ってと思うが、時に必要なものが出てくることがある。今年は年度途中に起きた個人情報紛失で、下の2件は動かざるを得ないものだった。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回(内、届け出1回)

ウ 非常食糧の備蓄

○ (全園児数+全職員数) × 3食 × (1日～3日) 分

災害対策 評価・課題

災害時の非難訓練もほぼ予定通り実施。災害発生の際はどうか課題はその都度出されるが、話し合いながら進める。

障碍児もいたりする中で、おぶいひもは各クラスに用意することを確認したにもかかわらず実行されていなかったのは大きな反省である。園で用意している避難靴、防災頭巾なども十分なのか続けてみていく必要もある。また、今年は防災の日に、非常食を食べてみて子ども達にもその意識を持って欲しいと考えて実行した。

3 地域社会との連携

- ・花の日に近くのデイサービスホームを訪問する。
- ・(十分ではないが) 江東区子ども発達センター、親子教室との連携
- ・近隣の小中学校との連携 今年、小学校の校長先生に保育園に来てもらい、年長の親と懇談する機会を設けた。保護者も校長先生も良い機会だったと評価している。
また、夏の保育園体験ボランティア活動にも協力していただいている。中学校の職場体験も受け入れ、相互交流となっている。

地域社会との連携 評価・課題

ご近所との協力関係については、日々の確認が欠かせないが、職員みみなで努力した1年だった。今後もパートの人も含めた特に若い職員の対応を確認すると共に、職員全体で気をつけていくことを書類でも確認し、毎日チェックするようになっている。

子育て支援事業を進めていく上でも、民生・児童委員さんたちとの連携、また地域の方との連携を図りたいと思い、子育て支援の通信を送っている。更に地域の保育ママさん、保健センターとの連携も努力していきたい。

学校との連携では、小学校はお互いに行事を見学するなどの交流があるが、中学校では体験学習の場としての交流をこれからもはかっていきたい。

4 その他(特記)

記入者（施設長）

上松 恵子

施設長が交替し、職員集団の大幅な異動があつてから二年がすぎた。2008年度は主任二人制をとり、新しい体制になり役割分担をうまくまわりはじめたところである。昼ミーティングや連絡ノートの活用で報・連・相をしっかりとらあう工夫をしたが、まだ十分ではないので引き続き工夫を重ねていく。保育指針改定の学びのため外部研修にほとんどの職員が参加したが、園内で学びを深めていく機会がなかなか持てなかった。園内研修では外部講師を招き、保育についての共通認識のできる学びをしていくことができ、保育に少しずつ取り入れられてきている。

地域のネットワークとつながりながら園開放、出前保育を実施し、地域にも知られてきて参加者もふえてきた。また、中学生、高校生の保育体験、ボランティアなどもできる限り受け入れ、次世代育成支援につとめてきた。

当園の地域は待機児の多い地域であり、世田谷区の待機児解消策に協力する形で2009年7月に分園開設が決まった。年度の後半はその準備に追われ、園全体があわただしい状況であったが、地域のニーズに応えつつ、保育内容の充実、職員の質の向上を目指していきたい。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障害児保育事業実施（特児対象：2名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ 小中高生の育児体験受入れ 50日間受入れる
- ・ 保育所体験 延べ100人受入れ実施
- ・ 出前保育 年7回実施
- ・ 育児困難家庭への支援（3名受入れ在籍）

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
うさぎ組	0歳	3名	9名		看護師
あひる組	1歳	3名	14名		

はな組	2歳	3名	17名		
つき組	3歳	2名	20名		
ほし組	4歳	1名(1名)	24名	1名	
ゆき組	5歳	1名(1名)	24名		
	その他	主任2名			
合計		17名	108名	1名	

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 294日
25日	25日	25日	26日	26日	24日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	23日	23日	23日	23日	25日	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月(1回~2回) *耳鼻科検診 年1回(5月)
 幼児 年2回(5月、10月) *視力検査(4、5歳児)年1回(10月)

歯科検診 年1回(5月)

蟻虫卵検査 年1回(5月)

エ 保育

各組の保育目標

ゆき組(5歳児)の年間目標

- ①・様々な活動に取り組み、仲間に認められる事によって自信を得、自己発揮する。
- ②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かす事を楽しむ。
- ③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
 - ・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・人の話を良く聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤・自分のもつ好奇心や知的探求心を働かせる事により、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じた事や思った事、想像した事などを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題

- ・ 5才児クラスとして、1年間通しみんなで考え合いながら、生活や活動を進めることができた。異年齢の関わりは縦割り保育以外ではなかなか持たず、後半になってから午前中の活動などで持つことができた。

ほし組(4歳児)の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。

- ②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
 - ・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤・自然や身近な事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

年間目標 評価・課題

- ・二人担任ということで、分担しての保育も可能になり、遊びや生活面で個々の欲求に応じて対応していくことができた。
- ・カリキュラムをゆとりあるものにしたため、子どもたちも負担の少ない生活を送れたと思う。

つき組（3歳児）の年間目標

- ・基本的な生活習慣の自立に重点を置き、一人ひとりに合わせて丁寧に関わり、子ども達が自分でできる流れを作るようにした。そのため初めは個人差があったが最終的には一応の自立ができたと思う。
- ・環境的なこともあり異年齢の交流が少なかった。保育園の良さを活かすことが課題。
- ・クラスや仲間との間では関係ができていたが小さくまとまりがちだった。

年間目標 評価・課題

- ・年間のねらいに関してはおおむね達成できたと思う。日々の保育内容や遊びの提供などもっと工夫すべきだった。

はな組（2歳児）の年間目標

- ・身の回りのことを自分でできるようになるので、自立の要素を受け止め困った時は手助けをしながら自分でできる喜びを持たせる。
- ・保育者や友達と一緒に全身を使った遊びや、ごっこ遊びをする楽しさを体験できるようにする。
- ・反抗したり強く自己主張するようになるが、自我の芽生えとのときと受け止め、自信をもって行動できるように援助していく。

年間目標 評価・課題

- ・戸外、室内の環境を積極的に整え、子どもの求めることに応えられるように内容を変えることで、遊びに広がりやイメージの共有が見られ良かった。指導案をたてる前の話し合いが足りず、職員間の認識にずれのあることがあり、もう少し、クラス打ち合わせを持つべきだった。

あひる組（1歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保存と情緒の安定を図る。

- ②・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分にこない行い体を動かすことを楽しむ。
- ③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ⑤・身の回りの様々なものを見たり、いじったり、身の回りの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ

年間目標 評価・課題

・複数担任で共通理解できた部分と伝達ミスや確認不足があったことは反省すべきであった。保育室の環境については充実させてきたが、動的な遊びが少なく、もっと取り入れる工夫をすればよかった。

うさぎ組（0歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子ども甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
 - ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
 - ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ④・優しく語りかけたり 発語や保育士とのやりとりを楽しむ。
- ⑤・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能の発達を促す。
 - ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具など、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題

・月齢差があり、発達の面でも差が大きかったが、緩やかな担当制をとることで、生活面では臨機応変に個々に対応することができた。遊びの面では高月齢児への環境保障が難しく、高月齢児と低月齢児の遊び、生活をどのように工夫していくかが課題である。

2008 年度実施行事

- 4月 入園式 イースター礼拝
- 5月 各クラス懇談会 3、4、5歳児親子遠足
- 6月 花の日子どもの日礼拝 一週間縦割り保育
5歳児キャンプ・プラネタリウム
- 7月 夕涼み会 プール開き
- 8月 卒園児遊ぼう会
- 10月 運動会 ほのぼの会
- 11月 そしがや祭り 収穫感謝祭

1 2月	クリスマス礼拝	卒園児クリスマス
1月	餅つき	1週間縦割り保育
2月	大きくなったよ会	各クラス懇談会
3月	お別れ会	卒園式 進級式

年間行事 評価・課題

・それぞれの行事は係りが中心となって準備、実施、反省を行った。例年通りではなく、目的を再確認し子どもにとってどうかとの視点に立ち修了式、卒園式の持ち方の見直しを行った。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 2 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

クッキングについては、自分たちで育てた野菜を使ってのクッキングを経験できた。おやつについては従来にも増して手作りおやつを多く提供した。調理室のカウンターごしに子どもたちとのやりとりができ、より食事に関心を持ってもらうことができた。アレルギー児の誤食が数回あったのでチェック体制の見直しをし、予防体制を整えた。

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練

引き渡し訓練の実施（9月19日）

安全管理 評価・課題

新園舎での安全管理については周知してきている。毎月安全点検をし、安全な環境を常に心がけている。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園 長	1名
主任保育士	2名
保 育 士	12名
調 理 員	2名（栄養士含む）
看 護 師	1名
嘱 託 医	1名（非常勤）
リトミック講師	1名（非常勤）
パート職員	16名

イ 健康管理

健康診断 年 1回（6月）

細菌検査 年12回

ウ 職員会議

定例会 毎月 1回 乳幼児打ち合わせ 毎月 2回

行事前打合せ会（随時） クラス、食事打ち合わせ

期別反省会（年 2回） 主任会

会議 評価・課題

会議の召集者、性格、内容等を確認し、司会は中堅職員がするなど職員が意見を出しやすいよう工夫した。議題を整理し、時間内でおさめていく工夫をした。保育との同時進行となるため出席できない職員は記録を読み、報告を受け周知徹底をはかる。

エ 研修

- ・ 園内研修
- ・ 世田谷区の研修
- ・ 法人内研修
- ・ 自主研修
- ・ 全国私立保育園連盟研修
- ・ 東京都社会福祉協議会研修

研修 評価・課題

園内研修では外部講師による研修を実施し、職員が学びを共有することができた。また、法人保育ブロックの環境研修担当園として見学を受け入れたり、実践をまとめたりすることで園の環境を見直すことができた。

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・ 小口現金出納事務、
- ・ 実費徴収事務
- ・ 労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・ 保育指導計画等の作成
- ・ 給食献立表等の作成
- ・ 健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

・ 園長、主任 2 名、事務職員での職務分担がスムーズにできてきた。法人のモデルケースとして各クラスにパソコン設置したがまだ実用には至っていない。職員の事務時間がなかなか取れず、勤務中の事務処理の仕方は課題である。パソコンや情報の管理についてはもっと徹底していかなければならない。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

イ 老朽設備の点検、老朽箇所を更新

設備関係 評価・課題

- ・ 特になし

(3) 備品関係

ア 備品購入

- ・物置 ・扇風機 ・テーブルベンチセット ・テーブル、椅子
- ・防災用パック毛布

イ 保育用品購入

- ・おでかけ兼用避難車 ・うす ・

ウ 給食用品購入

- ・食器

エ 固定資産物品購入

備品関係 評価・課題

- ・年度後半に分園用の備品を購入した。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回(内、届け出1回)

ウ 非常食糧の備蓄

○(全園児数+全職員数)×3食×3日分

災害対策 評価・課題

- ・9月保育ネット烏山の合同避難訓練に参加し、地域の保育施設との災害時の協力体制を確認する。

3 地域社会との連携

地域社会との連携 評価・課題

- ・烏山地域の各種保育関係者が集まって作った保育ネット烏山に加わり、入園相談や防災訓練、粕谷児童館でのイベントなどに参加し、地域の保育園としての役割を果たす。
- ・砧地域のぽる児童館、留学生会館等のフェスタにも参加し、他の団体との交流をし、保育園のPRをすることができた。

4 その他(特記)

- ・年度の後半になって分園開設が具体化してきた。分園入園予定児15名を4月～6月受け入れる為、保育室の準備、備品の購入、職員採用など準備すべきことが多く、かなりの負担を負うこととなった。分園立ち上げに関してはもっと体制を整えてほしかった。

社会福祉法人 雲柱社 烏山保育園 2008（平成20）年度 事業報告

記入者（施設長）

菊地 せい子

民営化1年目の2007年度は、公立時代の保育の踏襲と保護者の信頼を得ることにより、まずは園運営を軌道に乗せることに全力を挙げた。民営化2年目の2008年は、初年度の踏襲から雲柱社烏山保育園らしい保育を日々模索しつつ作り上げることに一歩踏み出した。

烏山保育園らしい保育とは、法人の理念、保育目標である、どんな子どもに育てて欲しいかを常に問いかけながら、子ども達が安全かつ健康で情緒の安定した生活ができるような環境を整え、自己を十分に発揮しながら人間形成の基礎を培うことができることを目指して保育を進めることであった。

具体的には、公立時代から踏襲した行事を見直し、名称を変えたり、小さい行事をなくし子ども達が自由に活動できる時間を増やすことなどであった。名称の変更は保護者にも受け入れられ、各クラスの活動や縦割り活動なども充実させることができたと思う。第3者評価での保護者アンケート結果でも、多くの保護者より「保育園に対して満足」との高い評価をいただいた。

若い職員集団ではあるが、経験を積んでそれなりに育ててきており、自分の意見を言えるようになってきている。しかし、烏山保育園の目指す保育の確立は始まったばかりであり、内部・外部の研修を重ねながらより保育の質の向上に心がけ、専門の知識を深め、技能の研鑽に努めることが課題である。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・0歳児保育特別対策事業実施（0歳児取扱人員：13名）
- ・産休明け保育実施
- ・延長保育実施（0歳児の受け入れ、4時間延長） *月延長登録児…平均60名
- ・休日、年末保育 *休日利用…日平均、4～5名 *年末保育（2日間）…17名利用
- ・障害児保育事業実施（3名）
- ・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施（10名）

イ 地域子育て推進

- ・出前保育 6回
- ・パートナー保育登録 60名
- ・中高生の育児体験受入れ 延50人受入れる
- ・地域交流事業 年9回・155人
- ・卒園生交流 年3回・34人
- ・育児困難家庭への支援（1名受入れ）

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障害児数	備考
ひよこ組	0歳	5名	13名		看護師 パート2名
ちょうちょ組	1歳	4名	18名		パート2名
うさぎ組	2歳	4名	20名	1名	パート1名
たんぽぽ組	3歳	2名	22名		
やま組	4歳	2名	22名	1名	パート1名
ひ組	5歳	2名	22名	1名	
	その他	休日、延長4名 主任2名			
合計		25名	117名	3名	

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 336日
24日	24日	29日	28日	30日	27日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
30日	30日	30日	25日	28日	31日	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 毎月（1回～2回）

幼児 年2回（5月、プール前、10月）

- ・視力検査（4、5歳児）年1回（10月）
- ・歯科検診 年1回（5月）
- ・耳鼻科健診 年1回（9月）
- ・身体測定 毎月 1回
- ・蟯虫卵検査 年1回（5月）
- （胸囲、頭囲 年2回）

エ 保育

各組の保育目標

ひ組（5歳児）の年間目標

- ①・様々な活動に取り組み、仲間に認められる事によって自信を得、自己発揮する。
- ②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かす事を楽しむ。
- ③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
 - ・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・人の話を良く聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤・自分のもつ好奇心や知的探求心を働かせる事により、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じた事や思った事、想像した事などを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題

- ・ 気になった事は、自分たちで本で調べるようにしたり、問題が生じた時は、どうすればいいかと考

えさせたりした一方で、大人の指示待ちや頼る場面が多かったので、自分たちで考え、決めていいということを伝えながら主体性が育つよう導いた。

- ・ 表現活動は、創造力をもっと引き出すよう工夫、身近に使える素材をもっとたくさん用意すれば良かった。

やま組（4歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
 - ・ 意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤・自然や身近な事柄に触れ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

年間目標 評価・課題

配慮を必要とする子がいるクラスではあるが、個々の情緒の安定を保つ事を大切にしたい。途中、人事の異動もあったが、周りの協力もあり大きな混乱にはならなかった。身体を動かす事と静的な活動のバランスを考え、工夫する中で子どもたちの生活リズムが整い unnecessaryなトラブルもなく過ごせたと思う。

たんぼぼ組（3歳児）の年間目標

- ①・生活が自立してくることで自信もち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ②・外遊びを十分にするなど遊びの中で体を動かす楽しさを味わう。
- ③・食事、排泄、睡眠、衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ④・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

年間目標 評価・課題

基本的な生活習慣は、全体や個々の成長に合わせて、丁寧に関わることができた。大きな成長が見られ、子ども達の自信につながっていた。縦割り活動では、縦の関係で遊ぶより、同じクラス同士で遊ぶ意識が強く、クラスでの関わりの方が多かった。日々の子どもの姿から、ごっこあそびへとつなげ、クラス全体で楽しめた。

うさぎ組（2歳児）の年間目標

- ①・身の回りのことを自分でできるようになるので、自立の要素を受け止め困った時は手助けをしながら自分でできる喜びを持たせる。
- ②・保育者や友達と一緒に全身を使った遊びや、ごっこ遊びをする楽しさを体験できるようにする。
- ③・反抗したり強く自己主張するようになるが、自我の芽生えとのときと受け止め、自信をも

って行動できるように援助していく。

年間目標 評価・課題

生活の流れは、グループに固執せず、子どものリズムに合わせることでスムーズに流れることができた。保育者も一緒に楽しむことでごっこあそびのイメージも膨らみ、簡単なルールのある遊びを子ども達も積極的に楽しむ。活発な子ども達が多いが、2歳児のあるべき発達の姿を職員間でおさえ、個々を丁寧に見て関わることにより、それぞれの自信につながったと思う。

ちょうちょ組（1歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保存と情緒の安定を図る。
- ②・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分にこない行い体を動かすことを楽しむ。
- ③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ⑤・身の回りの様々なものを見たり、いじったり、身の回りの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ

年間目標 評価・課題

年間を通して、小Gに分かれて活動してきたので、子どもたち一人ひとりの欲求や甘えを受け止める事ができたと思う。また、低月齢児の食事を3対1、3G交替で進めたので、細やかな配慮ができてよかったと思う。

環境については、コーナーを設置できた事で、子どもたちが落ち着いて遊ぶ姿が増えた。

ひよこ（0歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子ども甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
 - ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的要求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。
 - ・個人差に手応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れ幼児食への移行を図る。
- ④・優しく語りかけたり 発語や保育士とのやりとりを楽しむ。
- ⑤・聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能の発達を促す。
 - ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具など、見たり、触れたりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題

担当制をとり、一人ひとりとの信頼関係を深め安定した生活を送る事ができた。後半（10月）に担任の入れ替わりがあり、大人側の連携や保育観の相違により、話し合いの必要性

や意見交換をする必要性を求められた。子どもたちは不安定になる事なく過ごせ、戸外や異年齢との関わりのお機会をもて様々な人との関わりにも興味を広げることができた。

つき・ほし組（延長保育）の年間目標

- ①・家庭的で落ち着いた雰囲気保育を行う。
- ②・個々の子どもの状態を深く捉えて愛情を注ぎ、こまかい配慮によって楽しい時間を過ごす。

年間目標 評価・課題

家庭的な雰囲気を目指した。しかし昼間の保育と大きな差をつくらないように心掛ける。一年間で部屋の使い方などに大きな変化があったが、子ども達は混乱せず過ごせていた。長時間保育の環境は模索中のため、変化はしかたないが、もう少し定着させたい。

にじ組（休日保育）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②・安心できる大人の見守りの中で、他の子どもにも関心を持ち、一緒に遊ぶ楽しさを知る。
- ③・一人ひとりのペースを考慮して、無理なく食事や午睡をする。
- ④・異年齢児との間で世話をしたり世話をされる喜びを知る。

年間目標 評価・課題

前年度に比べ5～6人と人数が定着してきた。年末は1日12人の利用があり地域に休日保育が知られてきたようだ。安全に一人ひとり無理のないように過ごすことはできた。利用年齢は0～2歳児が多く、幼児は少数のため、遊びや過ごし方など工夫が必要であった。4、5歳児でもあきずに楽しくすごすことが課題である。

2008年度実施行事

- 4月 進級式・入園式
- 5月 保護者会 4、5歳児遠足
- 6月 プール開き
- 7月 夏祭り 七夕 笹もやし 5歳児お泊り保育
- 9月 プール終い 敬老の集い お月見会 5歳児プラネタリウム
- 10月 運動会 5歳児遠足
- 11月 3、4歳児遠足 焼き芋会
- 12月 クリスマス会
- 1月 餅つき お店屋さんごっこ
- 2月 節分 保護者会
- 3月 雛まつり 卒園・終了式 5歳児さよなら遠足

年間行事 評価・課題

昨年度の公立より踏襲した行事を見直し、小さい行事は無くして、子ども達が自由に活動できる時間を増やすようにした。それによって、各クラスの活動、たてわりでの活動を充実させることができた。名称を変えた行事も保護者に受け入れられ、進めることができた。大きな行事は、昨年の経験を生かし、準備等進めることができた。今後、気づいたところは、変えながら鳥山としての行事を積み上げていきたい。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 2 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

食材そのものの味を大切に、その時の旬ものを献立に多く取り入れるよう工夫した。しかし一方で献立の偏り、量に多少問題があった。クッキングを多く取り入れたことで、調理室と日々の子どもたちの関わりを通し、子どもたちが食事に関心を持ち、調理室を覗き会話をする場面が多くなった事は、大いに評価すべき点である。

カ 安全管理

非常災害時の避難訓練

引取り訓練の実施

安全管理 評価・課題

・セキュリティ強化のため、世田谷区からの補助金（設置費用の1/2）を受け、防犯カメラを設置する事ができた。区の危機管理研修については、順番に出席しており、不審者侵入時の訓練が課題である。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
副園長	1名
主任	2名
保育士	23名
看護師	1名
栄養士	3名（調理師含む）
パート職員（調理、見回りも含む）	13名
リトミック講師	1名（非常勤）
嘱託医	1名（非常勤）

イ 健康管理

健康診断 年3回（5月、プール前検診、10月）

細菌検査 年12回

給食、職員・非常勤毎月1回

ウ 職員会議

（夜）夜職員会 隔月1回 乳児、幼児、調理カリキュラム会議 毎月1回

（昼）昼職員会 隔月1回 乳児、幼児、献立など打ち合わせ 毎月1～2回

安全委員会 毎月1回

会議 評価・課題

全員の会議は2ヶ月に1度にし、半分ずつ集まり、意見の出しやすいミニ職員会を昼に行う。その分

園内研修の回数を増やす。やはり大人数より活発な意見がでる。しかし、園の最高決定会議としての役割がとりづらい。後半から司会進行も中堅職員が、時間配分や発言など考え経験した。夜の全員会議のときは最終番の職員は参加できず、遅番3人も時間の半分のみ参加のため、記録や資料など必ずゆきわたるようにする。

エ 研修

- ・園内研修（中間年間保育まとめを含む）
- ・法人内研修
- ・全国私立保育園連盟研修
- ・東京都社会福祉協議会研修
- ・世田谷区の研修
- ・自主研修

研修 評価・課題

保育指針改定へむけての研修に、多くの職員をだし、その職員をパネラーにし園内研修でディスカッションもする。また、1年目と同様救命救急を5月に、中川信子先生よりことばの発達を7月に学ぶ。

オ 退職・福利厚生

- 社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
- 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- 財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

事務関係 評価・課題

事実上の管理職3人で事務を分担し、本部事務局の協力を得て各書類を提出できたが、本部提出の書類については若干、期日遅れ生じ迷惑をかけてしまった。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

設備関係 評価・課題

- ・ 固定遊具の点検については、専門業者「株式会社遊具診断加盟店統括本部」年1回、点検委託業務を依頼する。
- ・ 総合支所の中にある保育園なので、区の方と一緒に点検（自動ドア、貯湯槽等）をする事が多い。

(3) 備品関係

ア 備品購入

- ・綿菓子機
- ・大型乳母車
- ・会議用テーブル
- ・掃除機
- ・白と杵

イ 保育用品購入

- ・乳児用エプロン
- ・1歳児用のテーブル
- ・玩具棚

ウ 給食用品購入

- ・食器
- ・電子レンジ
- ・電気ポット
- ・調理器具
- ・

エ 固定資産物品購入

- ・冷蔵庫

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）×3食×（1日～3日）分

災害対策 評価・課題

- ・保育ネット烏山の合同避難訓練に参加し、地域の保育施設との災害時の協力体制を確認する。
- ・烏山総合支所との合同訓練は、民営化になったので無理との調整課の見解である。

3 地域社会との連携

地域社会との連携 評価・課題

- ・地域交流では、食育や保健からの話しなど好評で来年度も継続していきたい。又、母親同士での交流をもてる場として好評であった。
- ・出前保育では、遊びや遊具の紹介だけでなく保護者の子育て相談なども聞くことができ、続けていきたい。来年度は午前中だけでなく、午後にも活動の時間を広げていく予定である。

三 幣 典 子

年主題 「安全な生活」 法人事業理念 保育理念にそって

園舎改築の年であった。江東区から借りた南砂6丁目のエコリサイクルハウス跡地に4、5月でプレハブ仮設園舎を建てた。6月7日に引越をしてなれない場所での保育が始まる。園庭のない中での保育は午前も午後も公園に遊びに出るなどして特に園外保育の機会が多くなったので交通安全や迷子、不審者の連れ去り防止など危機管理意識を職員に徹底してきた。夏のプールや水遊びも防災課から土地を借りて大型ユニットプールを園舎の地続きに設置出来、暑い夏を乗り越えた。夏暑く冬寒くまた音も響くプレハブ園舎ではあったが、大きな事故や近隣とのトラブルもなく10カ月を過ごすことが出来た。しかし、本園舎の建築が地中障害のため大幅に遅延し3月完成が間に合わず、20年度の卒園式は仮設園舎隣りにある区民館ホールでおこなった。

保育方針 「神と人から愛されかけがえのない存在であることを知る」

「ひとりひとりを大切にする」

保育目標 神と人から愛されていることを知り、自分やまわりの人を大切にすること

1. ありのままの自分が受け入れられ、自己発揮でき、考えて行動できる子ども
2. のびのびとしなやかに、からだを動かして遊ぶ子ども
3. 基本的な生活習慣が身につく、見通しをもってできることを自分でする子ども
4. さまざまな人との関わりを大切に、思いやりをもって共に生きる子ども
5. 自然や命あるものとの出会いを大切に、豊かに感じとり表現する子ども

配慮点

- *誰もが神と人から愛され、かけがえのない存在であることを知るように保育する。
- *子ども達一人ひとりの個性や権利を尊重して保育する。
- *保護者が安心して働くことができ、子ども達が心身共に健やかに育つよう保育する。
- *保護者ととともに、地域との交流をもって子育ての援助をする。

事業の内容と展開

1. 園舎改築工事 東砂6丁目の本園から南砂6丁目にプレハブ仮設園舎を建て6月に引越をした。旧園舎の解体を6、7月に行い8月4日に起工式をして本園舎建築がはじまった。しかしながら土台工事の時に地中障害があり工期が大幅に遅れた。休日工事もいれて工期の短縮を考えたが近隣からの同意が得られず3月完成が間に合わなかった。工事期間は毎週水曜日に改築定例会議を持ち、設計会社、建築会社、園管理者（法人代行としてコンサルタント）が打ち合わせを行ってきた。
2. 安全対策 仮設園舎は駅のそばで大型ショッピングセンターの目の前という立地であり、不特定多数のかたに覗かれたりしないよう園舎のまわりをシートで覆ったり玄

関前には曇りガラス（プラスチック）の扉をとりつけた。門扉のセキュリティーや防犯カメラ、園舎内の夜間警備も引き続き設置した。また、保育では特に園外保育が多くなったので交通安全や防犯面は特に職員の意識を高めて危機管理体制を強化してきた。大きな事故や怪我、トラブルがなく過ごせた。

3. キリスト教保育 幼児クラスの礼拝は毎週火曜日。2歳児クラスも10月から午睡明けに園長による聖話をおこなった。礼拝の時間はよく耳を傾けじっくり聞く態度が育った。職員のキリスト教の学びは山口牧師を招いて聖書研究を行った。

4. 利用者調査の実施 11月に受審機関「学研R&G」による利用者アンケート調査を実施する。行事やファミリーデーなど利用者調査を受けて改善してきているので大きな改善課題はなかった。毎年行ってきたのでアンケート結果内容はあまり変わらず、おおむね信頼を得ていた。次年度は評価期間を変更したい。

施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：12名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育事業（零歳児クラスの受入れ）
- ・ 障碍児保育事業実施（特児対象その他：1名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施 4名

イ 地域子育て推進

- ・ 育児講座 年6回実施
- ・ お年寄りとの交流 年10回実施
- ・ 退所児童との交流 年6回実施
- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年26日間受入れ 延45名
- ・ 育児相談 随時実施 年間102件
- ・ 保育所体験 年60回 延50組受入れ実施
- ・ 子育てサークル支援 年6回実施
- ・ 子育て情報誌の発行 年12回発行560通
- ・ 育児困難家庭への支援（4名受入れ在籍）
- ・ 外国人児童受入れ（4名受入れ在籍）
- ・ 年末保育 12/29・30実施 6名受け入れ

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
ひよこ	0歳	4名	12名		
りす	1歳	3名	15名		
うさぎ	2歳	3名	19名		
こぐま	3歳	2名	19名		
ぱんだ	4歳	1名	19名	1名	保育アシスタント1名
きりん	5歳	1名	18名		保育アシスタント1名
こあら一時保育	1～5歳	1名	4名		保育アシスタント1名
その他		2名			
合計		17名+4名	101名+4名	1名	パート職員12名

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 293日
25	24	25	26	26	24	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	23	23	23	23	25	

ウ 健康管理

健康診断

乳児（0歳児） 毎月 一回

幼児 年2回（5月8日、10月2日）

歯科検診 年2回 乳児（6月12日、11月13日）幼児（5月15日、10月9日）

蟯虫卵検査 年2回（5月7日、11月10日配布）

年間目標 評価・課題

「のびのびとしなやかに自分のからだを動かして遊ぶ子ども」

- ・ 毎月の目標に添って配慮を行い、保健指導を行った。受診にいたる怪我は13件。例年と大きな変化はなかった。感染症については1月上旬よりインフルエンザ、水痘、流行性耳下腺炎に罹患する子どもが多くみられた。それによって欠席する子どもが目立ったが回復後は元気に遊ぶ姿が見られ感染症による合併症もなかった。
- ・ 今後の課題では、感染症を広めない為に感染経路の遮断をすばやく行えるように環境を整え、安全面は新園舎での新たな環境設定を行っていくことである。

エ 保 育

各組の保育目標

きりん組（5歳児）の年間目標

- ① 様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。

- ② 様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して身体を動かすことを楽しむ。
- ③ 健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自立の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④ 様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ生活の経験を広げる。
 - ・ 異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・ 人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤ 自分のもつ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題

- ・ けんかや意見の違いをぶつけ合い、自分たちで折り合いをつけていく中で仲間との繋がりが強まっていった。子ども同士それぞれの得意な部分、苦手な部分をよく理解した上で自然に助け合うようになっていった。
- ・ 行事など子どもの意見を形にして、日頃の子どもの姿が生かせる形ですすめてきた。何でも本番に強く、何かをやる時に心が一つになる心地よさも味わうことができた。
- ・ 仮設園舎で園庭がないため、新しい公園探しを楽しんだり夕方に散歩に行くことで小学生や地域の子と一緒にリレー・鬼ごっこなどを楽しみ新しい刺激も多く十分楽しめた。

ぱんだ組（4歳児）の年間目標

- ① 一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ② 友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、身体を動かして遊ぶことを楽しむ。
 - ・ 意欲的にいろいろなことに挑戦し、身体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③ 健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④ 人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っている事を話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤ 自然や身近な事柄にふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする。

年間目標 評価・課題

- ・ 友達の姿に刺激をうけ、様々なことにチャレンジした。また、仮設園舎生活の中でも出来るだけ身体を動かして遊ぶ機会を多く持つよう心がけた。
- ・ 子ども達自身でせいかつのながれを作っていく過程を大事にしながら、ひとり一人が意識的にとりくむことができた。
- ・ 自分の経験したことや思っていることを話す機会を多く持ち言葉で伝える楽しさを味わうことができた。

こぐま組（3歳児）の年間目標

- ① 生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現せきるようになる。
- ② 外遊びを十分するなど遊びの中で身体を動かす楽しさを味わう。

- ③ 食事・排せつ・睡眠・衣服の着脱等の生活に必要な基本的な習慣が身につくようにする。
- ④ 自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤ 様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づきか感性を豊かにもつ。

年間目標 評価・課題

・基本的な生活習慣が身につくまでには個人差があったので、個々に応じた声掛けや援助を心掛けていった。自分のことができるようになったことで、周りにも目が向くようになり手伝いなど進んでやる姿があった。

・友だちとの関係が深まり遊びを発展させて楽しんでいた。それにともなって子ども達に葛藤する気持ちも芽生え、保育者の仲立ちの難しさを考えさせられることがあった

うさぎ組（2歳児）の年間目標

- ①たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちをだせるとともに、自分のきもちを切り替えられるようになる。
- ②身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③簡単な身の周りの活動を自分でしようとする。
- ④保育士を仲立ちとして生活や遊びのなかで、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤大人やまわりのことに興味をもち、見立て・つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

年間目標 評価・課題

・少しずつ人との関わりが広がっていき、担当に限らず自分の要求や主張を出すようになっていったのでその都度受け止めていくよう心がけた。

・戸外だけでなく室内でも体を動かせるよう手作り遊具、マット、巧技台を使い工夫していった。

・気の合う友達と一緒にすごすことが楽しくなり友達関係が広がっていった。トラブルになった時は保育者がお互いの思いを聞き仲立ちしていくようにした。

りす組（1歳児）の年間目標

- ①一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ③安心できる保育士との関係のもとで食事・排せつ等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④安心できる大人に見守られる中で、他のこどもにも関心を持ち、関わろうとする。
- ⑤身の回りの様々なものを見たり、いじったり、身の回りの自然や事象に対する好奇心や関心をもつ。

年間目標 評価・課題

・子どもの姿をまず受け止めることで、担当との信頼関係ができ気持ち生活とも安定

してすごせることを確認しあえた。

- ・しかし、大好きな存在になることで逆に甘えの行為が続くこともあり、上記の「信頼関係」＝「気持ちの安定」と繋げることの難しさも改めて感じた。
- ・近くに 1 歳児の「探索活動」に適した公園をいくつか見つけ、そこで遊ぶ機会を多く持つことができた。

ひよこ組（0歳児）の年間目標

- ① 一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ② 安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行なう。
- ③ 保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
 - ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排せつなどの生理的欲求をみだし、情緒の安定を図る。
 - ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食に慣れて幼児食への移行を図る。
- ④ 優しく語り掛けたり、発音やなん語に応答したりして、発語の意欲を育てる。
- ⑤ 聞く、見る、触れるなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
 - ・安心できる人的物的環境のもとで絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり触ったりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題

- ・仮設への引越、10月には担任交代や看護師の2名体制と環境の変化の多い1年だった。特に10月は人見知りなどから不安定になる子が多かったがその都度受け止めてきた。
- ・担当制を大切にし愛着関係を土台に安定した情緒で過ごし、人との関係が広がっていく姿も見ることができた。
- ・保護者にとっても初めての園生活なので、受け入れや引き渡しの時間を大切に子どもの成長を共に喜びあってきた。

こあら組（一時保育）の年間目標

- ① 一人ひとりの子どもの欲求を十分満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ② 保育士に見守られながら、様々な生活や遊びを通して身体を動かすことを楽しむ。
- ③ 一人ひとりの家庭での生活リズムに考慮して、無理なく食事や午睡をする。
- ④ 安心できる大人の見守りの中で、他の子どもにも関心を持ち一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤ 身の回りの様々なものを見たり、触れたりして、自然や事象に興味・関心をもつ。

年間目標 評価・課題

- ・利用希望人数が多く秋には定員4名の枠を超えて保育を行った。
- ・定期で来ている子ども達は互いに登園を楽しみにしたり、育ち合う姿が見られた。また在園児のクラスと散歩に行ったりして一緒に過ごす時間が多く、交流を深める事ができた。
- ・利用者が安心して預けることができる場所となるよう心がけて保育をしていった。

2007年度実施行事

- 4月 2日 入園式 (80,000円)
- 5月18日 親子遠足 (松戸21世紀の森) (218000円)
- 6月 5日 子どもの日花の日 (3,300円)
- 7月 7日 夕涼み会 (100,000円)
 - 12～13日 年長お泊まり保育 (ファミリーロッジ五日市) (116,000円)
 - 26～28日 小中学生キャンプ (五日市青少年旅行村) (620,000円内520,000徴収)
- 7月23日～8月31日 中高生ボランティア受け入れ
- 9月13日 祖父母会 (16,500円)
- 10月13日 ファミリーデー (71,900円)
- 11月 2日 いもほり遠足 (幼児) (165,000円)
- 11月 6日 収穫感謝祭
- 12月15日 クリスマス礼拝・祝会 (乳・幼児: 210,000円)
 - 21日 地域ともしびクリスマス (地域: 円)
- 1月10日 餅つき会
- 3月 6日 大きくなったね遠足 (円)
- 3月17日 お別れ会、卒園式 (240,000円)
- 月例行事 誕生会 (80,000円)

年間行事 評価・課題

仮園舎での行事は広い場所がないため、祖父母会・クリスマス会・卒園式など様々な園行事は隣接する南砂区民館のホールを借りて行うことにした。不自由な中であっても今年限りのやり方で工夫し思い出深いものとなった。夕涼み会は東砂8丁目公園を借り大道芸や和太鼓のパフォーマンスを呼んで楽しんだ。区民館の賃貸料はかかったが、場所が隣だったのでいろいろな面で大変助かった。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年4回

食事年間目標

- 1 食べ物の大切さ、食事の楽しさ、感謝する気持ちを伝える。
- 2 クッキングを通して作る事の楽しさを知る。
- 3 食育を通じて「食」に興味を持つ。

栄養管理 評価・課題

- ・今年仮設園舎での生活で幼児クラスが2階だったこともあり子どもが気軽に調理室へ来る機会が少なかった。
- ・なるべく子ども達と一緒に食事することを心掛け、食事を通して食事することの楽しさや感謝する気持ちやマナーなど日々の生活の中で伝えることができた。
- ・「食」に対する関心をクッキングだけでなく、いろいろ工夫をして子ども達に伝えていくことはこれからの課題である。

カ 安全管理

犯罪防止安全教育 CAPワークショップ（子ども・大人対象）2月3日、6日、13日

非常災害時の避難訓練 毎月一回

引き渡し訓練の実施（9月1日） 緊急時・災害時カードの導入

危機管理マニュアルの整備

安全管理 評価・課題

- ・仮設園舎での避難訓練では園舎玄関北側のみ出入り口があったが、裏の南側にも緊急時に備えて門扉を設けることにした。9月1日の避難降園訓練は第3砂町小の校庭を借り引き渡しも行った。園周辺の危険箇所や公園での様子を随時報告し合い、ヒヤリハット報告をまとめて職員で共有した。
- ・CAPワークショップを2年ぶりに行い、年長児向けと保護者対象の安全教育を行った。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
副主任保育士	1名
保育士	15名
調理員	2名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	2名（非常勤医師・歯科医師）
臨時職員、パート職員	17名

イ 健康管理

健康診断 年 2回（5月、10月）

細菌検査 年 12回

ウ 職員会議

定例会 毎月1回 乳児・幼児カリキュラム会 毎月1回

行事前打合せ会（随時）

期別反省会（年3回） 年度末会議6回

会議 評価・課題

・全体での会議は月一回であったが、例年のない特別な年であったので緊急の会議をたびたび行った。特に年度末は工事の遅れにより仮設で2009年度の保育を行うことになった為、2時間延長のことや1歳児2グループ制のことなどについて、昼や夕方などに時間を設定して会議を行うこともあった。

エ 研修計画

- ・園内研修 年5回
- ・法人内研修 階層別・職種別研修
- ・私保連カウンセリング研修 4名参加
- ・厚労省・江東区保育課・全国保育協議会・東京都社会福祉協議会・全国私保連 東京私保連などによる研修

研修 評価・課題

・園内研修では新園舎の環境、家具などの打ち合わせを中心に行った。また、次年度の2時間延長や1歳児の2グループ体制のために他園の見学なども多く行った。
 ・法人研修も環境の学びが多かったので、東間先生の講演を受けて手づくり遊具製作に取り組んだ。

オ 退職・福利厚生

- 社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
- 東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
- 財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

・園長・主任・副主任の3人体制になり事務仕事を分担する。職務の分担がまだまだあいまいなことがあり、今年度は仮設園舎での生活で例年とちがうことが多かったなのでそのつ

ど方法を考え対応してきたが、改築工事もあり常に事務仕事に追われている状況であった。

- ・トータルネットが始まったが保護者からも協力を得てなんとか軌道に乗った。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

- ・園舎改築のためすべて撤去。

イ 設備の点検・修繕

設備関係 評価・課題

・旧園舎は6月までで解体。固定遊具は撤去して屋上の乳児用アスレチックは倉庫に保管。大型プールは仮設に移動して夏に子ども達が楽しむことができた。プレハブ仮設での設備は大和リースがメンテナンスを行った。

(3) 備品関係

ア 備品購入

- ・VPN導入（パソコンデスクトップ）
- ・ノートパソコン購入
- ・ホットカーペット4枚

イ 保育用品購入

- ・新年度準備用品（350000円）
- ・各クラス遊具（183500円）

ウ 給食用品購入

- ・

エ 固定資産物品購入

- ・リコーファックス新リース
- ・緊急用ポータブル発電機

備品関係 評価・課題

備品では改築後でも使用できるものを購入した。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

避難降園訓練（引き渡し訓練）9月1日

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

(99 + 21) × 3食 × (1日)分 (アルファ米、水、缶入り味噌汁、乾パン)

災害対策 評価・課題

災害用の食料備蓄は毎年入れ替えて購入。停電時の自家発電機を施設強化推進費の補助金で購入した。新園舎では新しい建物に即して火災、地震、防犯の訓練計画を作成していく。

3 地域社会との連携

- ・ ともしび伝道所、コーラスともしび（中高齢者コーラス活動）との交流、園行事の参加
- ・ 東陽・大島・深川北・南砂子ども家庭支援センターとの連携
- ・ 発達センターCOCOとの連携
- ・ 2砂中、4砂中、地元の中高生や保育を学ぶ学生のボランティア受け入れをしたが狭い仮設園舎なので例年より受け入れを制限した。

地域社会との連携 評価・課題

- ・ 仮設園舎は江東区から借り受けた土地なので、日曜日の礼拝をおこなうことはできなかった。ともしび伝道所の山口牧師は年に10回ぐらい仮設園舎に来て職員のキリスト教の学びをしていただいた。また、新園舎の起工式の司式をお願いした。
- ・ 南砂みずべは仮設園舎とより近くなったので時にはみずべの庭を1歳児クラスが借りて遊ぶこともあった。また、一時保育希望者もみずべからの紹介が多かった。
- ・ 地域の中高生保育ボランティアは今年度は時間と人数を制限して受け入れたが延べ人数では40名を超えた。

4 その他（特記）

- ・ 世界的な不況のあおりを受けて保護者の就労状況も変化がみられた。生活保護家庭が増え、育児困難家庭や離婚家庭も増えた。社会的な支援が必要なケースは保健所や子育て支援課、子ども家庭支援センターなどに繋げた。
- ・ 改築のために東砂から南砂に引越し、6月から狭い仮設園舎での保育であったが、逞しい子ども達に励まされ保護者の協力を得て、大きな苦情やトラブルもなく10カ月を過ごすことができた。南砂では、保護者は駅にも近く大型ショッピングセンターの前だったので便利でよかったという意見が多かった。
- ・ 新園舎の建築に関しては東砂の地域の方から、工事中の騒音やほこり等の苦情がいくつかあり、建設会社はそのつど対応したが、休日工事に関しては江東区にも問い合わせる方もいて謝罪にまわることもあった。

記入者 （施設長）
園長 松長とも子

前文

- 4月に5人の新人職員を加えさらに、押上保育園の民営化に伴い、数名の職員の異動が決まり担任の変更や、施設長も見学や打ち合わせの為、園をあけることが多く、報告、連絡、相談が不十分な面があったが、職員全員のチームワークで乗り越えることができた。
- 行事の意味を問い、内容の検討をすることを通し行事担当者だけではなく、職員全体のこととして考えることを昨年は力をいれてきたが、毎年、新人も加え検討する必要性を感じる。
- 「保育ブロック」の環境研修をうけ環境の見直しを昨年度に引き続おこなった。定期的に環境チェックリストやヒヤリハットを用いて検討をし、できるだけ早期に、改善するようにした。その結果、大きな怪我を防ぐことができた。
また、パート職員の方と共通認識しあうことが必須であるが、今年度は、法人のパート研修が年2回行われたため現場サイドでの研修は1回のみだった。今後は何とか時間を工夫し、共有する場をもちたい。
- 延長保育の実態としましては、月単位の利用者が少なく、スポット利用により、1時間延長は多いが、2時間延長が少なかった。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：9名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（2時間延長）
- ・ 延長保育事業（零歳児の受入れ）
- ・ 障碍児保育事業実施（特児対象：1名、その他：1名）
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・ お年寄りとの交流 年29回実施（ぶどうの会、福さん家、花の日、収穫感謝祭の清風園訪問）
- ・ 退所児童との交流 年7回実施
- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年15日間受入れ
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 保育所体験 年48回・60人受入れ実施
- ・ 調理講習会 年3回
- ・ 外国人児童受入れ（7名受入れ在籍）
- ・ 年末保育 12/29～12/30実施 41名

- ・在宅支援 パートナー登録者 55名
- ・出前保育 年8回 1回平均親子150名

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
つぼみ組	0歳	6名	19名		
もも組 さくら組	1歳	4名	24名		
たんぼぼ組 すみれ組	2歳	4名	24名		
ちゅうりっぷ組	3歳	2名	28名		
ばら組	4歳	2名	28名		
ゆり組	5歳	2名	28名	1名	
	その他	リーダー(0才、本園)			
合 計		22名			

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 295日
25日	24日	25日	26日	26日	24日	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26日	23日	25日	23日	23日	25日	

ウ 健康管理

健康診断

- 乳児 毎月 1回
- 幼児 年2回(6月、10月)
- 歯科検診 年2回(5月、2月)
- 蟯虫卵検査 年2回(6月、11月)

エ 保 育

各組の保育目標

ゆり組（5歳児）の年間目標

自然環境に働きかけ、よく見たり触れたりためしたりして遊ぶ。
友達の良さを認め合いながら個々の力を十分発揮する。

年間目標 評価・課題

4歳担当者が2名共退職になった為、親から不安の声がきかれ、年長組への期待も大きいので以前に担任をしたことのある職員を配置した。障害児を含めたクラス運営を通し、自分を主張しながらも、相手の思いも聴こうとする姿がみられた。年長児の役割が普段のなげない生活の中で次年齢児に引き継がれている。

ばら組（4歳児）の年間目標

いろいろな活動を通して友達や保育者との関わりを深めて楽しく遊ぶ。
生活の決まりを守り、良い生活習慣を身につける。

年間目標 評価・課題

担任1名が持ち上がりということもあって、安定した姿がみられた。また年度途中で担任1名交代したが年長組との連携をよくとれ、大きな問題もなかった。5才児との交流は、自然に出来ていて刺激をうけている。絵本の好きな子ども、お話が聞ける子どもたちに育って欲しいと願う環境を整えた。体を動かして、群れて遊ぶことや集団で遊ぶ楽しさを味わわせるようにしていく。個々の葛藤を友だちとの関わりを通し、どう乗り越えたか、乗り越えようとしたかのケースを学びあった。

ちゅうりっぷ組（3歳児）の年間目標

基本的な生活習慣を身につけ、何でも自分で行おうとする。
いろいろな行事を体験し、園生活の楽しさを知る。

年間目標 評価・課題

昨年度に引き続き年度はじめは担任をシフトからはずし、しっかり受入れを行った。また、生活の流れを見直し自分で準備したり片付けたりしやすいように環境を整えた。かばん掛けを棚にすることにより、自分で出し入れをする姿になった。

たんぽぽ組 すみれ組（2歳児）の年間目標

基本的習慣を身につける。
いろいろな経験を通して、いろいろな言葉を習得し、言葉で表現しようとする。
遊具や運動用具を使ったり、いろいろな運動遊びを通して、運動機能の発達をはかる。

年間目標 評価・課題

2つのクラスの違いはいろいろあるが、戸に鍵がついているかどうかという点が生活を作っていく上で大きいと思われる。1歳クラスが隣りということで鍵は必要であるが2期には鍵をしないようにした。

もも組 さくら組（1歳児）の年間目標

自分でしようとする気持ちを大切にしながら、基本的な生活習慣を身につける。
保育者に親しみ、感情を素直に交流して機嫌良く過ごす。また、友達にも関心を示す。

年間目標 評価・課題

環境研修での学びから子どもたちが遊びやすいよう、また片づけしやすいよう、遊具のマークをつけた。また、室内に動的な環境を設置してから噛みつき、引っ掻きのトラブルが少なくなった。3期の反省で、年間指導計画が計画されているのに実行できなかった事もあり、クラスの枠をこえた伝えあいをどうしていくのかが課題である。

つぼみ組（0歳児）の年間目標

保育者との親密な関わりを基礎に安定した人間関係が芽生える。
活動しやすい、くつろいだ環境の中で歩行を目指し、いろいろな運動を楽しむ。
言葉以前の様々なサインをしっかり受け止めることができ、自己表現が活発になる。

年間目標 評価・課題

3名の新しい職員が加わることになり、OJTを強化した。新人や産休代替職員もふくめ仕事がきちんと遂行できるように、1つ1つを確認しながら進めたので、大きな問題もなく過ごすことができた。土曜保育や延長保育を、本園との兄弟の場合、本園で保育を行った。親の要望に答えるかたちである。

2008年度実施行事

- 4月1日 入園式
- 5月30日 幼児親子遠足
- 6月17日 子どもの日花の日
- 7月1日 プール開き
- 7月10日 お泊り保育（年長）
11日
- 7月18日 お泊り保育（年中）
19日
- 9月6日 創立記念日（80周年記念会）
- 9月10日 子ども創立記念会
- 9月12日 祖父母招待会
- 10月11日 ファミリーデー
- 10月24日 いもほり遠足（5歳児、4歳児）
- 11月20日 収穫感謝祭 21日 お料理パーティー
- 12月13日 クリスマス礼拝、お楽しみ会
- 12月26日 餅つき
- 2月27日 お別れ会食事会、

3月14日 卒園式
 3月19日 お別れ遠足
 月例行事 誕生会

年間行事 評価・課題

5月の親子遠足を新しい場所で開催し、雨天対応ができたことは、今後の為によかった。
 80周年行事を、沢山の地域の方、元職員、関係施設の方々を招いて行うことが出来た。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年4回
 栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成
 季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成
 給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

- ・ アレルギー児の代替食対応がふえているので、調理と保育との連絡を密におこなった。
- ・ 食育やクッキング保育は年間カリキュラムをたて調理と保育とが連携し、見通しを持って進めることができた。
- ・

カ 安全管理

交通安全教育（ 月 日）
 非常災害時の避難訓練（ 9月 1日）
 引き渡し訓練の実施（9月 1日）

安全管理 評価・課題

環境整理マニュアルに基づいて定期的に点検をしている。
 毎月行っている避難訓練の内容も見直し、午睡時やお散歩時に実施した。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	22名
調理員	4名（栄養士含む）
看護師	1名
嘱託医	2名（非常勤）
臨時職員、パート職員	26名

イ 健康管理

健康診断 年 1 回

細菌検査 年1～2回
給食、0歳児調乳担当のみ毎月1回

ウ 職員会議

定例会 毎月 1 回
行事前打合せ会（随時）
0歳児、乳児、幼児、食事等各カリキュラム会議(月1回)
期別反省会（年 2 回）

会議 評価・課題

主任会、リーダー会で議題内容を確認し各会議が十分機能するように内容や進行の仕方を工夫した。特に定例月会議は職員の人数を多く話づらい事があるので、グループに分かれて話すなど、工夫した。

エ 研修計画（研修費用）

- ・園内研修 年5回 約5万円
- ・法人内研修
- ・保育団 全国私立保育連盟研修参加 約20万円
墨田区保育協会主催の研修（年5回）約2万円
東社協の研修

研修 評価・課題

、園内研での研修がスキルアップにつながるような学びあいをした。リトミックやわらべうたは4年ぐらい続いていて保育に反映されている。社会の現状認識や子どもへの関わり方や保護者との関わり方として、対人援助技術の学びは今年度できなかった。また、安全管理に関する研修も力を入れる必要がある。

オ 退職・福利厚生

退職 2009年3月31日付 長瀬美穂
異動 2009年4月1日付 小島由記子（押上保育園）へ
2009年4月1日付 三上真紀（押上保育園）
2009年4月1日 坂井一代（押上保育園）
産休 2009年8月20日 大山さやか
社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・ 保育課程の作成
- ・ 保育指導計画等の作成
- ・ 給食献立表等の作成
- ・ 健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

保育所保育指針の改訂に伴い、保育ブロックとして保育課程を作成したが、職員間での話し合いは不十分だ。保育の質の向上の為記録の取り方（エピソード記述について）を学ぶ。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

なし

イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

- ・ 特殊建築物調査の指摘事項を解決するための工事
 - 1 階事務室扉交換工事 防火シャッター新設工事
 - 1・2 階鋼製扉交換工事
 - 非常照明取り付け
- ・ 分園に設置の柵の指詰防止の老朽箇所を新しくする
- ・ 職員用靴箱を新しく設置

設備関係 評価・課題

・ 園全体としてトイレ、配管関係のトラブルが頻繁におこる為、専門家と相談しながら対応し、臭気にたいしては、定期的な掃除により緩和されたが、水量の問題（定期的に水が流れるので、水道料金が莫大）は今年度も先送りとなっている。

(3) 備品関係

ア 備品購入

- ・ 網戸（バラ組）
- ・ 本園用（デジカメ）
- ・ 玄関入口木絵レリーフ

イ 保育用品購入

- ・ 各クラス用遊具
- ・ 1 歳遊具 コミュニティージム
- ・ はいはいランド（分園用）

ウ 給食用品購入

エ 固定資産物品購入

- ・防犯カメラ設置
- ・ガスヒーポン設置
- ・プールの上のサンシェード設置
- ・本園 分園電子錠設置（区の補助のより）

備品関係 評価・課題

備品購入、破棄に関しては、リーダーや主任との相談の上おこなっている。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月 1 回

イ 防災設備の点検委託

年 2 回（内、届け出 1 回）

ウ 非常食糧の備蓄

○（全園児数＋全職員数）× 3 食 ×（1 日～3 日）分

エ 防犯訓練 年 1 回（予定は 2 回）

災害対策 評価・課題

備蓄している物の賞味期限を定期的（年 1 回の引き取り訓練に合わせて）に点検している。

防犯訓練を行った。本所警察の方の指導のもと実技体験やアドバイスをいただき今後の訓練に生かしていく

3 地域社会との連携

- ・東駒形教会、賀川記念館との連携
- ・「どすこいくらぶ」のボランティアとの定期的な交流
- ・墨田福祉保健センター「みつばち園」とのネットワークを強めていく。

地域社会との連携 評価・課題

障害児 1 名の就学について、定期的に保護者と話し、区の教育相談担当者や情緒障害センターの担当の方とも園への見学等を通しつながりを持ってきた。。

4 その他（特記）

- ・ 80 周年記念のため「この 10 年の歩み」として記念誌を作成

記入者 （施設長）

秋山 幸美

黎明保育園の保育方針の三つの大きな柱は、キリスト教保育・統合保育・全人保育である。各クラスとも保育方針に基づき年度の初めに大切に保育目標を4月の園便り、クラス懇談などで伝えた。

また、職員会の度に事業目標の読み合わせをし、雲柱社の職員として福祉に携わる事を自覚する様に心掛けしている。

一時保育は7年目を迎え、夏頃より毎日10名を超える利用があり在宅での子育て家庭への支援が益々必要になっている。一時保育の「子育て情報誌」を年10回発行し、児童館や保健所で一時保育のアピールをおこなった。毎月の出前保育も定着してきており、地域の中で重要な役割を担っている。地域活動では、「出産を迎える親」を対象にした、スリング講座、赤ちゃんマッサージなどの取り組みを何度か行った。夫婦で参加する家庭も増えて来た。今後も引き続き取り組みたい。地域活動は葛飾区から創意工夫のある取り組みが認められ、その補助金によって遂行することが出来た。

1 施設運営

(1) 実施事業

ア 特別保育等

- ・ 零歳児保育特別対策事業実施（零歳児取扱人員：10名）
- ・ 産休明け保育実施
- ・ 延長保育実施（1時間延長）
- ・ 延長保育事業（1歳以上児受入れ）
- ・ 障害児保育事業実施
- ・ アレルギー児に対する除去食及び代替食実施
- ・ 一時保育事業

イ 地域子育て推進

- ・ 小中高生の育児体験受入れ 年62日間受入れ
- ・ 育児相談 随時実施
- ・ 保育所体験 年48回・20人受入れ実施
- ・ 出前保育 年10回実施
- ・ 子育てサークル支援 年3回実施
- ・ 子育て情報誌の発行 年10回発行
- ・ 育児困難家庭への支援（1名受入れ在籍）
- ・ 外国人児童受入れ（3名受入れ在籍）
- ・ 年末保育 12/29～12/30実施

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
ひよこ	0歳	3	10		
うさぎ	1歳	3	15		
こあら	2歳	3	18		
ひつじ	3歳	2	18		
ぱんだ	4歳	1	18		
きりん	5歳	1	15		
合 計		13	94		

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 296 日
25	23	26	25	27	24	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
25	24	25年未有	23	23	26	

ウ 健康管理

健康診断

0歳児 毎月

乳児・幼児 年2回（6月、11月）

歯科検診 年2回（6・11月）

蟯虫卵検査 年1回（5月）

エ 保 育

各組の保育目標

きりん組（5歳児）の年間目標

- ・心身ともに健康な体で意欲的に過す ・友達同士認め合い、力を合わせて活動する
- ・自分で考え表現する・自律して生活する ・イエス様と共に生きる

年間目標 評価・課題

グループ活動を中心に協力して活動する事を年間を通して大切に考え、取り組んで来た。グループの中でリーダーを決め、取り組みをする時はグループで話し合う時間を作り、自分達の考えた取り組みが出来る様に進めた。1学期から乳児クラスに手伝いに行くなど異年齢での交流を大切にした。2学期からは3歳児を含めた縦割り活動を取り入れた。お別れ遠足などの活動では縦割りグループでの行動を主体にした。

ぱんだ組（4歳児）の年間目標

年間目標 評価・課題

月齢にとらわれず、一人一人の育ちを見て無理のない生活や関わりを大切にしてきた。子どものやりたい気持ちを大切にし、時には見守りながら待つことも意図的にしてきた。子ども同士の関わりが深まる中で他児の存在の大切さを伝えたり、思いやりが育つ様な働きかけをしてきた。

ひよこ組（0歳児）の年間目標

- ・よく遊び、よく食べ、よく眠り気持ちよく過す。
- ・発達にあった手足、身体の動きが見られるようになる。
- ・個々の要求や欲求を表し求めようとする

年間目標 評価・課題

甘えたい子どもの気持ちに寄り添う保育を大切にきて来た。前半は、担当制を大切に考え食事は担当の職員が世話する様にした。その結果、大人との愛着関係が出来、無理なく毎日の生活をおくれるようになってきた。保護者との信頼関係を築けるよう日々会話や連絡帳を通したコミュニケーションを大切にきて来た。

こぶた組（一時保育）の年間目標

- ・預かった子どもたちが安心できる居場所となる。
- ・ひとり一人の生活条件を理解して受け入れを行う。
- ・子どもたちの意欲を尊重する受け入れを行う。
- ・一日の生活を無理なく過ごせるような受け入れを行う。

年間目標 評価・課題

開所5年目を迎え、4月より保育料が下がったこともあり、比較的コンスタントに予約が入るようになった。夏以降は利用者が毎日10名を超え、キャンセル待ちが発生する日が多かった。保護者のニーズに応じた保育をしているが、その日にくる子どものペースや生活を大切に考え、無理のない保育を心がけてきた。また、利用者の子育て相談にも関わりをふやしているが、後半は多人数の保育に追われ十分にニーズへの対応が出来なかった。また、保育者の都合で11月より担任が入れ替わることがあったが、利用者や子ども達を不安にさせない様に心掛けた。

2008年度実施行事

- 4月 1日 入園式・12日 春のウエルカム広場（異年齢交流）
16日イースター礼拝・20日害虫駆除
- 5月 10日 親子遠足（幼児）

- 6月 7日 親子遠足（乳児）
 - 6月 11・12日 こどもの日・花の日礼拝訪問
 - 7月 1日 プール開き・7月17・18日お泊り保育
 - 7月 30・31日 学童キャンプ 30日 音楽会
 - 9月 5日さんまの日
 - 10日 おじいちゃん・おばあちゃん遊ぼう会・害虫駆除
 - 26日 芋ほり遠足
 - 10月 11日 運動会・17日 焼き芋大会
 - 11月 8日 おまつり広場13・14日 収穫感謝祭礼拝・豚汁パーティー
 - 12月 20日 クリスマス礼拝・祝会
 - 1月 8日 もちつき会
 - 2月 7日 シルエット劇場
 - 2月 27日 幼児お別れ遠足
 - 3月 7日 地域活動リトミック
 - 3月 27日 進級式
- 月例行事 誕生会

年間行事 評価・課題

年間を通して滞りなく行事を遂行することが出来た。幼児児クラス担任の力量が年々蓄積されてきていることは心強いかぎりである。昨年度の反省を基に適切にプログラムが展開されており、特に年長組の取り組みが充実していた。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年 2 回

栄養素の質、量のバランスを考え献立表を作成

季節の素材を積極的に取り入れ、嗜好に富んだ献立を作成

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

年間を通して食育に力をいれてきた。魚の姿煮、、空まめ、とうもろこしの皮むき、野菜の栽培など実際に眼で見て楽しんで食べることを大切にしてきた。又、幼児はクラスでのクッキングも定期的に取り入れ、自分達のおやつなども手作りした。年長児は4月より、米を研いで炊く経験もし、ご飯が炊ける匂いに感動していた。今後も取り組みを進めていきたい。

カ 安全管理 毎月1日安全点検

交通安全教育（ 月 日）

非常災害時の避難訓練（毎月）

引き渡し訓練の実施（ 9月 1日）

環境教育、ゴミ処理を通してリサイクルの大切さを学ぶ（9月）

安全管理 評価・課題

防犯訓練を定例化する事で、危機管理に対する意識は年々高まってきている。職員の連携やチームワークが重要さも自覚されてきている。緊急時に備えて今後も気を引き締めていきたい。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	16名
調理員	4名(栄養士含む)
看護師	1名
嘱託医	1名(非常勤)
臨時職員、パート職員	18名

イ 健康管理

健康診断	年	2回(6月、11月)
歯科検診	年	2回(6月、11月)
細菌検査	年	12回
ぎょうちゅう検査	年	1回

ウ 職員会議

定例会	毎月	1回
行事前打合せ会(随時)		
乳児・幼児・食事カリキュラム	月	1回
期別反省会	年	2回

会議 評価・課題

職員会は毎回議題を前もって提示し、会議が効率よく行われるように心がけた。幼児・乳児カリキュラム会議も同様に行った。行事の打ち合わせと反省がうまく機能していないのが、今後の課題といえよう。

エ 研修計画

- ・園内研修(2回)
- ・法人内研修
- ・葛飾区子育て支援課・葛飾区私保連・全私保連・厚生労働省・東京都社会福祉協議会ムジカ教育研究所

研修 評価・課題

キャリア別に研修を組みスキルアップできるようにした。職員の希望も考慮しつつ、目的を持って研修に臨んでもらうことにした。研修後は報告の時間をとり、職員みんなで研修の成果を共有できる様にした。

オ 退職・福利厚生

社会福祉・医療機構 退職共済制度加入
東京都社会福祉協議会 従事者共済会加入
財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理（出勤管理、有給休暇管理 等）

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

- ・保育指導計画等の作成
- ・給食献立表等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

定期的に事務仕事を効率よく行なえる様に心がけた。

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

園庭の固定遊具のメンテナンス

イ 老朽設備の点検、老朽箇所を更新

設備関係 評価・課題

1歳児室エアコンが20年近くたっており、修繕をする。2Fテラスのペンキ塗りを3月に行なう。

(3) 備品関係

ア 備品購入

イ 保育用品購入
プロジェクター

ウ 給食用品購入

エ 固定資産物品購入

備品関係 評価・課題

大型木製遊具を設置し、子どもたちの遊びの結成化を図る事にした。

(4) 災害対策

ア 避難訓練
毎月1回

イ 防災設備の点検委託
年2回(内、届け出1回)

ウ 非常食糧の備蓄
○(全園児数+全職員数)×3食×(1日~3日)分

災害対策 評価・課題

毎年葛飾区よりの補助金を得て、非常食の入れ替えを行っている。

3 地域社会との連携

おまつり広場、地域活動、もちつき会、保育ボランティア活動、卒園児学童キャンプ
運動会、卒園式、一時保育登録児クリスマス

地域社会との連携 評価・課題

園の行事に地域の方を招いたり、地域の行事に園からも出向いていくように心がけた。少しずつ地域の信頼を得られているように思う。又、一時保育・出前保育でも在宅子育て家庭への支援内容を益々充実させてニーズに応じていきたい。2008年度は家庭訪問も行った。

記入者（施設長）

土 屋 恵 子

- 子育て支援センターの部屋を設け、地域の子育て支援を行っているが、年間およそ3,600人の利用があり、大変好評であった。今後も利用者の声を聞きながらより充実させていきたい。2009年度からセンター型とする。
- 御殿場教会中島牧師を招いて毎月聖書（テキスト使用）を学び、キリスト精神について学習した。講義方式でなく共に学び合えるような方式とした。心の育ちを期待してこれからも実施していきたい。
- 3名の職員を採用した。経験年数が少ない職員集団となったので、保育技術向上や資質向上に力を注いだ。
- 共同募金により園舎前に掲示板を設置した。園広報誌『さんかく屋根から』や子育て情報を提供した。
- 雪災防止の為に雪止め工事及び屋外機に防雪フード工事を実施した。今後雪による災害が避けられ安心して保育活動ができる。
- 市内の幼稚園で総合遊具による転落事故が発生したので、事故防止の安全マットを設置した。
- 天幕が古くなり支障をきたしていたところ、御殿場財産区（公共団体）から2張の寄贈をいただいた。運動会やバザーなどの屋外での活動が安心してできるようになった。
- 御殿場愛郷報徳社（公益法人）からデジタル複合機（FAX・コピー）1台を寄贈いただき事務の効率化が図られた。

1 施設運営

（1）実施事業

ア 特別保育等

- ・産休明け保育実施 2名
- ・延長保育実施（1時間延長）年間延べ1,045名利用
- ・延長保育事業（零歳児の受入れ）年間延べ7名利用
- ・アレルギー児に対する除去食及び代替食実施

イ 地域子育て推進

- ・育児講座 年10回実施 182名参加
- ・お年寄りとの交流 年8回実施
- ・退所児童との交流 年4回実施
- ・小中高生の育児体験受入れ 年間受入れ延べ173名
- ・育児相談 随時実施
- ・保育所体験 年11回、112人受入れ実施
- ・子育てサークル支援 1才児クラブ14回、2才児クラブ14回

- ・子育て情報誌の発行 年12回発行
- ・外国人児童受入れ（1人）

(2) 児童の処遇

ア クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	障碍児数	備考
ちゅうりっぷ	0歳	2	5		途中入所があった為、
たんぼぼ	1歳	3	17		年齢区分による人数と
ひまわり	2歳	3	18		保育士数が異なる
もも	3歳	2	29		
すみれ	4歳	1	30		
ゆり	5歳	2	28		軽度精神遅滞1名
	その他	2			子育て支援
合 計		15	127		

イ 月別保育日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 293日
25	24	25	26	26	24	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	23	23	23	23	25	

ウ 健康管理

健康診断

乳児 年2回（5月、10月）

幼児 年2回（5月、10月）

歯科検診 年1回（5月）

蟯虫卵検査 年1回（5月）

エ 保 育

各組の保育目標

ゆり組（5歳児）の年間目標

- ①・様々な活動に取り組み、仲間に認められることによって自信を得、自己発揮する。
- ②・様々な遊具や用具を使い、複雑な運動や集団遊びを通して体を動かすことを楽しむ。

- ③・健康、安全に必要な基本的な習慣や自主・自律の態度を身につけ、理解して行動する。
- ④・様々な事物や事象と自分たちの生活との関係に気づき、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる。
 - ・異年齢や様々な人とかかわる中で、それぞれの違いを認め合っていけるようにする。
 - ・人の話をよく聞き、自分で考え、自分の意見を相手あるいは集団の中に伝えられるようになる。
- ⑤・自分のもつ好奇心や知的探究心を働かせることにより、考える力が育ち、表現力が豊かになり感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。

年間目標 評価・課題

年長児としての自信と意欲を持たせるよう個々の性格や成長度合いにより、行事や遊びの中できめ細かく対応をした。特に『人の話を静かにしっかり聞けること』について、約束事をつくり様々な方法で取り組んだところ概ね達成できた。健康や安全面について理解し行動できたが、子どもの好奇心や知的探究心を満足させ、表現する喜びを味わうことについては、十分に展開することが出来なかったのが今後の課題としたい。

すみれ組（4歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの要求を十分に満たし、情緒の安定を図る。
- ②・友達と遊ぶことの喜びや楽しさを感じ、集団で活動することを楽しむ。
 - ・意欲的にいろいろなことに挑戦し、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ③・健康、安全などの生活がわかり基本的な習慣を次第に身につける。
- ④・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。
- ⑤・自然や身近な事がらにふれ、驚いたり、感動したりして関心が深まる中で、そのことを表現しようとする

年間目標 評価・課題

スキンシップを多くし会話を大切にしたい為、情緒が安定し鉄棒への挑戦や、人前で話ができるようになり、励まし喜びを共感していった。また、基本的な生活習慣について、繰り返し指導をすると共に紙芝居等を利用し理解を深め、概ね身についた。散歩や外遊びを通して身近な自然を楽しむことができた。全般的に基本となる部分は達成できたが、もう一歩深め幅を広げていきたかった。

もも組（3歳児）の年間目標

- ①・生活が自立してくることで自信をもち、自分のやりたいことが実現できるようになる。
- ②・外遊びを十分にするなど遊びの中で身体を動かす楽しさを味わう。
- ③・食事・排泄・睡眠・衣服の着脱等の生活に基本的な習慣が身につくようになる。
- ④・自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、一緒に遊ぶ喜びを知る。
- ⑤・様々なものを見たり触れたりして、面白さ・美しさなどに気づき感性を豊かにもつ。

年間目標 評価・課題

励ましたり見守っていく中で、生活面が自立し基本的な生活習慣が身についた。言葉の表現が豊かになり、相手に気持ちを伝えることができるようになった。その為、手がでたりするトラブルが少なくなった。自然を対象とした遊びを多く取り入れることができた。

ひまわり組（2歳児）の年間目標

- ①・たくさんの自己主張や思いの表れを大人に受け止めてもらうことで、安心して気持ちを出せるとともに、自分の気持ちを切り替えられるようになる。
- ②・身体を動かすことが楽しくなり、いっぱい遊ぶ。
- ③・簡単な身の回りの活動を自分でしようとする。
- ④・保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりを楽しむ。
- ⑤・大人やまわりのことに興味をもち、みたて、つもり遊びを通してイメージを豊かに広げていく。

年間目標 評価・課題

言葉が出なくて自分の思いを伝えられない時は、ゆっくり待ってその気持ちを充分受け止めていくように心がけた。保育士を仲立ちとして生活や遊びの中で、ごっこ遊びや言葉のやりとりの時には、間に入り会話を助け、遊びが発展していけるようにした。また、季節に合わせての遊びも多く取り入れた。みたて遊び、つもり遊びができるように玩具の用意をしたが、もっとイメージを膨らませるように手作りのおもちゃを増やしていきたい。

たんぽぽ組（1歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの生理的欲求や甘えなどの依存的欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。
- ②・保育士に見守られながら、様々な生活、遊びを通して、探索活動を十分に行い体を動かすことを楽しむ。
- ③・安心できる保育士との関係のもとで、食事、排泄等を自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ④・安心できる大人に見守られる中で、他の子どもにも関心をもち、関わろうとする。
- ⑤・身のまわりの様々なものを見たり、いじったり、身のまわりの自然や事象に対する好奇心や関心をもち、

年間目標 評価・課題

一人ひとりの子どもの甘えや欲求を満たしていけるようにしてきた。噛みつき、引っかき等手が出しまったり、トラブルが起きた時には、言葉をうまく伝えることができない子どもの思いを代弁しながら仲立ちすることで、子どもの心が安定し、友だちへのやさしい気持ちを育てることができた。遊びについては、戸外、室内でも積極的に体を動かす活動を多く取り入れたが、安全には気をつけていきたい。

ちゅうりっぷ組（0歳児）の年間目標

- ①・一人ひとりの子どもの甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る。
- ②・安全で活動しやすい環境を整え、姿勢を整えたり、移動したりして、いろいろな身体活動を十分に行う。
- ③・保健的で安全な環境をつくり、常に身体の状態を細かく観察し、疾病や異常の発見に努め快適な生活ができるようにする。
 - ・一人ひとりの子どもの生活リズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図り、甘えなどの依存的欲求を満たし、情緒の安定を図る。
 - ・個人差に応じて離乳を進め、いろいろな食品に慣れさせ幼児食への移行を図る。
- ④・優しく語りかけたり、発音や喃語に応答したりして、発語の意欲を育てる。
- ⑤・聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手指の機能を促す。
 - ・安心できる人的物的環境の下で絵本や玩具、身近な生活用具などを、見たり、触ったりする機会を通して、身の回りのものに対する興味や好奇心の芽生えを促す。

年間目標 評価・課題

一人ひとりの子どもの生活リズムを家庭の意向や様子を聞きながら作っていくようにした。食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たしたので、落ち着いた生活ができたと思う。体を動かしたい子には可動遊具を用意し、すべり台、シーソー、平均台などの遊びを取り入れてみたら、とても喜んだ。課題としては好みや個人の発達を理解し、好奇心を芽生えさせる遊びを取り入れていきたい。

2008 年度実施行事

- 4月 4日 入園式
- 5月 13日 春の親子遠足 22日 さつまの苗さし
- 6月 12日 花の日の礼拝と訪問
- 6月 16日 花火教室
- 7月 1日、2日 保育参観
- 7月 24日 卒園生のつどい
- 9月 27日 運動会
- 10月 1日 秋の遠足 18日 学園まつり 28日 芋掘り・焼芋大会
- 11月 6日 幼児祝福式 26日 球根植え・ゲートホール大会 20日 収穫感謝祭
- 12月 16日 もちつき 13日 クリスマス会 17日 イブ礼拝
- 1月 5日 雪あそび
- 2月 7日 お茶会 16日 観劇 24日 昔のあそび
- 3月 5日 ふれあいピクニック 21日 卒園式

月例行事 誕生会

年間行事 評価・課題

餅つきについては、近くの高根農協の職員と卒園生（農協の職員）に、餅米、器材持参で支援していただいた。これからもお願いしていきたい。地域老人クラブとの交流については、会員の方々が高齢となり新しく入ってこられる方々がほとんどないので、もう少し行事を減らしてほしいという依頼があった。次年度は検討していく予定である。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告 年1回

給食供給者としての諸管理

栄養管理 評価・課題

給食施設栄養指導で定員が120名になったため、健康増進法第21条2項の「栄養士又は管理栄養士を置くように努めなければならない」と指導を受けたので、次年度より栄養士を正規職員として採用する。

カ 安全管理

交通安全教育（7月6日、10月31日） 婦人交通指導員によるおはなしと実技

非常災害時の避難訓練（11月7日）

引き渡し訓練の実施（11月7日）

安全管理 評価・課題

災害時に備えて毎月1回御殿場市地域防災無線通信訓練を行っている。婦人交通指導員に依頼し「子どもの交通安全について」というテーマで講演会を実施した。また、地域の「高根防犯まちづくりの会」に入り、のぼり旗を立てたり、登降園時に巡視し近隣の方々と声かけをし、連絡を取り合った。

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
保育士	15名（短時間パート2名含む）
調理員	4名（短時間パート1名含む）
事務員	1名
嘱託医	2名（非常勤）

イ 健康管理

健康診断 年1回（11月と1月に分かれて）

細菌検査 年24回

調理師、保育士 毎月2回

ウ 職員会議

定例会 毎月 1回

期別反省会 (年 4回)

会議 評価・課題

会議に先立ち牧師から聖書のメッセージを頂いた後、会議に入ることにしている。
これによって、職員が何を大切にしていけばいいかが理解でき、積極的な意見が出やすくなっている。

エ 研修計画

- ・園内研修
- ・法人内研修
- ・保育団体研修 (県保育所連合会、市保育の会等 その他研修)

研修 評価・課題

御殿場教会の中島善子牧師を招いて、「神と人に仕える」ことについて、聖書の学びを行った。また、園外の研修に参加した職員は研修レポートを提出して、それを全職員に回覧し研修内容を共有してきた。今後は園内研修として研修参加者が講師となり発表する機会を設けたい。保育団体研修にも積極的に参加し、資質を高め共有化を図った。

オ 退職・福利厚生

独立行政法人福祉医療機構 退職共済制度加入

静岡県社会福祉協議会 従事者共済会加入

財団法人雲柱社 福利厚生センター加入

2 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・小口現金出納事務、・実費徴収事務
- ・労務管理 (出勤管理、有給休暇管理 等)

イ 児童処遇事務 (保育、給食、健康管理)

- ・保育指導計画等の作成
- ・健康診断記録表等の作成

事務関係 評価・課題

特に問題はなかった。

(2) 設備関係

- ア 固定遊具の設備点検
- イ 老朽設備の点検、老朽箇所の更新

設備関係 評価・課題

固定遊具グローブジャングルが回転時に時々異音がする為、次年度以降撤去するか検討したい。避難用外部非常階段については錆びてきたので安全のため塗装工事をした。また、北側門扉とウッドデッキは不具合が生じたため、修繕をした。

(3) 備品関係

ア 備品購入

シュレッダー	18,800	
職員用ロッカー (10人用)	55,650	
防災用テレビ	87,097	
ふとん収納台	77,600	
ふとん収納台専用カバー	31,600	

イ 保育用品購入

背板付き白木棚 (三段) 6台	193,347	
ワンタッチ鉄棒 2台	27,300	
かるかるカラーマット	47,000	
デジタルピアノ 3台	283,500	単価 94,500円
背板付き白木棚 (二段) 4台	105,600	単価 26,400円
三輪スクーター5台	63,000	単価 12,600円
ワンタッチ調節式紅白代	25,000	玉入れスタンド
絵本立て	32,000	

ウ 給食用品購入

炊飯ジャー	17,800	子育て支援室用
ステンレス折りたたみワゴン	90,000	子育て支援室用

エ 固定資産物品購入

森の掲示板	399,000	共同募金寄付 290,000 自己資金 109,000
フルカラーデジタル複合機	525,000	社団法人御殿場愛郷報徳社の寄付

備品関係 評価・課題

検収の結果、すべて問題がなかった。

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回(内、届け出1回)

ウ 非常食糧の備蓄

○(全園児数+全職員数)×3食×(1日~3日)分

災害対策 評価・課題

ツナ缶、乾パン、140名×3食×1日分 飲料水2日分

3 地域社会との連携

地域社会との連携 評価・課題

緊急一時保育、地域老人クラブとの交流、子育て支援センター等幅広く地域との交流を深めることができた。たくさんの方々が保育園を利用した。次年度、子育て支援に関しては、ひろば型からセンター型になるため、事業も拡大していく予定。

4 その他(特記)

2008(平成 20)年度 社会福祉法人雲柱社 さくら橋コミュニティセンター 事業報告

記入者/小原木 尚子

指定管理

さくら橋

	子育て支援活動	学童クラブ	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																							
事業の総括	<p>「地域での子育て」の支援をテーマに午前中に行っている「乳幼児とお母さんのつどい」は0歳～3歳までの乳幼児の親子を対象に行っている。活動終了後もゆっくりと過ごせるようにプレイルームやランチタイムなどを設け、体育館(3F)・幼児室(2F)を午後1時まで開放し、コミュニケーションの場としている。また、幼稚園に通っている子ども達の交流も目指し、午後からは幼児クラス活動を展開している。(公立2年保育の方への支援も含)</p> <p>午後の幼児の利用の活性化、イベントへの参加を進めといくことにした。今年度は0歳、1歳、の利用が多く地域での子育て、お母さんの友達づくりや広く安全なところで子どもを遊ばせたいというニーズに応えることが出来た。後半からの0歳低月齢児の参加が増え、今年度は0歳低月齢クラス「こパングラス」を予定より早い時期から行った。保健センターとの連携を多くもったことで見えてきた課題があり、児童館も共に連携して問題の解決に力を注いできた。</p>	<p>今年度の学童クラブとしての活動目標は、子どもたちにとって安心して過ごせる生活の場となること。仲間との交流を深め遊びや生活を豊かにする場となること、個と、集団のかかわりのバランスを保ち一人ひとりを大切にすること。クラブおよび児童館内でのルールを守り、社会性を学ぶこと。の4つであった。クラブとしてのまとまりと一人ひとりの生活を充実させるように配慮した。毎日のおやつも手づくりや旬のものをとり入れ、成長の糧となるおやつ提供に努めた</p> <p>1年から3年までの構成されたメンバーでグループでのおやつや学童クラブレクリエーション(月1回午後)帰りの会を行った。学年の枠を超えてまた学年を意識しての子どもたちの取り組み姿勢がみられた</p> <p>墨田特別支援学校より入会する児童が2名あり、介助に取り組んできた。</p> <p>少子社会の影響を受けて、定員60名のところ、45名でスタートした。今年度は各町会で長年行ってきたミニバレーボール大会も地域の少子化により中止をした状況だった。</p>	<p>地域の児童がセンターとして自由来館を基盤にしながら、活動やイベントに参加しやすいように間口の広いプログラムを展開してきた。年齢別の活動を中心とするコミュニティクラブの活動は、高学年(4～6年)・低学年(1～3年)を中心に、新しいメンバーにも参加しやすいように登録制をとる事にした。また、家庭との連絡を密にし、様々のイベントを企画し実施してきた。その他、地域の児童の健全育成を支援するために、遊び、学習、生活体験、スポーツ、読み聞かせ 手作り教室、その他のプログラムを行ってきた。高学年は参加しやすい水曜日の活動をベースに行ってきた。また今年度は「体験」を中心とした企画を多く行った。</p> <p>イベントでは、墨田区主催のドッチボール大会において、低学年・高学年とも優秀な成績をおさめることが出来た。また、雲柱社内の児童館同志のドッチボール交流練習試合、交流ハイキングなどにも参加した。</p> <p>小学生の一時預かり(名称クオレ)をひき続きおこなった。</p>	<p>夕方6時以降の利用となる中学生の館内の過ごし方は主に体育館の仲間・職員とのスポーツやクッキング・おしゃべりなどである。6時までの小学生の利用があるため夕方まではなかなか居場所がない。夕方6時から中学生の時間と明記し小学生との共存を図り、来館しやすいプログラムを企画した。</p> <p>夜9時まで閉館している時間にはシネマタイムやクッキングなど、中・高校生の意見を聴きプログラムを諸君と共に立ち上げてきた。</p> <p>「体験」「学習」「ボランティア」の3本の柱をベースに様々なジャンルの企画を行った。グループ同士の目的型来館が増えている。</p> <p>※ スポーツ (中学生～)</p> <p>※ 学習会 5名登録 ※音楽室利用 16ﾊﾞﾝﾄﾞ</p> <p>目的を持っての利用がきっかけとなりその他のプログラムに参加・体育館利用など、交流が広がってきている。</p> <p>夜間利用 合計 6663人 1日平均 19人</p>	<p>地域との協働を上げていくための活動も活発に行ってきた。</p> <p>地域との連携もとれており、民生委員、中学校地区育成委員、町会長、連合町会、子ども会などの方々との情報共有ができた。</p> <p>学童クラブの父母との連携もとれていて、7月にはキャンプの実施、昼食会の実施など子どもたちとともにたのしいイベントができた。</p> <p>中高生のﾊﾞﾝﾄﾞ活動コンサートについても 音楽室利用者OBや利用者の保護者の参加など交流活動の多い年であった。(年3回の実施)</p> <p>運営委員会実施 6月、11月、</p> <p>センター開館以来の念願だった言問地域に小学校内学童クラブが出来ることになった。地域のかたの努力と支援の賜物であることをご報告したい。</p> <p><ボランティア活動></p> <p>エコキャップ収集 80kg ・アルミ缶回収</p> <p>切手収集作業・隅田公園クリーン作戦</p> <p>障がい者福祉作業所への実習・協力</p>																																																																							
活動・行事報告	<p>* 子ども服リサイクル (6月・10月)129組</p> <p>* おはなしの会 計8回</p> <p>* 夏休みプログラム(水遊び7・8月月曜)84組</p> <p>* うんどうかい 10月 言問小学校校にて 85組</p> <p>* バスハイク 9月 横浜ゾーンアジア 14組</p> <p>* 乳幼児クリスマス 12/8 48組</p> <p>* 子育て相談 計3回</p>	<p>* 学童レクリエーション(月1回 3F体育館)</p> <p>* 誕生日会 ひとりひとりの誕生日にあわせて、おやつ時間においおいをします</p> <p>* お便り「さくらんぼ」の発行 ・保護者会の実施</p> <p>* 環境整備 おもちゃの充実(テーマ遊び)・ロッカー</p> <p>「ピカピカの日」・ 帰りの会のプログラム</p> <p>* 観劇「あらしの夜に」7月・おもちゃ美術館 8月</p> <p>* おでかけ 上野動物園 10/1</p> <p>* ハロウィンパーティー・クリスマスパーティー</p> <p>* おわかれハイキング* 父母会と共催キャンプ・昼食会</p>	<p>日常のプログラム</p> <p>お昼ごはんを作って食べよう 月1回</p> <p>おかしづくり 月1回</p> <p>てづくりタイム 月2回</p> <p>各種 スポーツ大会</p> <p>体育館(3F)野球、一輪車、鬼ごっこ・スポーツタイム</p> <p>ノーボールタイム ほか</p> <p>図書室(2F)読書(絵本、紙芝居、図鑑ほか)</p> <p>集会室(1F) 木工、ビデオシアター、マット</p>	<p><イベント></p> <p>・こどもの日フェスタ 77人</p> <p>・えんにち 556人</p> <p>・コミュニティラリー 69人</p> <p>・こどもクリスマス会 54人</p> <p>・もちつき 232人</p> <p>・コミュニティひろば 176人</p> <p>*各コミュニティクラブでは、デイキャンプ・合宿・キャンプ・リサイクル活動 等を年間で実施</p>	<p>・ 学童クラブキャンプ(父母会主催) 子ども 19人</p> <p>・ 体験学習キャンプ<ワークキャンプ> 山梨県あさひ福祉作業所 *今年度は小学5年生より参加可</p>																																																																							
登録者・来館者	<p>(登録数組)</p> <table border="1"> <tr><td>0歳児低月齢クラス</td><td>30</td></tr> <tr><td>0歳児高月齢クラス</td><td>100</td></tr> <tr><td>1歳児クラス</td><td>83</td></tr> <tr><td>2歳児クラス</td><td>61</td></tr> <tr><td>3歳児クラス</td><td>8</td></tr> <tr><td>幼児3歳児クラス</td><td>30</td></tr> <tr><td>幼児4歳児クラス</td><td>21</td></tr> <tr><td>幼児5歳児クラス</td><td>22</td></tr> </table> <p>乳幼児クラスのべ参加人数 3913組</p>	0歳児低月齢クラス	30	0歳児高月齢クラス	100	1歳児クラス	83	2歳児クラス	61	3歳児クラス	8	幼児3歳児クラス	30	幼児4歳児クラス	21	幼児5歳児クラス	22	<p>(在籍児数)</p> <table border="1"> <tr><td></td><td>男</td><td>女</td><td>計</td></tr> <tr><td>1年生</td><td>7</td><td>6</td><td>13</td></tr> <tr><td>2年生</td><td>11</td><td>8</td><td>19</td></tr> <tr><td>3年生</td><td>7</td><td>4</td><td>11</td></tr> <tr><td>4年生</td><td>1</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>6年生</td><td></td><td>1</td><td>1</td></tr> </table> <p>* 年間延べ指導児童数 10113人 平均42%</p> <p>*18:00 以降の預かりが多く8～10名のこの育成を自主的に法人として行っている(改善を区に要望していく)</p> <p>小梅小・言問小・墨田特別支援学校より帰館</p> <p>※年末保育 12/29.30 9名</p>		男	女	計	1年生	7	6	13	2年生	11	8	19	3年生	7	4	11	4年生	1		1	6年生		1	1	<p>(2008年度来館者数)</p> <table border="1"> <tr><td></td><td>男</td><td>女</td><td>計</td></tr> <tr><td>乳幼児</td><td>3953</td><td>3749</td><td>7702</td></tr> <tr><td>小学生</td><td>16265</td><td>11204</td><td>27469</td></tr> <tr><td>中学生</td><td>1766</td><td>538</td><td>2304</td></tr> <tr><td>高校生</td><td>1004</td><td>619</td><td>1623</td></tr> <tr><td>一般</td><td>3689</td><td>15150</td><td>18839</td></tr> <tr><td>計</td><td>26677</td><td>31260</td><td>57937</td></tr> <tr><td>※開館日数</td><td></td><td></td><td>347</td></tr> </table> <p>*1日平均 167.0人</p>		男	女	計	乳幼児	3953	3749	7702	小学生	16265	11204	27469	中学生	1766	538	2304	高校生	1004	619	1623	一般	3689	15150	18839	計	26677	31260	57937	※開館日数			347	<p>(その他の事業、特記事項)</p> <p>子育て相談員・保健師による子育て相談会・子育て講座</p> <p>・ 地域事業(育成委員会と合同プログラム)・・・地域事業との連携 1月より、 鮭の稚魚(イクラ)を育てて、隅田川に放流をする。向島、桜橋河川敷</p> <p>・牛島神社祭・・・9月中旬</p> <p>・お母さんのための七宝焼き教室(月1回) 今年度は区での一芸ひろばに出展 行使を努める。</p> <p>・思春期のこを持つ親の会「桜の樹」設立</p> <p>総会をかねて、映画を上映「西の魔女が死んだ」懇談のときを持つ</p> <p>・ケース検討会議(学童クラブ児童)・・・小学校、子育て支援総合センター、保健センター、主任児童委員を交え 行う</p> <p>*運営協議会の開催 7月、3月</p>
0歳児低月齢クラス	30																																																																											
0歳児高月齢クラス	100																																																																											
1歳児クラス	83																																																																											
2歳児クラス	61																																																																											
3歳児クラス	8																																																																											
幼児3歳児クラス	30																																																																											
幼児4歳児クラス	21																																																																											
幼児5歳児クラス	22																																																																											
	男	女	計																																																																									
1年生	7	6	13																																																																									
2年生	11	8	19																																																																									
3年生	7	4	11																																																																									
4年生	1		1																																																																									
6年生		1	1																																																																									
	男	女	計																																																																									
乳幼児	3953	3749	7702																																																																									
小学生	16265	11204	27469																																																																									
中学生	1766	538	2304																																																																									
高校生	1004	619	1623																																																																									
一般	3689	15150	18839																																																																									
計	26677	31260	57937																																																																									
※開館日数			347																																																																									

事業の総括	子育て支援活動	学童クラブ (本館・分室)	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																															
活動・行事報告	<p>① 年齢別活動の参加をうながした。初めての方も孤立化しないよう配慮に努めた。</p> <p>② 様々な子育て情報の提供に努めた。通常の掲示や印刷物配布だけではなく、活動中に口頭でインフォメーションを流す等した。</p> <p>③ 特定グループの専有化を防ぎ、多くの方に公平に利用していただけるよう職員は努力をした。</p> <p>④ 要望の強い相談活動については、なるべく希望に沿うように努力して実施した。</p>	<p>① 08年度は、二寺小学校校舎工事で、分室は墨田児童会館の本館学童クラブと合同で、本館にて運営をした (1年間)</p> <p>② 年に数回、なるべく親も参加できるプログラムを提供した。</p> <p>③ おやつ、生活面、手芸、木工、工作等に工夫をし、また本人自ら友だちとの関係を広げられるよう、様々な遊びができるようになるよう配慮した。</p>	<p>① 学年別グループ活動(フレンドリークラブ)への参加を促し、年齢に対応したプログラムを展開した。</p> <p>② 様々な理由で参加しない子(習い事、塾等)も、たまに来た時でも居場所が確保できるよう、多種多様なプログラムを提供する努力をした。</p> <p>③ 学校を超えたグループ形成、友だち作りを行ってきた。</p>	<p>① 来館が非常に不定期で、部活やアルバイトに左右される場合が多かった。</p> <p>② 特定のグループだけの利用という意識が強く、他との交流が難しい場面が多かった。</p> <p>③ 音楽活動は児童館でのライブを開催することが出来た。</p> <p>④ 各種の相談を職員が受けてきた。</p>	<p>① 日曜休日開館の実施</p> <p>② 母親コース(講師派遣、場所提供、交流会等の実施)</p> <p>③ 母親卓球(3グループ) 会場提供</p> <p>④ 母親バドミントンへの協力、会場提供</p> <p>⑤ 募金活動 A:「赤い羽根共同募金」鐘ヶ淵駅前 B:一般行事での募金「WFP 国連食糧計画」</p>																																																																															
登録者・来館者	<p>(登録数)</p> <table border="1" data-bbox="172 1612 706 1940"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td>66</td> <td>64</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td>51</td> <td>43</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td>2歳児クラス</td> <td>35</td> <td>38</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>3歳児クラス</td> <td>21</td> <td>14</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>4,5歳児クラス</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>193</td> <td>180</td> <td>373</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児クラス	66	64	130	1歳児クラス	51	43	94	2歳児クラス	35	38	73	3歳児クラス	21	14	35	4,5歳児クラス	20	21	41	計	193	180	373	<p>(在籍児童数) ※退所・途中入所含む総数</p> <table border="1" data-bbox="753 1612 1228 1940"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>51</td> <td>41</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>43</td> <td>51</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>34</td> <td>31</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>131</td> <td>125</td> <td>256</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	51	41	92	2年生	43	51	94	3年生	34	31	65	4年生	2	1	3	5年生	1	1	2	計	131	125	256	<p>(2008年度来館者数)</p> <table border="1" data-bbox="1282 1612 1774 1856"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>6507</td> <td>5444</td> <td>11951</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>27125</td> <td>20189</td> <td>47314</td> </tr> <tr> <td>中・高校生</td> <td>2955</td> <td>601</td> <td>3556</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>2075</td> <td>12362</td> <td>14437</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>38662</td> <td>38596</td> <td>77258</td> </tr> </tbody> </table> <p>※会館日数 348 日 ※1日平均 222 人</p>		男	女	計	乳幼児	6507	5444	11951	小学生	27125	20189	47314	中・高校生	2955	601	3556	一般	2075	12362	14437	計	38662	38596	77258	<p>(その他の事業、特記事項)</p> <p>① 二寺小学校校舎改修工事のため、本館と二寺分室の学童クラブは、本館にて合同で運営した。</p> <p>② 年度末に、二寺分室は小学校内へ復帰移転(引越し)をした。</p> <p>③ 年度末に、隅田分室は、隅田小学校移転に伴ない、移転(引越し)をした。</p> <p>④ 補修工事 建物老朽化に伴ない、補修費用時に適時、実施した。トイレ(バルブ、水漏れ、他)、電灯不点灯、電線配線劣化、エアコンOH、ドアノブ、ドア鍵、玄関階段補修、等。</p> <p>⑤</p>
クラス名	男	女	計																																																																																	
0歳児クラス	66	64	130																																																																																	
1歳児クラス	51	43	94																																																																																	
2歳児クラス	35	38	73																																																																																	
3歳児クラス	21	14	35																																																																																	
4,5歳児クラス	20	21	41																																																																																	
計	193	180	373																																																																																	
	男	女	計																																																																																	
1年生	51	41	92																																																																																	
2年生	43	51	94																																																																																	
3年生	34	31	65																																																																																	
4年生	2	1	3																																																																																	
5年生	1	1	2																																																																																	
計	131	125	256																																																																																	
	男	女	計																																																																																	
乳幼児	6507	5444	11951																																																																																	
小学生	27125	20189	47314																																																																																	
中・高校生	2955	601	3556																																																																																	
一般	2075	12362	14437																																																																																	
計	38662	38596	77258																																																																																	

2008年度 雲柱社 児童館ブロック フレンドリーザ 文花児童館事業報告

記入者 山口 修

指定管理

文花

	子育て支援活動	学童クラブ（本館・分室）	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																															
事業の総括	<p>○お母さん方が気兼ねなく話をしたり、情報交換したり友だちつくる場となる。 →ディスカッションが好評であった。</p> <p>○子どもたちの成長を喜び合う場となる。 →共に育て、育つ関係づくりに課題が残った。</p> <p>○地域に子育ての共助の輪を広げる。 →グループの再構成への働きかけに課題が残った。</p> <p>○子育てに有効な情報を提供する。 →保健師による相談にたよることが多かった。</p>	<p>○子どもたちにとって、家庭に代わる安全な場となる。 →館内での事故はほとんどなかった。宿題からおやつ、遊びへなどの生活の流れもできていた。</p> <p>○子どもたちが安心して、楽しく過ごすことのできる場となる。 →遊びを含めた環境の整備ができていた。</p> <p>○ひとつの集団として、遊び、友達の間をを広げ、生活体験を豊かにする場となる。 →グループ活動などを通して、クラブの一体感を醸成することができた。</p>	<p>○子どもたちが創意工夫できるような活動を運動、文化の両面で展開する。 →プログラム内容に課題が残った。</p> <p>○体育室活動を活性化する。 →6年生を中心に縦関係の役割が機能し、大勢が楽しく遊ぶことができていた。</p> <p>○野外活動を積極的に展開する。 →キャンプが質・量ともに充実した。</p> <p>○地域における子ども社会の再生を目指し、縦のつながりを意識した活動を展開する。 →単年度としては、一定の成果があった。</p>	<p>○健全な余暇活動の実施。 ○子ども同士の交流を広げ、進める。 ○自己発揮の機会を作る。 ○ボランティア活動を通して、社会参加の機会を作る。 ○イベント作りなどを通して、協働の機会を作る。 ○読書会などを通して、世界の出来事を知る機会を作る。 →全体的に取り組みが不足し、停滞した。一方、学習会は内容も充実し、成果があった。</p>	<p>ボランティア活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クリーン作戦（公園、周辺の清掃）各定例活動にて各3回実施 ・ 共同募金（街頭募金）各定例活動にて実施 <p>自然体験事業</p> <p>定例活動ハイキング 2回 計 36名</p> <p>キャンプ 7回 計 247名</p> <p>ディキャンプ 3回 計 42名</p> <p>オーバーナイトハイク 10名</p>																																																																															
活動・行事報告	<p>乳幼児クラス、キンダークラス 下記表参照</p> <p>子育て講座 3講座3回実施 計45組</p> <p>子供服リサイクル 2回実施 計60組</p> <p>水遊び 6回実施 計43組</p> <p>夏トク すいか割り 47組</p> <p>都民の日スペシャルプレールーム 15組</p> <p>劇団公演 38組</p> <p>クリスマス会（乳児） 83組</p> <p>クリスマス会（幼児） 170組</p>	<p>分室親子ハイキング 中止（悪天候）</p> <p>本館親子ハイキング 中止（悪天候）</p> <p>分室クリスマス会</p> <p>本館クリスマス会</p> <p>分室クリスマス会</p> <p>本館クリスマス会</p> <p>本館分室合同夏休み遠足</p> <p>分室お別れ遠足 葛西臨海水族園</p> <p>本館お別れ遠足 大森公園フィールドアスレチック</p> <p>その他 分室遠足2回</p> <p>本館・分室共</p> <p>1年生、2年生、3年生タイム</p> <p>分室 工作タイム、手芸タイム</p>	<p>1年生定例活動（毎週1回）</p> <p>2年生定例活動（毎週1回）</p> <p>3～6年生定例活動（毎週2回）</p> <p>スポーツ大会（毎月1回）</p> <p>何でも大会（毎月1回）</p> <p>体力増進活動（毎週1回）</p> <p>クッキングクラブ（毎月2回）</p> <p>おはなし会（毎週1回）</p> <p>ブックトーク（毎月1回）</p> <p>手作り教室、手芸教室（毎月各1回）</p> <p>小学生学習会（毎週1回）</p> <p>他、体育室プログラム（毎週5回）</p>	<p>中高生学習会</p> <p>英語・算数・数学（各毎週1回）</p> <p>中高生トーキングタイム（毎月1回）</p> <p>中高生スポーツ大会（毎月1回）</p> <p>中高生合宿 1回 計12名</p> <p>中高生クリスマス会 8名</p>	<p>共通行事等</p> <p>こどもの日スペシャル 116名</p> <p>パークランドフェスティバル 1152名</p> <p>夕涼み映画会 203名</p> <p>夏トク（すいか割り・小学生） 60名</p> <p>都民の日スペシャル 333名</p> <p>やきいも会 499名</p> <p>もちつき会 292名</p>																																																																															
登録者・来館者	<p>（登録数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td>40</td> <td>44</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td>38</td> <td>35</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>2・3歳児クラス</td> <td>27</td> <td>21</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>年少クラス</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>年中・年長クラス</td> <td>20</td> <td>22</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>134</td> <td>131</td> <td>265</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児クラス	40	44	84	1歳児クラス	38	35	73	2・3歳児クラス	27	21	48				0	年少クラス	9	9	18	年中・年長クラス	20	22	42	計	134	131	265	<p>（在籍児数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>20</td> <td>22</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>20</td> <td>18</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>6年生</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>55</td> <td>54</td> <td>109</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	20	22	42	2年生	14	13	27	3年生	20	18	38	6年生	1	1	2	計	55	54	109	<p>（2008年度来館者数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>2174</td> <td>2680</td> <td>4854</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>16353</td> <td>13103</td> <td>29456</td> </tr> <tr> <td>中・高校生</td> <td>4576</td> <td>1645</td> <td>6221</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>1335</td> <td>11208</td> <td>12543</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>24438</td> <td>28636</td> <td>53074</td> </tr> </tbody> </table> <p>※会館日数 347日</p> <p>※1日平均 153.0人</p>		男	女	計	乳幼児	2174	2680	4854	小学生	16353	13103	29456	中・高校生	4576	1645	6221	一般	1335	11208	12543	計	24438	28636	53074	<p>（その他の事業、特記事項）</p> <p>新一年生歓迎会 65名</p> <p>小学生合宿 3回 計196名</p> <p>墨田区児童館対抗ドッジボール大会参加</p> <p>児童館ブロック 体験学習キャンプ参加、交流フェスタ参加、ドッジフェスタ参加</p> <p>小学生クリスマス会 172名</p> <p>図書キャンペーン スタンプラリー 2回実施</p> <p>運営協議会 9月、2月に開催</p>
クラス名	男	女	計																																																																																	
0歳児クラス	40	44	84																																																																																	
1歳児クラス	38	35	73																																																																																	
2・3歳児クラス	27	21	48																																																																																	
			0																																																																																	
年少クラス	9	9	18																																																																																	
年中・年長クラス	20	22	42																																																																																	
計	134	131	265																																																																																	
	男	女	計																																																																																	
1年生	20	22	42																																																																																	
2年生	14	13	27																																																																																	
3年生	20	18	38																																																																																	
6年生	1	1	2																																																																																	
計	55	54	109																																																																																	
	男	女	計																																																																																	
乳幼児	2174	2680	4854																																																																																	
小学生	16353	13103	29456																																																																																	
中・高校生	4576	1645	6221																																																																																	
一般	1335	11208	12543																																																																																	
計	24438	28636	53074																																																																																	

2008年度 雲柱社 児童館ブロック 外手児童館事業報告

記入者 森 裕樹

	子育て支援活動	学童クラブ（本館・分室・業平）	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																																			
事業の総括	<p>昨年度からの活動に新たに妊婦の方を対象にしたマタニティクラスを展開した。第一子より第二子の妊娠の方が多く参加された。お母さん企画では初めて家庭農園活動(プランター)を実施し、申込みが殺到していたが当日台風が直撃して後日取りに来る状態になった。3・4・5歳児の活動を水曜の午後にしたことで参加者が増加した。またすくすく計測やプレイルーム等の活動を展開することで午前中の受け皿を拡大させた。</p>	<p>2008年度は業平分室が新規事業として加わり、1併設2分室と3種異なった学童クラブの運営に当たった。特に業平と本館は障害児学級がある小学校の校内や近所ということもあり、多くの障害をもった児童が入所した。新規事業の業平分室は家庭センターの分室よりも規制が厳しく、学校の先生方に理解されるまで多少時間がかかったが、放課後の校庭や体育館などの利用許可を出してもらった事で児童の遊び等が充実出来た。また分室はホールを本館は公園等を利用し、各学年の時間を設けた事で、運動が苦手な児童の活動の場も提供できた。</p>	<p>低学年の組織活動は今年初めて学童クラブの児童を外して、一般来館者の層を中心に展開を目指したがうまく軌道に乗れず少数の組織活動になった。しかし、その分障害児の受け入れや児童と活動を作る事が出来た。また高学年は核になるメンバーが活動を盛り上げ、館内外の活動でのリーダーぶりが組織の色を作り上げたのではと考える。ただしその反面、帰属感や職員の安心感が生まれ、新たなメンバー発掘まで到達出来なかった事実を受け止め次年度に生かすようにしていきたい。一般来館の児童の利用が減少している。(小学校も減っている)</p>	<p>今年度はスポーツ大会を館外で行うようにし、特に公共施設を利用して出来るだけ中高生の参加費用を低額になるようにした。また職員も大会日は全員参加の形を取り盛り上げた。すべて自転車での移動だったがその間、仲間としての友情や相手を重んじる気持ちが芽生え良い交流の機会となった。また、中高生ルームでの障害児との関わりを通して、クリスマス会に招待して、障害児の保護者から感謝の言葉を頂くことが出来た。核になっていた高3年が卒業し、年明けぐらいから世代交代の変化が見られた。</p>	<p>夏祭りでは、小学生の組織メンバーを中心に、児童館に関わる団体や学童クラブの保護者等の協力によって運営する事が出来た。都民の日スペシャルでは、小学生に呼びかけ、駅前で赤い羽根の街頭募金を行った。参加者(9名)。クリスマス会を小学校の体育館を借りて合同で行った。お母さんコーラスや各組織の出し物、職員もバンドで参加したりと幅広い年齢層が楽しめる会となった。</p>																																																																																			
活動・行事報告	<p>0歳児クラス合計 31回延べ 717組参加 1歳児クラス合計 32回延べ 1151組参加 2歳児クラス合計 35回延べ 1110組参加 3歳児クラス合計 23回延べ 222組参加 4歳児クラス合計 18回延べ 213組参加 5歳児クラス合計 17回延べ 195組参加 (工作・運動あそび・おでかけ・クッキング等) 出前保育合計 8回延べ 457組参加 (映画会・西瓜割り・ミニえんにち・工作等) お母さん向け合計 7回 180名参加 (スポーツ大会・園芸・手芸・お菓子作り・昼食会・映画会等)プレイルーム 38回 471名すくすく計測 10回 94組、マタニティ 10回 22人</p>	<p>本館(定員 60) 合計 70 1年男 21 女 10 2年男 12 女 8 3年男 8 女 8 4年男 1 5年女 1 6年女 1 分室(定員 40) 合計 58 1年男 8 女 10 2年男 11 女 13 3年男 5 女 11 業平(定員 40) 合計 39 1年男 18 女 6 2年男 5 女 3 3年男 3 女 3 4年男 1</p> <p>誕生日会・買い物おやつ・手作りおやつ・おでかけ(プラネタリウム・防災館・アスレチック・どじょうすくい・夏祭り・クリスマス等)</p>	<p>組織活動 遊ぶ・学ぶ・ボランティアを中心に こども会議(月一回)高学年のみ、スポーツ・工作・お菓子作り・クッキング・映画会・考えよう(低学年)・公園清掃・夏祭り、クリスマス、ミニ緑日の装飾、運営(3年以上)・おでかけ等 低学年 1年男 13 女 17 2年男 2 女 93 年男 5 女 10 高学年 4年男 2 女 15 5年男 8 女 13 6年男 1 女 2 一般参加 スポーツ大会(12回 415人)・手芸(12回 128人)、手作り(12回 123人)、映画会(12回 150人)・読み聞かせの会(50回 346人)等</p>	<p>定例会 22回 115名・軟式野球大会(台東区リバーサイド3回 53名)・サッカー大会(旧曳舟中2回 14名)・バレーボール大会(中小企業センター11名)・スポーツ大会(墨田児童会館 8名)・映画会・クッキング 9回 80名・館内合宿 13名・ボーリング大会 8名・スケート(江戸川区スポーツランド 10名)・映画会</p>	<p>幼児おでかけ・低学年おでかけ 14名・高学年キャンプ 10名・こどもの日スペシャル 77名・都民の日スペシャル 141名・夏祭り 689名・クリスマス 331名・芋煮会 243名・ハロウィンパーティー 78名・グリーンフェスティバル 218名・公園、館内清掃・赤い羽根街頭募金 9名・ドッジフェスタ 32名・もちつき 202名・幼児運動会 57名・オーバーナイトハイク 17名・小学生合同ハイク 19名・交流フェスタ 25名・社会福祉大相撲 47名・合同ドッジ 52名</p>																																																																																			
登録者・来館者	<p>(登録数)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td>0歳児クラス</td><td>48</td><td>51</td><td>99</td></tr> <tr><td>1歳児クラス</td><td>52</td><td>52</td><td>104</td></tr> <tr><td>2歳児クラス</td><td>43</td><td>41</td><td>84</td></tr> <tr><td>3歳児クラス</td><td>15</td><td>13</td><td>28</td></tr> <tr><td>4歳児クラス</td><td>20</td><td>10</td><td>30</td></tr> <tr><td>5歳児クラス</td><td>17</td><td>13</td><td>30</td></tr> <tr><td>計</td><td>195</td><td>180</td><td>375</td></tr> </table>	0歳児クラス	48	51	99	1歳児クラス	52	52	104	2歳児クラス	43	41	84	3歳児クラス	15	13	28	4歳児クラス	20	10	30	5歳児クラス	17	13	30	計	195	180	375	<p>(在籍児数)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td></td><td>男</td><td>女</td><td>計</td></tr> <tr><td>1年生</td><td>47</td><td>26</td><td>73</td></tr> <tr><td>2年生</td><td>28</td><td>24</td><td>52</td></tr> <tr><td>3年生</td><td>16</td><td>25</td><td>41</td></tr> <tr><td>4年生</td><td>2</td><td>0</td><td>2</td></tr> <tr><td>5年生</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>6年生</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>計</td><td>93</td><td>77</td><td>168</td></tr> </table>		男	女	計	1年生	47	26	73	2年生	28	24	52	3年生	16	25	41	4年生	2	0	2	5年生	0	1	1	6年生	0	1	1	計	93	77	168	<p>(2007年度来館者数)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td></td><td>男</td><td>女</td><td>計</td></tr> <tr><td>乳幼児</td><td>2916</td><td>3391</td><td>6307</td></tr> <tr><td>小学生</td><td>14376</td><td>12264</td><td>26640</td></tr> <tr><td>中・高校生</td><td>3788</td><td>1168</td><td>4956</td></tr> <tr><td>一般</td><td>1868</td><td>7548</td><td>9416</td></tr> <tr><td>計</td><td>22948</td><td>24371</td><td>47319</td></tr> </table> <p>※会館日数 347日 ※1日平均 136.4人</p>		男	女	計	乳幼児	2916	3391	6307	小学生	14376	12264	26640	中・高校生	3788	1168	4956	一般	1868	7548	9416	計	22948	24371	47319	<p>(その他の事業、特記事項)</p> <p>館内改装工事(事務室床張替) 外手小学校移動教室引率(2泊3日)として職員を派遣 出前保育(光の園保育学校との共催)・お母さん向けリフレッシュ企画(乳幼児保護者)</p> <p>外手小連合子供会祭りに参加</p> <p>学童クラブ児童についてのケース会議</p>
0歳児クラス	48	51	99																																																																																					
1歳児クラス	52	52	104																																																																																					
2歳児クラス	43	41	84																																																																																					
3歳児クラス	15	13	28																																																																																					
4歳児クラス	20	10	30																																																																																					
5歳児クラス	17	13	30																																																																																					
計	195	180	375																																																																																					
	男	女	計																																																																																					
1年生	47	26	73																																																																																					
2年生	28	24	52																																																																																					
3年生	16	25	41																																																																																					
4年生	2	0	2																																																																																					
5年生	0	1	1																																																																																					
6年生	0	1	1																																																																																					
計	93	77	168																																																																																					
	男	女	計																																																																																					
乳幼児	2916	3391	6307																																																																																					
小学生	14376	12264	26640																																																																																					
中・高校生	3788	1168	4956																																																																																					
一般	1868	7548	9416																																																																																					
計	22948	24371	47319																																																																																					

指定管理

外手

	子育て支援活動	学童クラブ（本館・分室）	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																																													
事業の総括	<p>・0歳から3歳までの年齢別活動は、今年度も多くの親子の参加があった。特に0歳児クラスの参加は年度の後半にかけて増加し、母親同士のネットワークによって活動への参加が広がっているようである。</p> <p>・昨年度と同様、クラス活動の内容に関しては満足していたように見えるようであるが、場所の狭さ・エレベーターの混雑・クラス内の混雑などの課題は引き続き残っている。</p> <p>・午後になってからの幼稚園児連れ親子の利用も増加の一途をたどり、乳幼児と小学生との間での遊び場所の区分けの難しさなどが課題となっている。今後も利用者の声を聞きながら環境整備を工夫して、利用者の理解を得られるよう努めたい。</p> <p>・地域に住む外国人親子の支援「レクリエーションクラス」は、昨年度からの継続事業として活動を行なう。参加対象を外国人親子と、国際交流に意欲のある日本人親子に限定したこともあり、参加人数は少人数にとどまったが、母親ボランティアをはじめ、地域交流の場となった。</p>	<p>・今年度も、子どもたち一人ひとりの個性を活かし、また集団生活を通じ社会力を育んでいけるような日常プログラム・生活指導を展開した。</p> <p>・日常生活では、登室後15分間（学校休業時は60分）の学習時間を設け、宿題や家庭からの学習に取り組んだ。</p> <p>家庭で過ごす時間や自由遊びの時間を効率よく過ごせるようにした。また、おやつ班をつくり、班ごとにその日のおやつ時間の手伝いや、おやつと一緒に食べることで、普段関わりの少ない他学年の友達と交流し、仲良くなるきっかけとなった。定例のプログラムでは、ひと月ごとに設定したゲーム大会やスポーツタイムなどを展開することで、遊びの中で人間関係の大切さを伝えることができた。</p> <p>・今後は自由時間に使用できる遊具の充実や、クラブ室内及び設備の清掃も強化し、常に子どもたちが安全で快適な室内環境を維持するよう努めたい。</p> <p>・保護者とは常に連絡帳や電話などで連絡を取りながら、子どもの安全やスケジュールを把握するように努めた。今後はさらに各家庭からの意見や要望をうけとめながら、子ども及び保護者がより安心と満足を感じられるようなクラブ作りを目指したい。</p>	<p>・一般来館児童数は近隣の小学校の下校時刻や、児童館組織活動のある日とない日とで、来館者数に変動がある。特に高学年女子は日常の来館は少ないが、イベントには参加するなど、目的を持った児童館の利用の仕方をしている。イベントの実施や、プログラムの提供をするだけでなく、利用者がのんびりと過ごせる時間や場所の確保に努めてきた。</p> <p>・組織活動（スマイルクラブ）は、子どもたちの中への定着とともに、クリスマス会や冬まつりなどでの自主的な働きなども見られるなど、継続して協調性や責任感を育むことが出来た。</p> <p>・次年度も子どもたちの成長に合ったものや、季節を感じられるものなど、学年を考慮した内容を吟味・精選して、子どもたちにとってよりよい経験となるような活動を目指してきた。また、来館者数が少ない学年や高学年女子などに積極的に働きかけていくとともに、既に来館している子どもたちや、保護者・地域のニーズに応えることができるよう、環境の整備やプログラムの展開を図っていき、児童館が利用者にとってよりよい居場所となれるよう努めていきたい。</p>	<p>・昨年度に引き続き、18時～19時を中学生のみが利用できる時間として設定した。</p> <p>・近隣の中学校は部活動及び学校行事が非常に盛んであるため、一定のペースで来館者を呼び入れることは難しく、イベントの実施も昨年度に比べ少なかったが、集会室でのタスケ（個人戦ドッジボール）・卓球、ロビーでのビリヤード・カードゲーム、屋上でのスポーツなどでのそれぞれの時間を楽しく過ごしていた。</p> <p>・今後も3月に卒業する小学校6年生を中心に、中学生の居場所としての存在をアピールし、思春期特有の様々な悩みや不安を発散、気軽に相談できる場として、環境・関係づくりを目指したい。また、保護者や学校との連携も引き続き行っていきたい。</p>	<p>・指定管理者として館を運営して3年目を迎え、日常来館、各種イベントなどは、児童館の事業として利用者の間に浸透してきている。ひらのまつり・秋まつりなどの大きな行事は、地域の方々と触れ合うことのできる貴重な時間となり、今年度も多くの方が参加し、楽しい時間を共有できた。</p> <p>・自然体験、宿泊体験事業では、自然とふれ合う機会が少なくなった都会の子どもたちに、自然に触れる機会や、家庭から離れて自立した生活を送る機会を提供することが出来た。奥多摩地域でのサマーキャンプだけでなく、地域の公園での活動や館内合宿でも、生き生きとした子どもの表情が見られ、充実した活動となった。</p> <p>・エコキャップ収集活動は、利用者だけでなく地域全体の活動として浸透しつつあり、身近に出来るボランティアとして、協力者との交流も深めていくことが出来た。</p> <p>・今年度は地域民生委員・児童委員、学童クラブ父母会からのボランティア協力も多く集まり、地域の方々の力で児童館を作り上げることが出来た。今後も交流を深めながら、地域との良い関係を深めていきたい。</p>																																																																																													
活動・行事報告	<p>【年間行事報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児運動会 425名 ・水遊び 86組（6回） ・子ども服リサイクル 124名（2回） ・夏休み特別プログラム 99組（4回） ・乳幼児クリスマス会 219組 ・レクリエーションクラス 86組（12回） ・ベビーオイルマッサージ 47組（5回） <p>【子育て講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士による乳幼児のおやつについて 52名 ・子育て講演会（0歳児）保育士による怪我・病気について 31名 （1歳児）保育士による心の発達について 46名 ・心の東京塾 参加型子育て講座 14名 ・乳幼児向け救命救急講習 38名 	<p>【日常プログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キングコンテスト ・全体ゲーム会 ・公園遊び（清澄児童遊園・清澄公園） ・お楽しみおやつ（買い物ごっこ・買い物体験） ・避難訓練 ・工作 <p>【行事プログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入会式 ・スイカ割り ・クッキング ・お泊り会 ・クリスマス会 ・お別れ会（お別れ遠足） <p>【外出プログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠足（小松川公園・上野動物園） ・観劇会 ・江東区ドッジボール大会 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人面談（年1回実施） ・保護者会（年3回実施） ・父母会との親睦会（年2回実施） 	<p>【週間プログラム】（年間参加人数）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツタイム（ドッジ、サッカー、エホック、キックベース、タスケ）5174名 ・ノーボールタイム（ボールを使わない屋上タイム） 575名 <p>【月別プログラム】（年間参加人数）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ大会（12回 295名）・工作タイム（12回 492名） ・手芸タイム（12回 339名）・わなげ大会（12回 320名） ・一輪車検定（20回 178名）・レッツダンス（22回 381名） ・アコロンのお話会（8回 173名）・映画会（12回 524名） ・ピデオシアター（月1回、学校休業日等 計43回 1286名） ・ボランティアサークル折り紙教室（5/9、28名 6/13、34名 9/12、45名） ・ボランティアサークル人形劇公演（9/8、55名 11/17、65名） <p>【季節行事】（実施日、参加人数 ※全世代事業を除く）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生歓迎会（4/17、26名） ・合同スマイルクラブ（8/26、52名） ・子どもクリスマス会（12/13、155名） ・児童館交流ドッジフェスタ（2/14、10名） ・深川北部ドッジボール大会（3/26、15名） ・春のお茶会（3/28、14名） <p>【組織活動】（登録人数）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生スマイルクラブ（76名）・2年生スマイルクラブ（62名） ・3年生スマイルクラブ（25名）・高学年スマイルクラブ（50名） 	<p>【年間行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タスケ&すいかわり大会（7/18 7名） ・タスケ&ティータイム（11/5 5名） ・ユニホック大会（11/19 7名） ・中学生&5-6年生クリスマス会（12/20 19名） ・お菓子作り（2/7、3名） 	<p>【全世代交流事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの日フェスタ（5/5 140名）・ひらのラリー（5/28 121名） ・相撲大会（6/11 162名）・ひらのまつり（7/12 928名） ・ほのぼの秋まつり（11/1 424名）・子ども冬まつり（2/7 481名） ・国際交流プログラム <ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリア（6/21、38名） ・ブルキナファソ（9/20、34名） ・ブラジル（11/22、25名） ・交流まつり（2/23、58名） <p>【自然体験・宿泊体験事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高学年デイキャンプ（岩洲キャンプ場 6/7 8名） ・2、3年生サマーキャンプ（川井キャンプ場 7/31-8/2 47名） ・4～6年生サマーキャンプ（鳩ノ巣キャンプ場 8/21-23 17名） ・オーバーナイトハイク（葛西臨海公園～児童館 10/11-12 24名）、 ・1年生館内合宿（10/17-18 39名） ・高学年館内合宿（12/22-23 28名） ・自然と遊ぼう（乳幼児向け 7/9 36名 小学生 12/20 34名） <p>【ボランティア活動】</p> <p>使用済み切手収集、エコキャップ収集</p> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連絡会（7/2 25名） ・深川春の子どもまつり（森下文化センター 3/2） 																																																																																													
登録者・来館者	<p>子育てひろば（年齢別活動）登録・実績数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> <th>年間出席</th> <th>年間回数</th> <th>1回平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児（低月齢・高月齢合計）</td> <td>135</td> <td>129</td> <td>264</td> <td>2262</td> <td>65</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>1歳児</td> <td>98</td> <td>102</td> <td>200</td> <td>1787</td> <td>36</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>2歳児</td> <td>62</td> <td>65</td> <td>127</td> <td>1630</td> <td>39</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>3歳児</td> <td>26</td> <td>29</td> <td>55</td> <td>681</td> <td>32</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>321</td> <td>325</td> <td>646</td> <td>6360</td> <td>172</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>子育て相談件数：174件</p>	クラス名	男	女	計	年間出席	年間回数	1回平均	0歳児（低月齢・高月齢合計）	135	129	264	2262	65	35	1歳児	98	102	200	1787	36	50	2歳児	62	65	127	1630	39	42	3歳児	26	29	55	681	32	21	計	321	325	646	6360	172		<p>（学童クラブ在籍児数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>17</td> <td>15</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>17</td> <td>23</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>12</td> <td>8</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>46</td> <td>46</td> <td>92</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	17	15	32	2年生	17	23	40	3年生	12	8	20	計	46	46	92	<p>（2008年度来館者数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>6400</td> <td>5966</td> <td>12366</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>19422</td> <td>13201</td> <td>32623</td> </tr> <tr> <td>中・高</td> <td>1439</td> <td>457</td> <td>1896</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>860</td> <td>14471</td> <td>15331</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>28121</td> <td>34095</td> <td>62216</td> </tr> <tr> <td>※開館日数</td> <td></td> <td>322</td> <td>日</td> </tr> <tr> <td>※1日平均</td> <td></td> <td>193</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table>					乳幼児	6400	5966	12366	小学生	19422	13201	32623	中・高	1439	457	1896	一般	860	14471	15331	計	28121	34095	62216	※開館日数		322	日	※1日平均		193	人	<p>（2008年度 新規事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然と遊ぼう（講師による自然体験プログラム） 計 70名（2回） ○ 1年生館内合宿 計 61名
クラス名	男	女	計	年間出席	年間回数	1回平均																																																																																												
0歳児（低月齢・高月齢合計）	135	129	264	2262	65	35																																																																																												
1歳児	98	102	200	1787	36	50																																																																																												
2歳児	62	65	127	1630	39	42																																																																																												
3歳児	26	29	55	681	32	21																																																																																												
計	321	325	646	6360	172																																																																																													
	男	女	計																																																																																															
1年生	17	15	32																																																																																															
2年生	17	23	40																																																																																															
3年生	12	8	20																																																																																															
計	46	46	92																																																																																															
乳幼児	6400	5966	12366																																																																																															
小学生	19422	13201	32623																																																																																															
中・高	1439	457	1896																																																																																															
一般	860	14471	15331																																																																																															
計	28121	34095	62216																																																																																															
※開館日数		322	日																																																																																															
※1日平均		193	人																																																																																															

2008年度 雲柱社 児童館ブロック 亀戸児童館 事業報告

記入者 永澤 和男

	子育て支援活動	学童クラブ（本館）	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																							
事業の総括	<p>雲柱社事業理念と事業目標を活かしながら各担当が努力して活動を展開し、子育て中のお母さんと乳幼児さんが家から出て気分転換できる居場所となったり、乳幼児の活動を通して仲間づくりや交流の場を作っていくことができた。こうした事がきっかけとなり年齢に応じたグループ活動に参加し、子育ての悩みや不安の解決に繋げることが出来た。また、発達段階に応じた活動を丁寧に行っていくことでお母さんや子どもたちとの信頼関係を作ることができた。指定管理者受託2年目は、1年目の実績を踏まえて期間や回数も多く実施できたので、安定をしたクラス活動ができた。一方、プログラムの偏りや休日が多かったことで繋がりを持たず、後半は盛り上がり欠けた面も見られた。近隣にある亀戸第二児童館の改築に伴う休館により0歳児クラスの保護者を中心に登録者が増え参加率が高かった。今後、乳幼児のプログラムへの期待が高まりつつあるので検討しながらプログラムの展開を図りたい。</p>	<p>水神小学校で今年度から「げんきっず」（放課後こども教室）が始まり、それに伴って子どもたちがげんきっずに変更したこともあり、前年度に比べて減少し今年度は78名の受け入れになった。それに伴い落ち着いた雰囲気の中で学童クラブを運営することができた。そうした中から手芸サークル、実験教室等の学童クラブ独自のグループ活動を展開することで交流を深めたり、意欲を高めることができた。出席率も高く学童クラブの必要性を再認識することができた。児童館併設学童クラブということで、児童館との協力体制の中で活動を進めるに当たっては、時に思うようにいかない面も見られたが、事前の打ち合わせや協力し合うことで改善できたので、次年度はさらに話し合い等をもって学童クラブの運営をスムーズにいくようにしたい。今年度、障碍を持った子どもを受け入れたが、自立やコミュニケーションの面で今後も細かい配慮を行うことで成長を促したい。</p>	<p>担当スタッフが常に楽しいプログラムを作りたいという思いから、日常の設定スポーツ等を工夫し子どもたちの興味・関心を引き出す努力をしたため、日々の来館者増加につながった。学年別グループ活動（かめっこ）にもたくさん子どもたちが参加して交流を深めたり様々な体験をすることができた。2年目を迎える子どもたちとの信頼関係がある程度できていたので、高学年のかめっこでは子どもたちの意見を取り入れて試行錯誤を繰り返しながら、子どもたち活動を共有する機会が持てた。1年生のグループ活動では子どもたちの興味を持てるプログラム内容で楽しい活動が作られ参加した子どもたちが楽しみにするという効果をあげていた。2・3年生の活動では担当が途中で変わったりグループの人数が多く苦労する面も見られたが、クリスマス会で一人一人がグループの仲間とまとまりのある姿を見せ、成長がみられた。プログラムに変化を持たせるため、おやつ作りやわなげ大会などを導入したが、今後も子どもたちの力を引き出すプログラムを作っていきたい。学校の授業数が増加したことで下校が遅くなったが、その中でも子どもたちは多く来館し、児童館を自分たちの居場所としてくれたことは、今後の事業展開に大きな希望となった。</p>	<p>部活等の学校行事により平日来館するのが難しく、卓球部や野球部、バスケットボール部の仲間などグループで来館することが多かった。来館した中・高校生とイベントを実施していくために、担当を男性スタッフ・女性スタッフの2人体制とし積極的な事業展開を試みた。前年度はイベントにつなげられなかった3on3大会やハンパ大会などをクッキングと組み合わせで行ったところ、思わぬ盛り上がりを見せて交流を深めることができた。今後は日々の中高生タイムでのかかわりを大切に、来館した中・高校生たちが児童館に自分たちの居場所を作れるように支援していきたいと考えている。</p>	<p>今年度も子どもたちと共に自然と触れ合う貴重な体験をすることができた。高学年は悪天候の中、ズーラシアへ出かけて雨の動物園での様々な発見を楽しむことができた。乳幼児はバスハイクで千葉市動物公園へ出かけ、動物に餌あげるなど、普段ではできない体験をすることができた。低学年キャンプでは民宿へ宿泊し浜辺で遊んだり大きな公園でのクラフトや水遊びなど思い切り楽しむことができた。高学年キャンプは夕方に児童館に集合し、夜に谷間のキャンプ場に到着し、自然の中で暗闇体験や飯盒炊爨をしてキャンプ生活を楽しんだ。後期は天候に恵まれ、低学年は子どもの国でアスレチックや原っぱでのかけっこなど楽しい思い出作りができた。高学年はサイクリング&アイススケートを行い、スケート場までのサイクリングやアイススケートなどの活動を楽しむことができた。</p>																																																																							
	<p>活動・行事報告</p> <p><年齢別グループ活動> 0歳児高月齢 ばんだクラス 毎週木曜日 10:00～10:45 0歳児低月齢 赤ちゃんばんだ 毎週木曜日 11:00～11:45 1歳児 うさぎクラス 毎週金曜日 10:30～11:30 2歳児 こあらクラス 毎週火曜日 10:30～11:30 3歳児 りすクラス 毎週月曜日 10:30～11:30 ※活動の終了後は各クラスランチタイムへ移行してゆっくり過ごせるようにしていく 各クラス「運動遊び・ふれあい遊び・コーナー遊び・リズム遊び・お楽しみ会・誕生会・手遊び・体操などを通して発達を促す取り組みをしているが好評である。 <行事>子育て講座(育児についての本音トーク・本と触れ合おう・お母さんの子育ておしゃべりひろば)・夏まつり・夏休み特別幼児活動・夏休み特別水遊び・親子外出・乳幼児お出かけ・クリスマス会・子ども服サイクル・冬まつり</p>	<p>日常活動では、子どもたちが安心して過ごせるように、また、遊びが充足するように配慮した。延長保育は人数も多く、個々の子どもへの対応が難しい面もあるが、異年齢交流の場にしたたり、遊びを充足させながら時間を過ごせるように努めた。 <おやつについて>こどもたちが楽しみながら食べられるように買い物おやつやお店屋さんなど工夫して取り組み、栄養面にも配慮した。<グループ活動・誕生会>縦割りグループを作っておやつ担当やレクリエーションを担当する係等、みんなで担当していく。3年生が中心になって亀戸レストランを担当して夏の父母会のお弁当の日も楽しく取り組めた。<行事>入会式・入学/進級おめでとう会/観劇会/遠足/親子クリスマス会/江東区ドッグボール大会(1位入賞)/その他、季節の遊び</p>	<p>設定スポーツ(ドッグボール・タカ・エホック・サッカー)を通して地域の子どもの交流を深めたり、体力の増進を促す。また、月一回のスポーツ大会やハンパ大会など、個人やチームの努力を表彰して興味や関心を高めている。子どもたちの経験や社会性を促すビデオアナー・手作りタイム・おはなしの会・高学年キャンプ・小学生合宿、エコキャップ・クワンソウ作戦等、ボランティア活動にも取り組む。学年別グループ活動「かめっこ」では「1年生・2年生・3年生・高学年」のグループ活動に取り組み、活動の中では「遊ぶ・学ぶ・ボランティア」等の活動に取り組んだ。<行事>こどもの日は児童館で遊ぶ・夏まつり・交流フェスタ・クリスマス会・交流ドッグフェスタ・ふゆまつりを開催してたくさんの人々に楽しんでいただく。江東こどもまつり・亀戸地区なつまつり・児童館主催卓球大会・城東地区卓球大会に参加して交流を深める</p>	<p>5月 3on3大会、7月 3on3&パーティー 9月 ハンパ大会&ホットドックづくり 11月・1月は休止 3月 卓球大会&焼きそばパーティー 50人程度の参加。 また、中学生合宿をしたいとの要望やその他意見が聞かれるため、ボランティア活動等へのかかわりも深めながら中・高生の自立を支援していきたい。</p>	<p>・年間を通してエコキャップの収集活動に取り組み、地域や学校、家庭の協力を得て360051個、(450人分のワクチンを購入することが出来る分)を集めて贈ることができた。エコキャップは身近にできるボランティアなので参加者が多い。この他に地域や館内の清掃、乳幼児室の遊具づくりなど、子どもたちの意見をと取り上げてボランティア活動に取り組んできた。 ・行事を開催する際に募金の協力を呼びかけ、ペシャワール会の医療活動等を支援してきた。</p>																																																																							
登録者・来館者	<p>(登録数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td>114</td> <td>122</td> <td>236</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td>55</td> <td>61</td> <td>116</td> </tr> <tr> <td>2歳児クラス</td> <td>50</td> <td>51</td> <td>101</td> </tr> <tr> <td>3歳児クラス</td> <td>19</td> <td>12</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>238</td> <td>246</td> <td>484</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児クラス	114	122	236	1歳児クラス	55	61	116	2歳児クラス	50	51	101	3歳児クラス	19	12	31	計	238	246	484	<p>(在籍児数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>9</td> <td>20</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>23</td> <td>12</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>5</td> <td>9</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>37</td> <td>41</td> <td>78</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	9	20	29	2年生	23	12	35	3年生	5	9	14	4年生			0	計	37	41	78	<p>(2007年度来館者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>5424</td> <td>5858</td> <td>11282</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>17532</td> <td>16220</td> <td>33752</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>2202</td> <td>646</td> <td>2848</td> </tr> <tr> <td>高校生・一般</td> <td>743</td> <td>11282</td> <td>12025</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>25901</td> <td>34006</td> <td>59907</td> </tr> </tbody> </table> <p>※開館日数 321日 ※1日平均 186人</p>		男	女	計	乳幼児	5424	5858	11282	小学生	17532	16220	33752	中学生	2202	646	2848	高校生・一般	743	11282	12025	計	25901	34006	59907	<p>(その他の事業、特記事項)</p> <p>地域連絡会を民生・児童委員の提案で、2回目は亀戸児童館・亀戸第二児童館・亀戸第三児童館の3館合同で実施し、交流を深めると共に、今後の民生・児童委員との協力体制について話し合い、地域の子どもたちと共に見守っていくことで話し合う。</p>
クラス名	男	女	計																																																																									
0歳児クラス	114	122	236																																																																									
1歳児クラス	55	61	116																																																																									
2歳児クラス	50	51	101																																																																									
3歳児クラス	19	12	31																																																																									
計	238	246	484																																																																									
	男	女	計																																																																									
1年生	9	20	29																																																																									
2年生	23	12	35																																																																									
3年生	5	9	14																																																																									
4年生			0																																																																									
計	37	41	78																																																																									
	男	女	計																																																																									
乳幼児	5424	5858	11282																																																																									
小学生	17532	16220	33752																																																																									
中学生	2202	646	2848																																																																									
高校生・一般	743	11282	12025																																																																									
計	25901	34006	59907																																																																									

指定管理
亀戸

2008年度 雲柱社 児童館ブロック 汐入ふれあい館事業報告

記入者 伊藤美智子

指定管理

汐入

	子育て支援活動	学童クラブ（本館・分室）	小学生活動	中・高生活動	成人対象事業																																																																															
事業の総括	<p>* 地域に転入する方が多く乳幼児活動への参加、自由来館も多い。要望の多い0、1歳児を各2クラスにして受け入れ、区規定の2、3歳児クラスを2歳児のみの2クラスとし、3歳児クラスを新しく設ける。他に4、5歳児クラスも行う。各クラス定員を設けずに全て受け入れる。託児付き映画会、救急法等の講座、父親、祖父母参加の運動会等、子育て支援の活動を積極的に行う。『子育てひろば』として毎日クラス活動以外に職員が親子と関わる場を設け育児不安の解消の手助けを行ってきた。プレイルームを毎日20時まで開放することで父親も利用しやすく、父親の育児参加に役立っている。玩具、遊具、絵本を充実させ、授乳コーナーも設ける。</p>	<p>*委託2年目の汐入小学童クラブと七峡小学童クラブ、本館の汐入学童クラブの3箇所事業計画、予定表、お便り、おやつ等統一出来るものを整備する。合同遠足を行うなど職員、子ども達の交流を大切にきた。反面、各クラブの状況に合わせ、合宿、お出かけ等、個別の活動も大切にきた。心地良い居場所となるよう環境整備も工夫し、ソファ、棚、玩具、教材等を整える。自主性、社会性の育ちを意識した対応を考えてきたが、不十分な面もあり次年度に繋げていく。地域の文化祭への作品出展、高齢者との交流など外に向けた活動も良い経験となった。</p>	<p>* 新しいスポーツを取り入れる等、スポーツ活動の充実を図る。1年生が安心してスポーツに親しめる1年生タイムを低学年タイムとは別に設け、ルールの理解を助け、活動に取り組みやすくした。料理、手芸、手作り、折り紙等の生活経験の幅を広げる活動、合宿、キャンプ、お出かけ等、健全な遊びを提供し自主性、社会性の育ちを支援してきた。低学年キャンプは参加者が一日で埋まってしまう程、要望も高いが台風で中止になり残念であった。高学年クラブは登録数、参加数が増えスポーツだけでなく地域清掃等のボランティア活動にも熱心に取り組み良い経験になっている。図書も充実させ読書の機会を増してきた。</p>	<p>* 3on3、卓球、野球等のスポーツ、と職員とのおしゃべりを楽しんでいる。サロンに計算機付きのダーツを設置した事が来館を促すきっかけになる。しかし、来館数はそれ程多くはなく、継続な利用にも繋がりにくい現状にある。雑誌、漫画本、ゲーム等、関心を引く物を選んで置いているが、一人での来館でも友達との来館でも良く活用されている。職員との関わりも好ましく雰囲気は良い。魁ギター塾の参加者でミニライブを行う。この活動で初めてギターに触れた4名の子たちが小学生と大人の前で緊張しながらも演奏する姿は「ふれあい館」という感じが出ている。</p>	<p>* スポーツタイム、健康体操、折り紙、紋切、手芸、絵手紙、カラオケ、映画会、パソコン教室を実施する。健康に関心が高いようスポーツ系は参加も多く喜ばれている。参加者がサークルを立ち上げ、貸館利用にも繋がっている。他の文化系活動も継続して参加される方が多い。話題の書籍を購入し貸出しも行っている。3老人会の活動も熱心で支援には配慮して来た。保健所が関わっている「ころばん体操」も参加は多く、この会の利用者には案内をすることが館の他の活動にも繋がっている。貸館利用も増え、ほぼ毎日活用されている。貸出物品を区指定の物以外でも要求に応じて利用者の利便を図るようにした。</p>																																																																															
活動・行事報告	<p>クラス活動：0～5歳児 月～金曜日 子育て講座：救急法2回 離乳食 歯の話 食育講座（コミュニケーション） パパも遊ぼう：遠足 ハロウィン 焼き芋会 運動会 観劇 ペインティング クリスマス お母さんの為の映画会：毎月1回 託児付 日常活動：プレイルーム20時まで開放 体育室に玩具を出し13時まで開放 子ども服リサイクル：隔月 無料 子育てひろば事業：毎日 相談等 ランチコーナー：毎日 自由に使って貰う。 区カウンセラーの育児相談</p>	<p>日常活動：自由遊び おやつ 宿題 製作 読書 スポーツ 誕生会 お店屋さん：毎月1回 おやつ作り：毎月数回 お出かけ：汐入公園 尾久の原公園 小菅西公園 合宿：汐入小 父母会合同クリスマス会：七峡小 父母会合同夕涼み会：汐入 保護者会：年4回 個人面談：年1回 他随時受ける</p>	<p>多目的室活動 設定スポーツ：ドッジボール月約250名 タスケ約160名 サッカー約30名等 レクタイム：毎水曜 ゲーム等 一輪車タイム 一年生タイム 縄跳び 創作室活動：絵手紙教室 木工 手芸 手作り 折り紙等 図書室活動：お話し会 月1回 素話 読み聞かせ 紙芝居 手話等 和室活動：映画会 月3回 合宿 サロン活動：輪投げ ゲーム 雑誌等 高学年クラブ活動：スポーツ キャンプ 年間行事：夏祭り ふれあい祭り クリスマス お出かけ ドッジフェスタ</p>	<p>中学生タイム 毎月約240名 多目的室 月～土曜 18～18:45 バスケット 卓球 野球等 サロン 月～日曜 18～19:00 ダーツ 人生ゲーム 雑誌等 水曜 18～19:00 ギター 創作室 第4水曜 17～18:00 魁ギター塾年69名 行事 クリスマス会 2名 ミニライブ 4名 へんぷアクセサリー 4名 ダーツ大会 9名 リトルキッチン 7名</p>	<p>スポーツタイム：火 金 毎回10数名 ころばん体操：金 毎回約40名 健康体操：火 毎回約18名 カラオケ：金 毎回約8名 他の活動：毎回数名 各老人会：輪投げ カラオケ 踊りを毎日プログラムを組んで行う。その他 役員会 総会（親睦会）等を行い、職員が手伝いに入ったりしている。 貸館：貸出事務 還付事務 貸出物品</p>																																																																															
登録者・来館者	<p>(登録数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td>116</td> <td>114</td> <td>230</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td>78</td> <td>81</td> <td>159</td> </tr> <tr> <td>2歳児クラス</td> <td>88</td> <td>77</td> <td>165</td> </tr> <tr> <td>3歳児クラス</td> <td>23</td> <td>30</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>4,5歳児クラス</td> <td>22</td> <td>34</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>327</td> <td>336</td> <td>663</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児クラス	116	114	230	1歳児クラス	78	81	159	2歳児クラス	88	77	165	3歳児クラス	23	30	53	4,5歳児クラス	22	34	56	計	327	336	663	<p>(在籍児数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>51</td> <td>38</td> <td>89</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>38</td> <td>44</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>35</td> <td>30</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>0</td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>124</td> <td>112</td> <td>236</td> </tr> </tbody> </table> <p>汐入：98 汐入小：69 七峡小：69</p>		男	女	計	1年生	51	38	89	2年生	38	44	82	3年生	35	30	65	4年生	0		0	計	124	112	236	<p>(2008年度来館者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>14960</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>34534</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2985</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>26942</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>79421</td> </tr> </tbody> </table> <p>356日 223人</p>	男	女	計			14960			34534			2985			26942	0	0	79421	<p>(その他の事業、特記事項)</p> <p>夏祭り 581名 ふれあい祭り 547名</p> <p>2008年度来館者数</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>14960</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>34534</td> </tr> <tr> <td>中高生</td> <td>2985</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>26942</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>79421</td> </tr> </tbody> </table>	乳幼児	14960	小学生	34534	中高生	2985	一般	26942	合計	79421
クラス名	男	女	計																																																																																	
0歳児クラス	116	114	230																																																																																	
1歳児クラス	78	81	159																																																																																	
2歳児クラス	88	77	165																																																																																	
3歳児クラス	23	30	53																																																																																	
4,5歳児クラス	22	34	56																																																																																	
計	327	336	663																																																																																	
	男	女	計																																																																																	
1年生	51	38	89																																																																																	
2年生	38	44	82																																																																																	
3年生	35	30	65																																																																																	
4年生	0		0																																																																																	
計	124	112	236																																																																																	
男	女	計																																																																																		
		14960																																																																																		
		34534																																																																																		
		2985																																																																																		
		26942																																																																																		
0	0	79421																																																																																		
乳幼児	14960																																																																																			
小学生	34534																																																																																			
中高生	2985																																																																																			
一般	26942																																																																																			
合計	79421																																																																																			

	子育て支援活動	小学生クラブ	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																															
事業の総括	<p>今年度から回数枠を広げた「すくすく測定」や「ねんね赤ちゃんプレイルーム」と称する0歳児の親たちの集いは、利用者も多くなり、保護者の悩みに寄り添った子育て応援の場もあった。ボランティア確保にも力を入れ、近隣の小学生の親たちを対象にボランティア呼びかけのチラシを配布すると、数名の方々の声が挙がり、地域の方々の強力な支えを実感しつつ、次年度に繋げることができた。11月から市内循環バスが有料化になり、その上経路も不便となり、センターにも不満の声が聞かれたので、その声を直接または日誌などで行政に伝えた。同時期、センターの改築工事も始まり、毎月1200人くらいあった来館者数も800人台へと減少したが、2月、3月になりようやく900人台へと増えてきた。0歳児親子の居場所作り、人と人をつなぐ場として日常を大切にしてお世話してきたので、0歳児の親子が減少することは残念に思う。児童館との併設の利点を生かしたハロウィン、クリスマス会は多数の参加があった。今年度は3月のロッキーマーケットも小学生だけの活動とせず、支援センター利用の親たちにも手作りの品々のお店も出店してもらい、全館で盛り上がる姿は次年度につなぐ交わりの場となった。</p>	<p>1学期は、前年度頑張っていた3年生が率先して、1年生の面倒を見るという姿が見られ、それをまねする2年生もいて、縦割りのグループ活動など、スムーズに進むことが多かった。</p> <p>2学期の後半から改装工事で、別室での保育となり、障がい児のみのスペースが確保できなくなってしまったが、常に同じ空間にいて、健常児が障がい児との関わりを積極的にとる姿も見られた。障がい児のためのスペースを確保する必要性はあるが、同じ空間にいて相互に良い刺激があると思う。</p> <p>親子行事は昨年と比べ、参加率は低かったが、3月に行った夕食会は、50名以上の参加があり、金曜日の夜お迎えのついでということで参加しやすいという声もあがっていた。</p>	<p>年間を通じて低学年より高学年(4,5年)の来館数が多かった。1,2年生のセンター合宿は定員を設けなかったこともあり、予想以上の申し込みがあり、115名の参加となった。安全管理の面からも、次年度は2回に振り分けるなどの対応をしていきたい。</p> <p>また、前年度の低学年キャンプは希望者多数で対応しきれず、苦情にも繋がったので今年度は2回にわけ定員も25名から50名に増やした。それでも洩れてしまう子も数名おり、ニーズに応える難しさを感じる。</p> <p>11月よりセンターの増築工事や入り口の工事が始まった。使用できない部屋もあり、不便を理由に入館を減らしたくないので職員全員で部屋の工夫や柔軟な対応を心がけた。ただ、居場所の制限は悪いことばかりでなく、子どもたちが自ら遊びの工夫をしたり、低学年が1つの遊びを楽しんでいる姿や、上級生が下級生を気遣う姿も沢山見られた。体育館では今までに無く卓球が盛り上がり、幼児たちも親と一緒にラケットを振り回すなど遊びが広がっていた。次年度も子どもに感動を与える遊び、子どもたちの関係が高まることを意図とした取り組みをしていく。</p>	<p>中高生組織活動『音魂』も2年目となり、メンバーの定着、活動の幅や内容も少しずつ充実してきた。年4回のライブや地域のお祭りでの野外ライブなど、様々な場面で地域とつながりメンバー意識を高める活動展開が出来てきた。また大人のボランティアも増え、大人と子どもたちによるネットワークをはぐくむことが出来た。</p> <p>今後は日常来館の利用者に対しても、スポーツや文化活動などを積極的に呼びかけ、より関わりを持ち、地域の中にある児童館作りを心掛けていきたい。</p>	<p>今年中高生活動の音魂を地域ボランティア中心に活動を展開してきた。結果として、大人と次世代の子どもが繋がりあうきっかけの場を育むこととなった。次年度も地域の大人の方々から力を借り、子どもや大人たちが一つになる取組みをしていきたい。また、保護者や地域の方々のボランティアを呼びかけ地域に根ざした児童館作りを目指していきたい。</p> <p>活動への参加者も増加しているので、学生ボランティアなど定期的にお手伝いしてもらえる方たちを発掘し、より充実した活動展開を目指していきたい。</p>																																																															
	活動・行事報告	<p>たんぼぼひろば (AM9:00～PM6:00 まで開放) 相談件数・・・年間 280 件 ねんね赤ちゃんプレイルーム・・・年間 598 組 (延べ人数) すくすく測定・・・年間 724 組 (延べ人数) 幼児食教室・・・3 回実施 計 27 組 年齢別親子講座・・・I 期：56 組 II 期：78 組 III 期：53 組 ふれあいの音楽会・・・2 回 87 組 水あそび・・・12 回 287 組 おいもほり・・・52 組 ハロウィン・・・29 組 よちよちクラブ・・・83 組登録 とっこクラブ・・・85 組登録</p>	<p>新入生歓迎会 4/1 (火) 31 名 親子交流会 6/7 (土) 子 16 名大 9 名 お昼ごはん作り 計 2 回 平均 25 名 おやつ作り 8/18 25 名 レトルトデイ 計 4 日 平均 26 名 夏休み工作 計 3 週間 平均 15 名 夏休みお出かけ 8/29 (金) 22 名 小クラカフェ 計 3 回 平均 4 名 センター合宿 9/6,7 30 名 親子おやつ作り会 9/6 (土) 子 14 名大 7 名 親子夕食会 3/6 (金) 子 32 名 大 21 名 個人面談 6 月,12 月 保護者会 6 月,11 月,3 月 グループ活動・帰りの会 おやつづくり・各季節行事</p>	<p>・諸室に職員を配置し児童の自由な遊びを促す。内容は、・スポーツ、工作、スポーツ大会、ビデオシアター、お話し会、折り紙タイム、アトリエ等 ・低学年ロッキークラブ 1 期 137 名、2 期 133 名、3 期 130 名が登録。各学年 32 回実施 ・1 年生歓迎会 4 2 名 1 年生プログラム 3 2 名 多摩川デイキャンプ 8 7 名 低学年センター合宿 1 1 5 名 低学年キャンプ 3 5 名 高学年キャンプ 3 1 名 ワークキャンプ 6 名 オーバーナイトハイク 1 6 名 交流フェスタ 1 7 名 ハロウィン 9 1 名 高学年オータムキャンプ 1 6 名 エイサー 1 4 名 ファミリースポーツデイ 1 5 2 名 クリスマス会 1 3 6 名 ロッキーマーケット 1 5 7 名 3～6 年センター合宿 3 7 名</p>	<p>・ワークキャンプ朝日福祉作業所 <山梨県北巨摩郡> ・オーバーナイトハイク ・クリスマスライブ 中高生音魂活動ライブ ・ロッキングライブ</p>	<p>・ファミリースポーツデイ 親子で参加できるスポーツ大会を実施。普段の子どもたちの遊びを知ってもらうきっかけ作りの一環として。 1 5 2 名</p>																																																														
登録者・来館者	<p>(延べ来館者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児</td> <td>4,315</td> </tr> <tr> <td>1歳児</td> <td>3108</td> </tr> <tr> <td>2歳児</td> <td>2581</td> </tr> <tr> <td>3歳児</td> <td>997</td> </tr> <tr> <td>4歳児</td> <td>799</td> </tr> <tr> <td>5歳児</td> <td>119</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11919</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	計	0歳児	4,315	1歳児	3108	2歳児	2581	3歳児	997	4歳児	799	5歳児	119	計	11919	<p>(在籍時数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>11</td> <td>5</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>2</td> <td>7</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>21</td> <td>18</td> <td>39</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	7	5	12	2年生	11	5	16	3年生	2	7	9	4年生	1	1	2	計	21	18	39	<p>(2008 年度来館者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td></td> <td></td> <td>13558</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>11762</td> <td>8261</td> <td>20023</td> </tr> <tr> <td>中・高校生</td> <td></td> <td></td> <td>3930</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td></td> <td></td> <td>11336</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11762</td> <td></td> <td>48847</td> </tr> </tbody> </table> <p>※開館日数 293 ※1日平均 165</p>		男	女	合計	乳幼児			13558	小学生	11762	8261	20023	中・高校生			3930	一般			11336	計	11762		48847	<p>(その他の事業、特記事項)</p> <p><未来キッズ ～乳幼児親子と小学生の交流プログラム～> ・開催日 隔週水曜日午後3時～4時 年間12回 ・開催地 支援センターたんぼぼひろば ・参加者 4年生3名 6年生1名 合計4名</p> <p><体験学習・実習生> 中学生職場体験学習 8名 高校生職場体験学習 4名 看護専門学校実習 4名 保育学校実習 1名</p>
クラス名	計																																																																			
0歳児	4,315																																																																			
1歳児	3108																																																																			
2歳児	2581																																																																			
3歳児	997																																																																			
4歳児	799																																																																			
5歳児	119																																																																			
計	11919																																																																			
	男	女	計																																																																	
1年生	7	5	12																																																																	
2年生	11	5	16																																																																	
3年生	2	7	9																																																																	
4年生	1	1	2																																																																	
計	21	18	39																																																																	
	男	女	合計																																																																	
乳幼児			13558																																																																	
小学生	11762	8261	20023																																																																	
中・高校生			3930																																																																	
一般			11336																																																																	
計	11762		48847																																																																	

2008(平成20)年度 社会福祉法人雲柱社 狛江市子ども家庭支援センター 事業報告

記入者: 佐藤 洋子

指定管理

狛江支援

事業の総括	<p>1. ひろば事業 今年度は幼稚園児のひろば利用も多く、0・1歳児も多い中、住み分けの環境作りの工夫や、幼児やその保護者へ小さい子への配慮の願いを多くした。限られたスペースの中で、共存することの課題は毎年のことなのだが『子育てを応援する場』であることは揺ぎ無いことで、この現状を困ったこととして片付けず、幼児の遊べる空間づくりをしていく。 市で一人だけの家庭福祉員(保育ママ)がアクシデントに合い、一時保育が出来ない状況になり、支援センターで2日間預かり業務をする。利用者の親たちも、泣いている子を抱っこしてあやしたり、言葉をかけてくれるなど、温かい雰囲気があった。支援しているつもりが実は支援されていることに、人に仕える仕事の大切な視点に気づかされた。</p> <p>2. 相談事業 ひろば相談は毎日2～3件は入ってくるが、すくすく測定の際はさらに発育・発達相談が多く、利用者にとって気軽に相談できる窓口となっていることを実感する。また、電話やメールによる相談も多くはないが、年間を通して入ってきている。</p> <p>3. サービス提供事業 (一時保育) 一日一名の枠だが、毎月定期的に申請があり、預け先の家庭福祉員に無理のない範囲で依頼している。申請理由としては短期的勤務や就業活動などが増えてきている。上記のように、1～2月の期間一時保育は休止状態となった。(ショートステイ) 今年度は、市が中心となって対応している養育困難ケースの受け入れとしての働きがほとんどであった。今後もそのような方向性で定着していくことが予想される。 (育児支援ヘルパー) 月ごとに依頼件数のばらつきはあるが、年間を通しての利用は定着してきている。要支援家庭としての利用は2件のみ。</p> <p>4. 先駆型・虐待対策 先駆型2年目となり、要保護児童対策地域協議会「狛江市子ども家庭支援ネットワーク」において、市役所子育て支援課とともに、市内における児童虐待通告・児童相談の第一の窓口として、「日常的に顔の見える連携」を目指しさらなる周知に努めた一年であった。 「在宅サービス基盤整備事業」における、養育家庭体験発表会開催を、関係者も含め、出来るだけ多くの方に制度・現状周知の機会となるよう、他の自治体では開催していない平日夜間・土曜午前の計2回試みた。その際に、岩戸児童センター来館の子ども達と作成したオレンジリボンもチラシとともに配布し、虐待防止の啓発に努めた。</p> <p>◎件数 ・児童虐待通告・児童相談 新規 119件 継続 83件 ・関係者会議開催延べ件数 43件 ・家庭訪問延べ件数 30件</p>	<p>・2年目を迎えた年齢別親子講座(定員20名)も利用者によく受け入れられてきたことを実感する。1歳・2歳の親子共に安定した時を過ごしアンケートにも“少しでも子どもと離れ親同士のコミュニケーションの場を得たことは嬉しい”などの声があった。また、講座も親同士のピアカウンセリングの場を大切に、地域の保育経験者、アロマセラピーの専門の方なども取り入れ、内容を充実させた。地域の小学生の親たちを対象に保育ボランティアを募り、数名の方がいろいろなプログラムの保育を担ってくださっている。</p> <p>・市の方向性により無料バスの廃止や経路の不便性などで、0歳児をもつ親の来館者数が減っている現状だが、センターの幅を広げ『安心できる』場として人から人へ繋がっていくことを確信し、日々の関わりを大切にしている。</p> <p>・児童館との連携も深くなり、ひろばの親たちと小学生たちが共同で行事を展開し、館として一つになる充実も得た。</p> <p>・先駆型も3年目となるが、狛江市ならではの「顔の見える連携」を念頭に、新年度は改めて関係機関への挨拶、情報や意見の共有できる場を設け、予防・発見・援助・見守りのどの段階においてもスムーズな連携がもたらされるよう取り組む。</p> <p>・20年度の要保護児童対策地域協議会「狛江市子ども家庭支援ネットワーク」における実務者会議・研修からの声として中には、「傷やあざがあっても、どのレベルで通告すればよいのか迷った」「親との今後の関係を考えると連絡できなかった」などと、虐待の疑いがあっても、連絡しなかった事実も判明した。関係機関の管理職だけでなく、子ども一人ひとりに対応する現場の関係者誰もが適切な対応ができるよう、子育て支援課とともに、日常に生きる研修の充実に努める。</p> <p>・「在宅サービス基盤整備事業」における、養育家庭体験発表会は、児童相談所・市役所との連携のもと開催しているが、新たに関係者向けとして、養育家庭についての学びの場となる研修会を開催していく。</p> <p>また、発表会用に作成・配布したオレンジリボンを、年間を通して大量に作成し、さらなる周知に努める。</p>
	<p>・日常プログラム～ふれあいタイム(異年齢親子の交流とティータイム)、わくわくwork(お母さんの製作) すくすく測定(身長・体重測定)、誕生日会</p> <p>・ファミリーDAYとして毎月1回季節の行事や小学生との合同プログラムを実施。(おもいほり、ハロウィン、クリスマス会、ロッキーマーケットなど)</p> <p>・市内2カ所にある「あそびの広場(学童保育所の午前開放)」へ毎月センタースタッフが出張する。</p> <p>・子ども服りサイクル～年3回</p> <p>・講座～中川さんと話そう 年4回、幼児食教室 年3回、年齢別親子講座0歳児・1歳児・2歳児各3期実施。</p> <p>・ボランティア感謝会 1回</p>	<p>・新規登録者数～496組 ・総登録者数～2170組 ・子ども延べ利用者数～11,919人 (内訳 0歳児:4,315人、1歳児:3,108人、2,581人、997人、799人、119人) ・親延べ利用者数～11,624人</p> <p>・相談件数～280件 ・サービス事業延べ利用日数(一時保育:55日、ショートステイ:99日、育児支援ヘルパー:221日)</p> <p>・トイレ～おむつ替えシートを新しく取り換える。また、床にパネルマットを敷きつめ、温かい雰囲気を作る。</p> <p>・ひろばと赤ちゃんコーナーの仕切りをはっきりと区分けし、赤ちゃんが過ごしやすいようにする。</p> <p>・増築工事関係・館庭スロープを緩やかにする。 ・ひろばの出入り口を防火扉とする。 ・避難階段の取り換え</p> <p>・「赤ちゃんふらっと」プレートの取り付け</p>
<p>主な行事報告</p>	<p>センター長 1名 佐藤洋子(岩戸児童センター長との兼務)</p> <p>支援ワーカー 2名 宮内友紀 大西巧馬</p> <p>虐待対策ワーカー 1名 秋山愛美</p> <p>非常勤支援ワーカー 4名 柏森幸子 鈴木ゆずる 中尾由美子 花岡敦子</p> <p>スーパーバイザー 龍野陽子(子どもの虐待防止センター)</p>	

2008年度 雲柱社 児童館ブロック たまだいら児童館ふれっしゅ事業報告

記入者 内堀 浩幸

	子育て支援活動	学童クラブ (本館・分室)	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																					
事業の総括	<p>登録制年齢別クラス活動は1年間の継続を通し参加者同士もスタッフも良き交流を育むことができた。0、1歳児は申し込みも多く定員から漏れてしまった親子のニーズに応えることと広く児童館を知ってもらおうことを目的に「自由参加型年齢別活動」の実施に至った。クラス活動とは違った自由な雰囲気の中で参加者が増えている。</p> <p>「保育付母親講座」を男女平等課との共催で実施した。講師との綿密な打ち合わせや行政との協働など新しい分野への挑戦であったが参加者の評価は高く次回へ弾みを付けることができた。</p> <p>利用者へのアンケートを実施した。様々な思い・声をいただくことができた。この財産を次年度の活動や環境整備等サービスの向上に活かしたい。</p>		<p>毎週1回の低学年プログラムの充実が着実に参加人数を伸ばしてきた。日常の来館にもつながり始めている。高学年の居場所の確保と遊び場の拡大を目的に「高学年タイム」を月に2回のペースで実施した。各回子どもたちの声を形にしていくことで自分たちの居場所として児童館を認知しその他の活動にも意欲的に参加してくれる子どもも増えてきた。</p> <p>定員登録制の高学年クッキングクラブが充実した活動で1年を締め括った。自分達の調理技術の習得に留まらず「他者に仕える」ことを具体化した活動となった。</p>	<p>約5千5百人の来館があった。計画していた事業が形となった。特に「体験学習キャンプ」や「餅つき&伝承遊び」のボランティア参加は日常のスタッフとの交流が実を結んだと実感する。</p> <p>初めて実施した「館内合宿」では中、高生と『命の大切さ』について共に考えることのできた貴重なひと時であった。</p> <p>バンドコンサートでは市内の児童館スタジオを利用する子どもたちが実行委員会を立ち上げコンサートを実施した。市内の中、高生が集い協力し創り上げたという実績は彼らの経験において大きな財産となった。</p>	<p>労作活動においては、子どもたちに「勤労」、「自然」、「食」というテーマを共有することができた。また、クリスマス活動においても「喜びの分かち合い」というテーマを共有することができた。この2事業は地域との連携、結びつきがあつてこそ始めて成り立つものであり結果を残すことで今後の事業展開の大きな糧となった。</p> <p>中、高生ボランティアとして小学生低学年館内合宿に参加してもらった。中学生3名高校生1名に加え小学生高学年クッキングクラブの子どもたちによる夕食、朝食調理ボランティアは良き交流と貴重な経験の機会となった。</p>																					
活動・行事報告	<p>※ 登録制年齢別活動：各年齢月1回</p> <p>※ 自由参加型年齢別活動：各年齢月1回</p> <p>手遊び、体操、工作、レクリエーションなど子どもの発達段階と季節感を盛り込んだプログラムを展開した。</p> <p>「夏祭り」、「お楽しみ会」、「人形劇観賞」「保育付母親講座」「図書館職員による絵本紹介」</p> <p>※ 体育室開放：平日午後2時までミニアスレチックや三輪車、ボールなどを用意した。</p> <p>※ ひだまりルーム：0,1歳児専用の部屋を設定。</p> <p>※ 積木、ブロック等じっくり遊べる部屋を設定。</p>		<p>※ 低・高学年キャンプ：7・8月</p> <p>※ 低学年おでかけ（磯あそび）：5月</p> <p>※ こどもの日スペシャル：5月</p> <p>※ 低学年親子クッキング：年3回</p> <p>※ 高学年クッキングクラブ：年10回</p> <p>※ クリスマス活動（キャンドル作り・施設訪問）</p> <p>※ 労作活動（お米作り）5月から11月</p> <p>※ 映画会：毎月1回</p> <p>※ 低・高学年タイム：週1回/月2回</p> <p>※ 子ども実行委員会：9・10月</p> <p>※ 証言会（被爆体験）：11月</p> <p>※ 館内合宿：3月</p>	<p>※ 3on3大会：年4回</p> <p>※ 卓球大会：年3回</p> <p>※ バドミントン大会：年1回</p> <p>※ バレーボール大会：年1回</p> <p>※ 映画会：毎月1回</p> <p>※ ライブコンサート：年1回</p> <p>※ ボランティア活動（餅つき・低学年合宿）</p> <p>※ 館内合宿：年1回</p>	<p>※ 労作活動（お米作り）：5月～11月</p> <p>日野市に残された水田を地元農家の方に借り受け田植えから収穫、餅つきを体験する。特に除草作業を大切な目的とし子ども達と共に力を注いだ。</p> <p>※ クリスマス活動：11、12月</p> <p>キャンドル製作を通し、地域に目を向け作業所や施設の存在や働きを知る。製作したキャンドルを各施設に訪問し手渡しそこから交流を深めることが出来た。</p> <p>※ 餅つきは中、高生と地域の保護者の方々に協力を得ることができた。</p>																					
登録者・来館者	<table border="1"> <tr><td colspan="2">(登録数)</td></tr> <tr><td>0歳児クラス</td><td>40</td></tr> <tr><td>1歳児クラス</td><td>40</td></tr> <tr><td>2歳児クラス</td><td>40</td></tr> <tr><td>3歳児クラス</td><td></td></tr> <tr><td>計</td><td>120</td></tr> </table>	(登録数)		0歳児クラス	40	1歳児クラス	40	2歳児クラス	40	3歳児クラス		計	120		<p>(2008年度来館者数)</p> <table border="1"> <tr><td>乳幼児</td><td>10372</td></tr> <tr><td>小学生</td><td>13857</td></tr> <tr><td>中・高校生</td><td>5616</td></tr> <tr><td>一般</td><td>10462</td></tr> <tr><td>計</td><td>40307</td></tr> </table> <p>※ 開館日数 290日</p> <p>※ 1日平均 139人</p>	乳幼児	10372	小学生	13857	中・高校生	5616	一般	10462	計	40307	<p>(その他の事業、特記事項)</p> <p>【地域内機関とのつながり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たまだいら児童館ふれっしゅ評議委員会：年2回 ・指定管理業者連絡会：月1回・日野市係長会：月1回 ・日野市子ども家庭支援ネットワーク連絡協議会：年2回 ・日野市立第五小学校PTA連絡会「はぐくみの会」：年2回 ・日野市立二中地区青少年育成会運営委員会：年4回 ・「基幹型児童館」プレゼン
(登録数)																										
0歳児クラス	40																									
1歳児クラス	40																									
2歳児クラス	40																									
3歳児クラス																										
計	120																									
乳幼児	10372																									
小学生	13857																									
中・高校生	5616																									
一般	10462																									
計	40307																									

指定管理

たまだいら

2008年（平成20年）度 事業報告書

施設名：江東区東陽子ども家庭支援センター
記入者：依田幸子

指定管理

東陽

<p>事業の総括</p>	<p>開設10年目の年を来所者・地域のボランティア・関係機関の方々に支えられて迎えることができたことを感謝し、改めて「親子のひろば」のあり方を考える機会となった。</p> <p>来所する子どもの低年齢化 今年度は特に、1ヶ月未満の赤ちゃんの来所が数名あり驚かされたが、子どもを育てる環境が益々厳しくなっていることの表れと受け止めている。マンション等の住環境・地域内での孤立化という問題に加えて、子どもの育ちがわからないことからくる不安も大きいのだろう。泣かれると何故泣いているのか想像できず、一日中抱いていたり、逆に放っておいたり、イライラがつのるケースは少なくない。親が不安になれば、赤ちゃんも泣くことが多くなってしまふ悪循環である。初めての子育てをする母親にとって、身近に別の大人がいてくれるだけで安心するが、そういう環境が得られないのである。泣いている子どもをあやしながら家事もこなすには、あまりにも生活経験が未熟である。</p> <p>授乳や離乳食、便の状態等を一緒に具体的に見てアドバイスしてくれたり、一緒に考えてくれる人の存在が必要である。センターではスタッフだけではなく、先輩の母親たちが育児を手伝ってくれたり、大人同士の会話ははずみ気分転換ができる。それが心のゆとりにつながると、日に日に表情も明るくなり子どもへの対応も考えられるようになっていく。</p> <p>スタッフは、低月齢の子どもの健康を考えると同時に、出産後の母親の健康にも配慮しなければならない。それは第一子だけではなく、実家の援助を受けることが難しくなっている現在、2人目3人目の場合はなおさらで、退院して翌日から上の子どもの育児に追われるのである。思わず「助けてー」とセンターに駆け込んで来る親子を温かく迎え、少しでも休息できるようにと支援していきたい。</p> <p>リフレッシュひととき保育 買い物・美容院・通院・家の掃除など、「子どもといつも一緒だと大変」「一息ついて少しゆとりがもてるようになりたい」という母親たちの声に応えたいと準備してきた一時預かり保育を、7月から開始した。地域の方々に講習を受けてもらい、子ども家庭支援士として（有償ボランティア）保育を担っていただくというシステムは、同じ地域に暮らす人達の新しい人間関係をつくっていくことにもつながり、預ける・預かる中に、知り合いが増えていく。私たちが目指す「みんなで育てる 街づくり」の一役を担うものである。</p>	<p>事業目標・方針の総括</p>	<p>1. ひろば活動 ひろばは、子どもも親もセンターを訪れるすべての人が安心して過ごせる居心地の良い場を目指している。今年度は、新規来所者として赤ちゃんが多く、ひろばのあちらこちらで赤ちゃんの笑顔が溢れた。その笑顔が沢山の人の和ませてくれた。先輩の母親たちは積極的に新しい人達に声をかけ、赤ちゃんを抱っこしたり一緒に遊ぶなど、来所者同士のつながりを感じることができた。職員も、上のこどもと母親が遊べるよう、赤ちゃんを事務所で預かるなど、出来る限り配慮した。また、異年齢の子どもが遊ぶひろばでは、安全面の配慮も大切であり、怪我のないよう注意をはらった。おもちゃを取り合っ泣いたり、大きい子が小さい子の面倒をみる光景や、良いことも悪いことも大きい子の真似をして満足気な子どもの笑顔など、子ども達が互いに育ちあい成長する姿をみることができた。</p> <p>2. 相談活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ懇談会（年間10回） 普段親しい関係でも話せなかった悩みなどを、ここでは本音で話せて、解決策を見つける機会となっている。一人で悩むことから開放されて安心することが多い。 ・家族問題相談（年間24回） 子どもとの関係・夫婦関係・嫁姑関係・原家族との関係など様々な問題を抱えた人が来談する。すでに問題が複雑化しており、家族が安定した状態になるには長期間かかるケースもまれではない。安定したかわりと専門的アプローチが必要であり、地域のネットワークも活用している。 ・発達相談（年間12回） 就学前の子どもだけでなく、学齢期の子どもの相談も増えている。特に何らかの発達障害が疑われる場合は、まわりから理解され難く、母親の育て方が問題にされて辛い状況に追い込まれていることも多いので、そのような親の気持ちを受け止めつつ、治療教育的観点も踏まえ行っている発達相談活動である。 ・すこやかマンデー（年間18回） 障がいがあり、大勢の子ども達が走り回るところでは危険だったり、通常のひろばでは落ち着いて遊ぶことが困難な子ども達にもひろばに来てほしいとの思いから始まったプログラムである。子どもがのびのび遊んでいる中で、母親もゆったりした時間を過ごしている。幼稚園・保育園選び、行動や言葉の遅れ、病院や保健所のことなど、母親同士悩みを語り合い、情報を交換する姿は、同じ想いを体験してきた者ならではの優しさに満ちている。 																				
<p>環境・修繕の総括</p>	<p>1. 子どもが小さいと家の中も思うように整理できないことが多いので、センターは、できるだけ家庭的で清潔な環境づくりを心がけた。やわらかい色合いで花や緑を置き、おもちゃも木や布のものを用意し、色・光・音などの刺激を抑えて穏やかな気持ちで過ごせるよう配慮した。</p> <p>2. エアコンの内部清掃を行い、安心して気持ちよく過ごせるよう配慮した。</p>	<p>年間利用者数</p>	<table border="0"> <tr> <td>・新規登録者数</td> <td>941人</td> <td>・総登録者数</td> <td>11,496人</td> </tr> <tr> <td>・子ども延べ利用者数</td> <td>16,474人</td> <td>・親延べ利用者数</td> <td>14,260人</td> </tr> <tr> <td>・親子合計</td> <td>30,734人</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・相談件数</td> <td>609件</td> <td>・体験学習事業参加者数</td> <td>3,195人</td> </tr> <tr> <td>・ボランティア登録者数</td> <td>39人</td> <td>（参加延べ時間数</td> <td>781時間）</td> </tr> </table>	・新規登録者数	941人	・総登録者数	11,496人	・子ども延べ利用者数	16,474人	・親延べ利用者数	14,260人	・親子合計	30,734人			・相談件数	609件	・体験学習事業参加者数	3,195人	・ボランティア登録者数	39人	（参加延べ時間数	781時間）
・新規登録者数	941人	・総登録者数	11,496人																				
・子ども延べ利用者数	16,474人	・親延べ利用者数	14,260人																				
・親子合計	30,734人																						
・相談件数	609件	・体験学習事業参加者数	3,195人																				
・ボランティア登録者数	39人	（参加延べ時間数	781時間）																				
<p>主な行事報告</p>	<p>1.人材育成「子育てボランティア養成講座 スキルアップⅠ」 センターの利用者や相談者の中でもニーズの高い「一時預かり」の実施に向けて、地域の子育て力を向上させることを目的として行った。連続8回の講座に加えて、保育園・支援センターでの体験実習を入れ、全過程修了者には、7月から実施の「リフレッシュひととき保育」の協力ボランティアとして登録し、活動に参加してもらおう。 2期生・3期生の養成講座・・・参加者52名 登録49名（登録延べ人数66名） ①江東区の現状・ボランティアへの期待 ②子育て・子育てを支援すること ③地域子育て支援の現状と課題 ④子どもの育ちと気持ちの理解 ⑤発達に心配のある子どもの理解と対応 ⑥気になる親・かかわりの難しい親への対応 ⑦支援者としての自分をみつめて ⑧子どもを預かるということ</p> <p>2.子ども家庭相談研修 子育てに伴う不安や悩み、また児童虐待等が大きな社会問題となっているなか、子どもに関する施設が子どもと家庭に対して、育児相談のよきパートナーとなることが強く求められている。区内の保育関係者を対象に、子育て家庭の現状と実践を学ぶための研修を行った。 テーマ：不適切な養育環境で生活する子ども達への理解と支援 ①虐待が及ぼす子どもへの影響 ②養育困難家庭への理解と支援 ③ネットワークで子どもと家族を考える</p>	<p>人事その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・センター長 依田幸子 ・子ども家庭支援ワーカー 二木加奈 宮崎歩（地域活動兼務） 高橋英恵 8月入社 加藤敬子（パート） 宮内美子（パート 地域活動） 片山富美子（ひととき保育担当） 高橋佑佳 10月入社（ひととき保育担当） 清水めぐみ（パート ひととき保育担当） 津田桂子 11月～産前産後休暇 佐久間知恵 9月～産前産後休暇 ・専門相談員・協力研究者（スーパーバイザー） 伊志嶺美津子（浦和大学 こども学部教授） 染谷 利一（東京大学附属病院こころの発達診療部：臨床心理士） 小川 未佳（家族機能研究所、IFF相談室セラピスト、臨床心理士） 新沢 誠治（前東京家政大学教授・みずべの会代表） 																				

2008年（平成20年）度 事業報告書

施設名：江東区大島子ども家庭支援センター
記入者：小野江伊子

指定管理

大島

事業の総括	<p>区内2ヶ所目のセンターとして開所して6年目を終えるが、その間異動でセンター長が3人次々と変わる中、専門相談の先生、保健師、助産師、栄養士、そして地域の民生・主任児童委員の方たちの変わらぬご協力をいただきながら、事業を行なうことができた。</p> <p>ふれあいひろば 今年度も0才児を連れて来所する方が多く、育児の不安や心配を抱えていることが多い。生後1ヶ月未満での来所も増えている。授乳の仕方、オムツのあて方、抱っこの仕方から洋服の調製など様々な不安や、こどもをどのように受け止め、関っていくか戸惑っているというお話をうかがうことが多い。助産師さんによるグループ懇談会や個別相談等で専門的なサポートを受けたり、先輩ママから経験に基づいた話を聞けることで、不安や心配が少しでも解消されていけるよう心がけている。</p> <p>リフレッシュひととき保育 2008年7月より江東区の4センターで開始。ひろばの中での保育の良さと難しさを感じつつ支援士さんのご協力のもと、行なわれている。リフレッシュの方がほとんどだが、育児不安や虐待予防の観点からお子さんをお預かりすることも増えてきている。</p> <p>利用者アンケート 大島では開所以来2回目の利用者アンケートを行なう。その結果、多くの方が安全で清潔な遊び場と感じて利用してくださっていることがわかった。しかし、年令の小さい子をお持ちの方からは、異年齢の子と一緒に遊ぶことで良い刺激になっている反面、大きい子が走ったりすると危ないという意見もあった。またプログラムを増やして欲しい、月曜日・日曜日・祝日もあけてほしい、17時まで利用できると良いという声もあった。利用者の声を受け止め、改善できることはスタッフ間で検討し、反映していきたい。</p>	事業目標・方針の総括	<p>1 ひろば活動 ひろば活動は、新規の方、間隔をおいて訪れる方、また、比較的小さいお子さんを連れてくる方（0才もしくは1才前半）の増加が続いている。大島のひろばは利用者の自主的な活動が大きな特徴であるが、それを築いてきた人たちの入れ替わりもあり、スタッフは新たな関係作りに力を入れ、初めて来た方や友だち作りをしたい方への対応を心がけた。土曜日に行なっているベビーマッサージへの父親の参加が多くなり、夫婦と一緒にマッサージを行ったり、その後母親同士のからだほぐしの間、お子さんを抱いた父親が集まり、こどもの話に花が咲くこともある。これを機会に父親同士の輪ができると良いのだが、次回につながることは難しい。今後父親向けの講座等を入れながら父親が参加しやすいひろば作りが課題である。</p> <p>2 相談活動 ひろばでの子育て相談がきっかけで、ご自身のこと、夫との関係、実家との話しへと広がることが多い。また、発達の遅れを心配される方も多く、毎月行なっている専門相談（心理・発達・家族問題）を利用する中で、少しずつ気持ちが楽になり、その結果、子育ての大変さが和らぎ子どもとの関係が良くなっていく姿がみられる。</p> <p>3.地域活動 地域のボランティアが果たす役割はとて大きく、講座時の保育・ひろばでこどもと遊んだり、母親の話し相手になる・ハローみずべやフレンズクラブのような集いをスタッフと共に行なう・手作り工作を企画、準備、当日の進行をするなど、とても幅広くスタッフだけではできにくい部分を一緒に担ってくださっている。また、亀戸出張ひろばや大島8丁目ひろばは大島みずべとの協力の事業として、その地域の方々に喜ばれている。近隣の中学校から夏季中学生ボランティアは5年にわたって受け入れている。今年度は初めて男子生徒が2名参加し、女子とは違う遊びの展開がみられた。</p>
環境・修繕の総括	<p>1.建物の修繕としては、以前より課題となっていた雨漏りの屋上防水改修工事が区により行なわれた。工期は9月1日から10月31日までの2ヶ月間で、ひろばを開けながらの工事のため、安全性には十分配慮し、利用者へはちらしと口頭で協力と理解を得られるよう心がけた。工事内容によっては、騒音が発生することもあったが、その都度説明を行い、無事終了することができた。</p> <p>2. 2階入口ドアの鍵に不具合が生じたため、業者により修理をおこなう。6年間使用してきて磨耗したことが原因で定期的な交換の必要があるとのこと。鍵に関しては、安全確保の為にもスタッフはもちろんのこと利用者も含め、皆で注意していくことを再確認した。</p> <p>3. 冬季、廊下が冷たく寒いという声が多くあり、タイルカーペットをスタッフが敷くことにした。足元が暖かくなったせいか、冬も廊下でハイハイしたり、遊ぶ姿が多くみられた。寒さ対策だけでなく、安全面でも効果を上げることが出来た。</p>	年間利用者数	<ul style="list-style-type: none"> ・新規登録者数 1100人 ・子ども延べ利用者数 14491人 ・親子延べ合計数 27441人 ・相談件数 437件 ・リフレッシュひととき保育登録者数 497人 ・リフレッシュひととき保育利用延べ人数 320人 ・ボランティア登録者数 53人（参加延べ時間数 1822.5時間） ・総登録者数 6353人 ・親延べ利用者数 12950人 ・体験学習事業参加者数 4,163人
主な行事・活動報告	<p>母親講座 お母さんの元気講座（3回） 離乳食講座（3回） グループ懇談会（連続講座3クール） 助産師さんを囲んでのグループ相談（8回） 助産師個別相談（6回） ベビーマッサージ（11回） おはなし会（月3回）・季節のおはなし会（たなばた・クリスマス） 夏季の水遊び・手型足型・ハローみずべ・青空ひろば 誕生会・すこやか成長記録・ふたごちゃんの集い（3回）・フレンズクラブ・ 入園おめでとうの集い・手作りおもちゃ みずべ会議・手作りサークル・リサイクルひろば 亀戸出張ひろば・大島8丁目ひろば ボランティア会議（3回） ボランティア感謝会 中学生ボランティア・小学生ボランティア</p>	人事その他	<ul style="list-style-type: none"> ・センター長 1名 小野江伊子 ・子ども家庭支援ワーカー（リーダー）1名 後藤美津枝 ・地域支援ワーカー 1名 石塚亜弥子 ・非常勤ワーカー 1名 渡邊奈津子 ・非常勤ワーカー（一時保育担当） 1名 櫻庭利香 ・専門相談員（月1回） <ul style="list-style-type: none"> 発達相談 藪和巖（東京大学医学部精神神経科小児部：臨床発達心理士） 家族相談 稲邑恭子（成蹊大学・お茶の水女子大相談員：カウンセラー） 心理相談 田島昌子（NPO法人子ども家庭リソースセンター：臨床心理士） ・スーパーバイザー <ul style="list-style-type: none"> 坂井聖二（子どもの虐待防止センター理事長・坂井医院院長：小児科医） 新澤誠治（子育てひろば推進センターみずべの会代表）

2008年度 雲柱社事業報告書

施設名：江東区深川北子ども家庭支援センター
 記入者：酒井真理子

指定管理

深川北

<p>事業の総括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 深川北子ども家庭支援センターの歩みも立ち上げから5年が終わり、指定管理も5年間のうち3年が終わる。子育ての輪を、「地域にひろめよう、深めよう、つなげよう」ということを大切に、利用者・ボランティアと共にこの1年歩んできた。地域の人々がみずべで出会い、子育て・家族・自分自身のことなどを話し合ったり、励ましあったりしながら子育ての輪が広がり、仲間がつくられてきている。又、利用者のいきいきとした自己発揮の場になっている。 ・ ひろばは、親子だけにとどまらず、子育て中の家庭をあたたく見守りたいと思うボランティア、子育て支援を勉強したい学生、学童クラブのこどもたちや地域の小学生など、たくさんの方がさまざまなかたちで参加され、交流の場、ふれあいの場となってきている。 ・ 子育て中のお母さんのリフレッシュひととき保育事業を開始する。利用者からも、区からも喜ばれ、よい評価をうけている。 ・ リフレッシュひととき保育の支援士講座修了者のみずべでの実習を受け入れ、ひろばでのあずかり保育の協働を行うことにより安心、安全が実行される。今年度3月で、延べ194人の親子に出産と誕生をお祝いするカードを渡す事ができた。こどもの誕生を地域みんなで喜ぶ。区内の関係機関である幼稚園、保育園、児童館、小学校、保健所、児童相談所、福祉課等との情報交流、連携をし、関わりすすめている。 ・ 小学校、中学校との関係者会に参加しこどもとその家族の支援のネットワークを強める。 ・ 江東区内に5つのセンターがオープンし、それぞれのセンターと連携、協力し、地域の親子が安全で安心、大切にされていると感じることのできる場を目指し、地域の方々や、主任児童委員、民生委員とともに、こどもたちその家族が心身ともに健やかに感じることも目指し、地域の方々や、主任児童委員、民生委員とともに、こどもたちその家族が心身ともに健やかに育つまち・社会をつくっていくことに心を注いできた。 	<p>事業目標・方針の総括</p>	<p>ひろば活動事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雲柱社基本理念、子ども家庭支援センター事業目標を基にし、来所した親子や、ひろばでの触れ合い相談を丁寧に受けとめ一緒に考える姿勢を心がけてきた。また、みずべ基本理念である共育、共創、共有、共生を考えあい、話し合ってみずべに集う仲間で助け合い、支えあって一年歩んできてくることができた。 ・ 乳児期の子育てを家庭の中に閉じこもることなく、開かれた多様な人との関わりの中で、こどもの育ちを見守り支えあい喜びを分かち合えるひろば作りを目指してきた。スタッフはひろばでこどもたちや親と場を共有し、こどもや親の思いを感じ取りその事を伝え合い受けとめていくことを大切にしてきた。 ・ センター活動を、利用者、ボランティアと共に考える「みずべ会議」を実施し、みんなで創るひろばを目指して活動を続けてきた。 <p>相談活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ひろばでのふれあい相談で気軽に相談ができるような関係を築いてきた。 ・ 深刻な状況にある相談者はあらゆる問題が重なっていることもあるので、総合的に広い視野を持ってサポートしていくようにした。 ・ 相談者が必要としていることは何かを見極め、センターだけで全てを抱えるのではなく、自分たちができることを考え、必要に応じ各専門相談につなげたり、保健所と連絡を取ったり、それぞれの親子に合った対応を考え、すすめていくことを大切にしてきた。 																								
<p>環境・修繕の総括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月のお誕生日会のお祝いのお花をお母さんが活け喜ばれている。 ・ 冬季室内が乾燥する為加湿器を設置。 ・ 廊下掲示板の増設。掲示物の整理、明確化。 ・ 2階学童クラブ室を借りて毎月のグループ懇談会やベビーマッサージ等が充実してきている。 ・ アンケートを実施。利用者のさまざまな声を聞く事ができた。多くの人が参加できるようなプログラムを企画、実施してきた。 ・ プログラムを目当てに参加者が増えてきている。利用者の要望でおもちゃ拭きタオルを設置した。 ・ ひろばで、こども自ら遊びたくなるように、遊具の充実、コーナー設定を工夫し、環境を整える工夫をした。 ・ 館全体が古いので、備品の故障や水漏れ等があり、安全管理面での点検に注意して、整備を行った。 ・ センター周囲の樹木については、安全、清潔面を考え、スタッフが毎日清掃を行い、状況により剪定も行った。 ・ 防犯カメラを設置した事で不審者対策、また利用者の外での動きが把握でき、安全管理をしていく事ができるようになった。 	<p>年間利用者数</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>今年度</th> <th>前年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 新規登録者数</td> <td>546名</td> <td>596名</td> </tr> <tr> <td>・ 子ども延べ利用者数</td> <td>11,274名</td> <td>11,302名</td> </tr> <tr> <td>・ 親延べ利用者数</td> <td>10,134名</td> <td>10,193名</td> </tr> <tr> <td>・ 親子計</td> <td>21,408名</td> <td>21,495名</td> </tr> <tr> <td>・ 相談件数</td> <td>480名</td> <td>518名</td> </tr> <tr> <td>・ 体験学習事業参加者数</td> <td>3,054名</td> <td>3,105名</td> </tr> <tr> <td>・ ボランティア登録者数</td> <td>43名</td> <td>32名</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参加延べ時間 おとな 801時間) (参加延べ時間 こども 418時間)</p>		今年度	前年度	・ 新規登録者数	546名	596名	・ 子ども延べ利用者数	11,274名	11,302名	・ 親延べ利用者数	10,134名	10,193名	・ 親子計	21,408名	21,495名	・ 相談件数	480名	518名	・ 体験学習事業参加者数	3,054名	3,105名	・ ボランティア登録者数	43名	32名
	今年度	前年度																									
・ 新規登録者数	546名	596名																									
・ 子ども延べ利用者数	11,274名	11,302名																									
・ 親延べ利用者数	10,134名	10,193名																									
・ 親子計	21,408名	21,495名																									
・ 相談件数	480名	518名																									
・ 体験学習事業参加者数	3,054名	3,105名																									
・ ボランティア登録者数	43名	32名																									
<p>主な行事報告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 父親・母親講座はこどもの育ちと大人の関わり方、体のこと等を学びあう事ができた。 ・ 自主活動 ケーキサークル、英語で遊ぼう、お話し会、に加え新しく歌って遊ぼうのお母さん方のプログラムが定期的に行われている。 ・ 子育てしながら自分の持てる力を発揮できる場となっている。 ・ あそびワーク(平野児童館との協働として行っている。) ・ 誕生日会(毎月最終土曜) ・ すこやか成長記録(毎月)一月末の4日間、身長体重測定および成長を親子、スタッフ共に喜びあう ・ グループ懇談(毎月)母子分離の中で、0～3歳のこどもに関して育児の中でのいろいろなことを分かちあう。 ・ 助産師さんとの懇談(毎月)主に0、1歳児の生活、健康について出産前後のお母さんの健康について話す。親子ふれあい体操も行う。 ・ あおぞらひろばー森下公園に出かけて、体を動かして思いきり遊ぶ。年3回は、法人内の神愛保育園と一緒に企画、実行 ・ 季節の行事ー利用者と協働しながら、ファミリーデー、七夕、クリスマスのつどい、入園おめでとのつどいを実施。 ・ みずべ会議ー利用者、ボランティア、スタッフとの運営会議 ・ 学童クラブとの交流～秋まつり、おみせやさんごっこ、クリスマス等だけでなく、毎月1回のにこにこひろばや普段の日常的な交流は、学童児、みずべのこどもたち双方にとって良い刺激となっている。 ・ 講師によるベビーマッサージを通して親子の触れ合いや親同士のリラクゼーションの時をもっている。(月1回) ・ 有償ボランティアによるハンドマッサージを通してお母さんの手のケア、また話を聞いてもらう事で心のケアとなっている。(月1回) 	<p>人事 その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ センター長 酒井 真理子 ・ 副センター長・子ども家庭支援ワーカー 星野 操 ・ 地域活動ワーカー兼子ども家庭支援ワーカー 篠原 喜美 ・ 保育ワーカー(非常勤) 白砂 美樹 ・ 子ども家庭支援ワーカー(非常勤) 花島 由利子 <p>専門相談員</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達相談 紺野千津恵(東京大学医学部言語聴覚士) 鈴木美鳳(東京大学医学部 精神神経科 小児科) 心理相談 田島昌子(臨床心理士・子ども家庭リソースセンター代表) 家族問題相談 島根三枝子(代々木高等学院相談室長カウンセラー) 助産師さんとの懇談 廣田真里(助産師) <p>スーパーバイザー 田島昌子(臨床心理士・子ども家庭リソースセンター代表) 坂井聖二(子どもの虐待防止センター理事長) 龍野洋子 (子ども虐待防止センター相談員) 新澤誠治(子育てひろば推進センター みずべの会代表)</p>																								

<p>事業の総括</p>	<p>ひろば活動 リフレッシュひと時保育の開始は、親達からだけではなく、様々な事情で養育困難な状況にある家庭の相談を受けている関係機関からも期待を持って待ち望まれてのスタートであった。6月から始まった登録受付は江東区全域から予想以上の人たちが来所し、当初はなかなか予約が取れないとの苦情も出るほどであった。ひと時保育の開始に伴い、ひろばの環境設定も大きく変わり、今まで慣れ親しんでいた状況の変化（食事コーナーの移動、遊びスペースの縮小など）に戸惑いや不満の声が出ることも予想していたが、懸念していた大きな混乱はなくスムーズに移行できた。 又2年目からすこしずつ活動し始めた自主活動が、充実し又広がってきた1年でもあった。親達の希望が出来る限り実現できる方向で、スタッフは活動が軌道に乗るまで協力体制をつくってきた。障碍を持つ子どもと親の集い「すこやか MANDAY」は月1回の集いであるが、メンバーも増え、こども達にとっても親達にとっても継続の参加は互いに子ども達の変化を喜び合う場となり、母親同士の交流も深まる貴重な時間となってきている。</p> <p>相談活動 専門相談—発達相談は保育園、幼稚園在籍児の相談が多くなってきている。また相談後医療機関に紹介するケースも増えてきている。また家族相談では継続が必要なケースについては大島みずべの家族相談と調整をし便宜を図ってきた。面接、電話相談—乳幼児期の子育て相談の他、母同士のトラブル、子どもの発達についての相談が多く占めている。</p> <p>児童虐待相談事業 医療機関用児童虐待対応マニュアル検討委員のメンバーになり作成。 育児支援サポート事業について申し込みから利用までのシステムの再検討</p>	<p>事業目標・方針の総括</p> <p>ひろば活動—「子ども達をみんなとともに育て合おう」というみずべの理念のひとつの具体的実践でもあるリフレッシュひと時保育事業を7月から開始。登録者数及び利用者数からもいかに親からのニーズが高いものであったかを再確認するほどであった。ひと時保育を担ってくれる家庭支援士の養成講座は、地域の子育て応援者の人材の掘り起こしでもあり、みずべのひろば活動の理解者、応援者としての活動につながっている。ひと時保育の開始をきっかけに、城東地区全域からの来所が多くなり、3年目に入っても尚新規登録者、来所者が増加している。 <u>みんなで創る、みんなのひろば—活発な自主活動</u> みずべ会議で出た親のひろば活動に対しての意見、要望などから是非とも実行、実施していきたいものに対して、スタッフも協力しながらではあるが親の自主活動として実施することを、積極的に勧めてきた。様々な活動が誕生したが、体験学習室が保育室になったことで、自主活動の部屋の確保の困難さ、子どもの保育についてなど検討課題も多く出てくる。</p> <p>児童虐待ホットライン 年度途中で虐待対策対策ワーカーが産休、育児休職に入ったため、新採用のワーカーを採用。1ヶ月間の引継ぎ業務期間を設ける、大きな支障もなく引継ぎが行われた。 他機関からの通報件数の増加からも区内の虐待相談通報受付窓口としての周知がひろがっていることを感じる。昨年度の関係機関の児童虐待対応マニュアルに続いて、医療機関との連携の必要性が高まり、今年度医療機関向けの虐待対応マニュアルの作成が進められた。 ・ホットライン受理件数 211 件（継続 77 件・新規 134 件） ・ホットライン活動延べ数 5,551 回 ・育児支援サポート事業利用 延べ 24 件</p>
<p>環境・修繕の総括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年目瑕疵点検でセンター入り口門扉の水溜り修繕工事 ・ リフレッシュひと時保育開始に向けての部屋の使用用途の変更 ・ リフレッシュひと時保育室の整備 ・ 和室、リフレッシュひと時保育室、会議室の網戸設置 ・ 和室畳み替え ・ （自動ドア使用に際して安全確保のため）自動ドアタッチスイッチ取り付け 	<p>年間利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規登録者数 1,409 名（総登録者数 5,553 名） ・ 子ども延べ利用者数 21,438 名 ・ 相談件数（虐待ホットライン含む） 新規 650 件 延相談件数 5,899 件 ・ ＊ 児童虐待ホットライン受理数 上記記載 ・ リフレッシュひと時保育 登録者数 895 名、利用延べ人数 1,060 名 ・ ボランティア登録者数 42 名（参加延人数 438 名）
<p>主な行事報告</p>	<p>母親講座—ベビーマッサージ（隔月—6回）、おもちゃ病院（1回）、お母さんの元気講座（父親講座—お父さんの木工講座（1回）、離乳食講座（2回）・お父さんのベビーマッサージ（1回）グループ懇談会—9回（3テーマ） 助産師によるグループ相談（毎月1回）、助産師による子どもと母親の個別健康相談（6回）お母さんの元気講座（3回）すこやか MANDAY（障碍を持つ子どもとお母さんの集い）毎月1回、お誕生日会・すくすく成長記録・夏季水遊び：おはなし会毎週1回・クリスマス会 めだかクラブ—折り紙教室・ハンド、フィットマッサージ・お茶会 みずべ会議（6回）・保育園幼稚園入園を控えての懇談会（各1回） 自主活動—分かち合いリサイクルバザー・入園おめでとうの会・3歳児あそび隊・図書委員会 園芸部・母親コーラス部 ボランティア感謝会（5支援センター合同）</p>	<p>人事その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ センター長 早川貴美子 ・ 子ども家庭支援ワーカー 佐川寛子（リーダー）・江崎美子(地域支援ワーカー兼務)（非常勤） 檜山真御子・古家加生里・斎藤裕美 ・ リフレッシュひと時保育 曾我郷子（非常勤） 遠矢澄子・横田ゆかり（12月退職）・坂元真紀（H21年1月採用） ・ 児童虐待対策ワーカー 長尾妙子（12月～産休入り） 安掛由美子 膳場敦子（11月採用）（非常勤） 杉山由希子 ・ 専門相談員（発達相談） 斎藤厚子（心理相談） 櫃田紋子（家族相談） 稲邑恭子 ・ スーパーバイザー 坂井聖二（小児科医、子ども虐待防止センター理事長）（H20年8月まで） 龍野陽子（子ども虐待防止センター相談員）（H20年9月から） 新澤誠治（子育てひろば推進センターみずべの会代表）

<p>2008年8月のプロポーザルにより、新たな2009年度から5年間の指定管理の指名を受けた。</p> <p>1. 広場事業 広場利用の親子にとって安全安心の居場所となっている。 5年目のセンターには、第2子・第3子を出産して、兄弟姉妹が増えての利用者も多く見られる。また、里帰り出産の母親はしばらく来られないからと、スタッフに別れに顔を見せに来てくれる。里帰りした先でも、センターのHPを活用して、気持ち穏やかに出産の日を迎えてほしいと願う。子ども同士のトラブルも起きる広場であるが、そうした子どもたちを見守る親、叱り方、褒め方も広場の中で互いに学び合っている姿が見られる。我が子だけでなく、他児をも共に保育し合い、共に育っていこうとする親子のあそびの会が次年度には発足することになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広場でスタッフの工夫した玩具や環境の中で、のびのびと遊び、時にはトラブルも起こしつつ成長していく子どもたちである。楽しいから帰りたくないという執着の気持ちも大切。時には大目に見たり、区切りをつけさせることも保護者たちの役割であるが、どう関わっていくか、幼い子への関わりのできない母親、我が子に真剣になりすぎてしまう母親を見ることも多い。こうした点でも、子育ての終わった余裕のあるシニア世代との接点も持たせたいと考える。 ・今年度始めたちくちくの会は、針仕事をしない世代の母親たちが、我が子の名札づくりをしようとする懸命さを見せられている。手先を使った作品づくりの経験や文化的な物に触れる機会が広場で体験できるような工夫も必要なのだと思う。その点でも異世代の交流の中で子育てをしていってほしいと考える。 ・全体的に利用人数は横ばい傾向である。5年間行なってきた計測・スポットタイム・誕生会等も以前ほどの人数の参加はないが、しかし、これらの活動を楽しみに来館する親子もいるので存続は必要と考えている。リトミックのような現代の親子の飛びついてくるプログラムもあるので、親たちは何を望み、センターとしては何を提供していくかをしっかりと見定めなくてはならないと考える。 <p>2. 体験学習事業 ・中学生の体験学習は、広場活用の親にも中学生にも得がたい体験となったように思う。自らの成長の過程や親との関わりを振り返る中で、愛されて育つこと、幼い者を愛する大切さ等を学んでもらえたと思う。次年度も受け入れを続けたいと話している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい体験事業は大きなイベントにせず、日常の活動の中に中高生と一緒に参加していく方がよいのではないかとスタッフからの意見もあり、次年度はカプラ遊びなどに参加を呼びかけていこうということになっている。 ・NP、各年齢講座、元気村祭りと、少人数のスタッフがいくつもの講座や行事を職員の努力により実施してきた。よくぞ担ってきたという感がある。せめていくつかのプログラムには保育を付けられる予算が捻出できないかと考えている。 	<p>目標（共に生きる・共に育てる）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の生活と密着した援助ができてきたか考えると、センター内の充実より先に出ていないと考える。乳幼児期から18歳までの子どもたちと家族の地域での生活への視点を持っていないと考える。 ・地域の特性の中でどのような支援ができるか、経済的問題、疾病の問題、貧困や格差をどう捉えていくか、私たちの関わらなくてはいけない問題を市全域から読み取らなくてはならない。 ・まずセンターが安全安心な場所として定着してきたことは評価できると考える。 ・連携する機関の充実を次年度はさらに進めなくてはいけないと考える。虐待問題のスーパーバイズも受けてきたが、さらにスタッフで共有の場を持ち、各自のスキルの向上を図ることを次年度に向けて取り組んでいきたい。 ・専門分野との連携の会議等をセンター独自で持つことができないか、また、スタッフ会に組み込める工夫も等についても考えていきたい。各課から学び、支援等を共有したい。 ・保育園・幼稚園との連絡会、 小学校・中学校スクールカウンセラー、養護教諭との連携、 子育て相談室の相談員の研修、 ファミリーサポートのアドバイザーの強化、市の運営する広場との連携研修、 主任児童委員や民生委員との連絡会等の機会を多く持ち、各役割分担を明確にしつつ協力体制をとっていきたい。 ・小平市の子育てを支援する会への参加と協力をしていく。 ・事例検討を各機関と行っていく中で、各役割を強化し、これらのコーディネーターとしてのを果たしていく。
<p>3. 相談事業 広場での相談の中でも深刻な家族問題が出てくる。育児の仕方や悩みだけでなく、家族問題や疾病（精神的にも）など多岐にわたってきている。相談員の対応スキルの向上が益々求められていると感じる。専門相談は発達障害を療育機関にうまくつなげられているように思う。乳幼児の療育はうまく連携ができていると思うが、就学年齢になって18歳の限界になるまでにどういう支援ができるかは課題である。</p>	<p>環境整備・修繕の総括</p> <p>5年間で床に穴があきそうな箇所ができてきた。（下に排水管の穴があった。）そこを修繕することで一応床は平らになった。壁も一部欠けている箇所もあり、これからは修繕の必要が出てくるであろう。事務所は限界の狭さになってきている。サービスの機能低下にならないよう事務所内の環境も考えたい。セキュリティの問題は重要になってくる。本部と相談し対応していきたい。玩具や本を一部新しくできたのはよかった。</p>
<p>4. 虐待対応・要支援対策 児童相談所とは進行管理を通して、またケースを通してよりよく連携ができていると思う。但し、児童福祉司のタイプによって連携の差ができてしまうこともあった。育児支援ヘルパーの活用により、保健師との同行訪問が多くなった。家庭の経済の問題、親の認識度（知的ボーダー、親子共の発達障害）、世代間連鎖等、虐待予防になるには課題は非常に多い。</p>	<p>年間利用者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規登録者数 586組 ・総登録者数 3972組 ・年間子ども利用者数 5526人 ・年間親利用者数 4484人 ・相談件数 2320件 ・講座体験学習参加人数 講座：537組 のびのび成長記録：336人 ふれあい体験：111人
<p>5. ショートステイの利用も多くなっている。予算の問題が年度途中で起きてきて、これ以上使えないという状況もあつたり、担当の苦勞も見られるところであつた。サービスをどう使ってもらえるか、担当課ともよく話し合っていきたい。</p> <p>6. ネットワーク、地域へのサポートは今年度も進まなかった。次年度はここに力を入れ地域資源を広げていきたい。 関係機関との連携はさらに強化されてきたと考える。</p>	<p>人事報告</p> <p>センター長兼ワーカー 1名 両方仁子 ワーカー 2名 坂田祐也, 藤田理恵子 地域活動ワーカー 1名 伊豆田麻子 虐待対策ワーカー 1名 丸谷充子 非常勤ワーカー 1名 田門美千子 ・専門相談員 松田景子（臨床発達心理士, 言語聴覚士） 関戸百合子（臨床発達心理士, 臨床心理士） ・スーパーバイザー 龍野陽子（虐待防止センター相談員） 田村毅（大学教授、児童精神科医）</p>

2008年(平成20年)度 事業報告書

施設名：光が丘子ども家庭支援センター
 記入者：新澤拓治

<p>事業の総括</p>	<p>光が丘区民センター6階を改修し、近隣学童クラブ跡地でおこなっていた光が丘びよびよを移転。子ども家庭支援センター、ファミリーサポートセンターとあわせて、設置。</p> <p>2008年4月1日(火)にオープン。子育てのひろばは4/14(月)から実施。乳幼児一時預かりは4/23(水)から実施。トワイライトステイは4/28(月)から実施。</p> <p>・事業開始の1年目として</p> <p>2008年度4月より、新たにスタートした光が丘子ども家庭支援センター、光が丘びよびよ、光が丘ファミリーサポートセンターであるが、ホップステップジャンプの一番はじめ、ホップの年として大切な時ととらえ、今まで培ったノウハウと共に、新しい地域で、周囲の方々から様々なものを吸収させていただきながら仕事を進めることが出来た。</p> <p>・委託事業の担い手として</p> <p>従来江東区等で行なってきた事業を根っこにもちながら、練馬区で続けられてきた事業の担い手として、今までの活動のよい所を継承しつつ事業を進めてきた。ひろばではプログラム等は少なめにし、その分、利用者の交流を重視したり、一時預かり、トワイライトステイ、ファミリーサポートといった、在宅サービスの充実に力を入れた。それぞれに課題はありつつも一年間をかけて安定した事業活動へととなってきた。</p> <p>・チームワーク</p> <p>練馬区という新たな地域での仕事で、ゼロからのスタートという気持ちで始めたので、みな一緒に作り上げ、そうした中で一体感とチームワークが醸成された。</p>	<p>事業目標</p> <p>・最前線の受け手として</p> <p>今まで、雲柱社の中では実施の無かった、トワイライトステイを受託。相談事業等がかねてから課題であった、夜間に安心して子どもが過ごすことが出来る場所を実施出来たことは大きな意味があったと思う。またファミリーサポート事業も従来練馬区で熱心に取り組みされてきたものを受け継ぐというかたちで受託し、地域住民の大きな力を実感しているところである。</p> <p>・地域と共に</p> <p>光が丘区民センターは地の利もよく、多くの方が集まってくる施設なので自然と交流も生まれ、特に1階にある保健相談所とはケースでの連携を始め、ひろばでの健康問題や、預かりでの問題などを相談。また同じ階には地域生活支援センターさん、ボランティアセンターさん、青少年育成地区委員会さんなどもあり、顔見知りとなれた。また4階には児童館もあり、区民センターの中で0歳から高校生まで幅広く対応することができた。</p> <p>地域の布の絵本の会の方からは絵本を寄贈していただいたりと、地域に支えられての一年目となった。</p> <p>・労務管理について</p> <p>年末年始と全館休館日(年2日)を除いては全て開館をしている施設であり、なおかつ夜も22時までの開所となっている。その為、厳しいシフト制の勤務になっており、職員全体が揃う事が少なく、会議や研修体制を整えていくことが課題となっている。</p>
<p>年間利用者数</p>	<p>ひろば 登録者数(子) 2,211名 利用数(延べ) 子 14,512名 親 13,881名</p> <p>一時預かり 登録者数(子) 396名 利用数(コマ延べ) 1,439回</p> <p>トワイライトステイ 登録者数(子) 52名 利用数(延べ) 438名</p> <p>ファミリーサポート 援助会員数 102名 利用会員数 1,439名 援助回数 6,820回</p> <p>相談件数 115件(ひろばでの相談除く)</p>	<p>環境修繕の総括</p> <p>・従来のひろばより広さが半減したこともあり、当初3歳位のお子さんをおもちの保護者からは苦情に近いものも入った。練馬区と協議の上、週1回会議室をひろばとして開放することとし、対応を計ると共に、階下児童館へのご案内等もする。</p> <p>・改装し、新しい施設であるが、冷暖房が全館のシステムの為、時間が来るとストップしてしまう。冬場でも陽当たりがよく、暑い日もある。また風通しが悪く、空調環境の整備に課題がある。大規模な修繕は望めないで、細かい工夫をしながら対応をしていく。</p>
<p>主な行事報告</p>	<p>・ スポットタイム第2・4火曜日</p> <p>・ たんじょうカード(常時受付)</p> <p>・ すくすく測定(身体計測) 第2・4 木曜日</p> <p>・ 小児救急ミニ講座 日時：7/24(木) 10:30~12:00 講師：飯島医院 飯島 健志 先生</p> <p>・ 看護師さんに聞く 日時：7/10 12/18 年2回 講師：光が丘保育園 菊池 先生 光が丘第5保育園 山中 先生</p> <p>・ 栄養士さんに聞く 日時：11/18 1/29 講師：光が丘第7保育園 菊池先生 光が丘第9保育園 遠藤先生</p>	<p>人事その他</p> <p>所長 新澤拓治 主任 佐藤貴子</p> <p>子ども家庭支援ワーカー 大風逸子(相談担当)</p> <p>子ども家庭支援ワーカー 横田純(トワイライトステイ担当 兼地域活動ワーカー)</p> <p>子ども家庭支援ワーカー 山田広子(一時預かり・ひろば担当)</p> <p>子ども家庭支援ワーカー 池田あずみ(一時預かり・ひろば担当)</p> <p>常勤職員 6名 非常勤職員 16名</p> <p>スーパーバイザー(グループミーティングのファシリテーターとケースのアドバイス)</p> <p>藤尾静枝先生 (支援者のための研究室 悠 代表 保健師・精神保健福祉士)</p>

2008年度社会福祉法人雲柱社 上池台児童館 事業報告

記入者 小暮 緑

<p>事業の総括</p>	<p>クラス活動は依然登録数が多い。活動時期を短く設定したが活動への関心やニーズも多いため次年度は元に戻すこととした。年度後半になると参加人数が減ってしまうことに対して、自然の流れと取るのではなく分析の必要性があると思った。 水曜日は幼稚園児タイムを設けているが、利用者が多く、夕方近くまで遊んで帰られる人が多くなった。 土曜日のプログラムが他の行事との兼ね合いで展開できなかったのが反省点である。</p>	<p>今年度も2学期の途中まで待機児がいる状態だった。 学童の体制・運営の基礎固めを引き続き行った。不十分な点もまだある改善され子どもたちが生活しやすい、保護者にとっても安心感のある学童クラブへ近づいて行っている点は評価できる。</p>	<p>全体の来館者は多くなかったが、プログラムへの参加は多かった。授業時間、習い事の関係から物理的に来館できない子が多いが、午前授業に変更された日の来館は多いことから、こどもたちの意識が児童館にあることは確かだと感じた。ふと時間ができた時に立ち寄れる居場所となれたのではないだろうか。 高学年活動の足掛かりとなるプログラムを始めたことにより多くの反応があった。おしらせの配布小学校を広げたことにより来館者の層の広がりが見られた。高学年でも児童館プログラムを求めている子ども達がいることがわかったので次年度に繋げて行きたい。</p>	<p>小学生からのつながりで中学生になっても児童館を利用する中1を中心に利用が増えて行った。しかし、家庭の事情から18時からの中学生タイムに残ることが出来ない中学生が多いのが現状であった。 中学生をターゲットにしたプログラムを企画するまでに至らなかったのが一番の反省点である。</p>	<p><ボランティア活動> GGMのギフトバック活動にクリスマスに全館で取り組めた。 <自然体験活動> 保護者の関心の強いプログラムである。各年代に合ったプログラムを実施できた。 <全館行事> こどもの日スペシャル 60名 夏まつり 618名 やきいもの会 294名 クリスマス会 108名 冬まつり 314名</p>																																																		
<p>活動・行事報告</p>	<p><グループ活動> 別表参照 <行事> こども服リサイクル 年2回 計113名 お父さんと遊ぼう 6組 夏プログラム 5回 計219組 夏幼稚園プログラム 196名 運動会 205名 各クラスクリスマス 120組 ※講座(歯科、栄養)は各クラスで実施</p>	<p>入室式 水遊び 洗足池公園遠足 ハロウィン 林試の森遠足 たこあげ お楽しみ会、お店屋さんごっこ、ロッカー清掃 (各月1回) 駄菓子屋さん (月2回) 保護者会 (年4回) 個人面談 (年2回)</p>	<p><低学年活動> だいだらぼっち (各学年 年間25回) <高学年活動> 年度後半より高学年対象プログラムを立ち上げる (8回) <スポーツ活動> 区民センター遊ぼう (毎月1回) <文化部門> 手作り、手芸教室 (毎月各1回) DVDシアター <その他> 夏休みプログラム はちやめちやペインティング</p>	<p><中・高生タイム> 月～金曜日18時～19時</p>	<p><野外活動行事> 低学年デイキャンプ 年4回 145名 高学年デイキャンプ 年1回 12名 低学年キャンプ 年2回 46名 高学年キャンプ 年3回 37名 <合同行事> 高学年4館合同合宿 交流フェスタ in 代々木公園 交流ドッジフェスタ <その他> STEP活動として、世界の子ども達に目を向けることを目的とした活動を行う。 (参加者6名) こどもたちとギフトバックを届けることを最終目標としていたが参加者がなかったため、法人の補助を受け職員2名で届けた。</p>																																																		
<p>登録者・来館者</p>	<p>(登録数)</p> <table border="1" data-bbox="222 1501 771 1732"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児</td> <td>112</td> <td>111</td> <td>223</td> </tr> <tr> <td>1歳児</td> <td>65</td> <td>59</td> <td>124</td> </tr> <tr> <td>2, 3歳児</td> <td>52</td> <td>38</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>229</td> <td>208</td> <td>437</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児	112	111	223	1歳児	65	59	124	2, 3歳児	52	38	90	計	229	208	437	<p>(在籍数)</p> <table border="1" data-bbox="801 1501 1231 1732"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>23</td> <td>12</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>19</td> <td>14</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>52</td> <td>35</td> <td>87</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2009年3月)</p>	学年	男	女	計	1年生	23	12	35	2年生	19	14	33	3年生	10	9	19	計	52	35	87	<p>(2008年度来館者数)</p> <table border="1" data-bbox="1276 1501 1513 1774"> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>8104</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>18755</td> </tr> <tr> <td>中高生</td> <td>1829</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>8340</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>37028</td> </tr> </tbody> </table> <p>(学童出席者含まず)</p>	乳幼児	8104	小学生	18755	中高生	1829	一般	8340	計	37028		
クラス名	男	女	計																																																				
0歳児	112	111	223																																																				
1歳児	65	59	124																																																				
2, 3歳児	52	38	90																																																				
計	229	208	437																																																				
学年	男	女	計																																																				
1年生	23	12	35																																																				
2年生	19	14	33																																																				
3年生	10	9	19																																																				
計	52	35	87																																																				
乳幼児	8104																																																						
小学生	18755																																																						
中高生	1829																																																						
一般	8340																																																						
計	37028																																																						

2008年度雲柱社事業報告書

施設名:小金井市子ども家庭支援センター
 小金井市ファミリーサポートセンター
 記入者:宮澤陽子

事業の総括	<p><子ども家庭支援センター></p> <p>① 保健センターからの移管事業の見直しが進み、母子の愛着関係作りに焦点を当てたプログラムを実施。事業を手伝ってくれている心理職のスタッフからとてもいいプログラムだとの評価を頂いた。</p> <p>関係が必要と思われる。センターでの親子の姿を見ていと愛着関係の薄まりに危機感を感じているので今後も引き続き専門家のアドバイスを受けながらプログラムの検討を重ねていきたい。</p> <p>② 事業が年々増えてきており、一方では面接相談も増えてきている。講座関連の事業とひろばの関係は、ひろばで気になった人、相談につながった人を講座等でフォローする、また逆に講座等で気になった人をひろばも使って継続的にフォローするというように相互に運動し、補い合っている。またどちらかが、どちらかを利用するための導入にもなっている。育児教室や講座への利用者の要望は高いが、定員を増やしすぎると支援を必要とする人を見つけにくくなり、事業数を増やすとひろばでの心配な親子への対応に手が回らなくなるという課題を抱えている。今、現状の中でできる対応としては定員を多くし、誰でも参加できるものと、きめ細かく行うものとをメリハリをつけて実施していくことかと思う。そのことを検討していく中で、親子の関係性において、子どもの発達上どの年齢で何をスクリーニングしておくことが必要なのか、フォローはどうするか、親のニーズは何なのか、それはどこからくるのか等様々なことがはっきりしてくるのではないかと考えている。</p> <p>③ 要保護児童対策にかかるケースの対応は市の職員が行っている。グレーゾーンのケースについては、委託側(法人)と市職員とで連携を取り対応している。一つのセンターとして運営していくにあたっては、まだ整理されていない部分はあるが、実際のケース対応や合同の事務及びケース連絡会議等を通じて少しずつ整理が進みつつある。虐待の予防の大切さについては、市も認識しており、その面において委託部分の仕事の成果は、市も認めるところであり、運営協議会においても評価されている。次年度は、市職員の持っているケースと委託部分で持っているケースのつき合せの時間を長くすることになった。</p> <p>④ ひろばでの継続的なフォローは、個別の相談とまた違った難しさがある。また来てくれたらいいねという受身ではいけないし、あまり急激に入り込み過ぎてはいけない。来てくれたら、自分達は何をしていくのかという方針と方針の具体化が必要である。その為のミーティングの時間の確保が充分に出来ない現状がある。</p>	環境・修繕	<p><子ども家庭支援センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地内の児童遊園の固定遊具の定期点検を市で実施。一部改善の必要が生じたところで市の予算が取れず遊具撤去の方針が出たが、地域の要望で作られた場所なので再考をお願いし、撤去は取りやめとなった。遊具は、補修されることになった。利用者も喜んでる。 ・センターも5年目になったので施設や遊具の点検を定期的に注意深く行うようにした。 ・5年間の記録の保管スペースが課題となってきている。個人情報が多いので安全な保管場所の確保を市と話し合う必要が生じてきた。 																																	
	<p><ファミリー・サポート・センター></p> <p>① ファミリー・サポート・センターの役割について、周囲にファミサポができること、できないことの整理がついてきているように感じている。初期の頃のように無理な活動を依頼されたり、関係機関から何でもファミサポを紹介されるということもなくなり、アドバイザーの方でも相手の話を整理しながら聞くことに注意を払っているため混乱がなくなっているように思える。ファミサポの難しいところは、あくまでも依頼を引き受けてくれているのが地域の有償ボランティアであるということである。そこが地域の助け合いという意味での良さでもあり、限界でもある。協力会員は善意の会員ということが前提にある事業であるが故に制度自体に整理されてない部分が多く、曖昧で、現場でひとつひとつ起こってきたことを検討しながら形づくっている段階である。その中で活動が進み、人と人が日々関わっている状況がある。協力、依頼、会員両者、もとより子どもたちが守られていなければならないと思っているが、そのために何より大切なのはコミュニケーションだと痛感している。今年度、市と協議して会員の車を使っての活動を廃止にした。会員同士の個人契約で便利さばかりを求めてしまうと、何かがあった時に地域での身近な関係性を壊し、ひいては地域を壊してしまうことにもつながってしまう。とてもいい事業でもあるが、そういうリスクと隣り合わせの事業でもあると認識している。依頼会員の切実なニーズと、協力会員が自分達の出来る範囲のことをやりがいを持って気持ちよくやれる活動という側面をバランスをとりながら実践していかなければならない仕事である。そういう意味で、バランス感覚を必要とする事業であると思う。両会員、アドバイザー、センター長を含めて、互いの感謝という気持ちこそがリスクを回避し、活動を円滑にし、ひいては子どもたちを大人皆で育てていく、地域を耕していくというところに発展していくのだと実感している。</p>	事業の目標・方針の総括	<p><子ども家庭支援センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの活動が定着してきている。地域で長く活動してきた方からボランティアは初めてという方まで様々であり、活動の内容も様々であるが皆さん熱心に取り組んでくださり、こちらが励まされる。ボランティア同士での個々の交流も進んできているが、センターとしての交流、研修は今後の課題である。センターがどんな思いを持っているのか、一人一人の方たちがどんな風に親子の助けになっているのか、そんなことを伝える機会を意識的に作っていききたい。 ・ファミリー・サポート・センターとの連携も深め、地域の人的資源を掘り起していききたい。 ・支援センターのスタッフの仕事として、個に関わる、集団に関わる、親子の関係に関わるという力が必要ではないかと思う。小金井だけの課題ではないと思うので、支援センターのスタッフの必要とされる専門性をもう少し明かにした方がいいと感じている。 ・支援センターブロックとして職務基準の作成が計画されているので、そこで検討されることと思う。 <p><ファミリー・サポート・センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーサポートセンターも民生委員の方たちに活動を知っていただく機会を作る等、地域との連携に踏み出せた。フォローアップ講習を支援センターとの共催で実施することで地域の方にも参加してもらうことができ、地域でできることを共に考える機会となり、ファミリー・サポート・センターを周知することもできた。 																																	
	<p><ファミリー・サポート・センター></p> <p>① ファミリー・サポート・センターの役割について、周囲にファミサポができること、できないことの整理がついてきているように感じている。初期の頃のように無理な活動を依頼されたり、関係機関から何でもファミサポを紹介されるということもなくなり、アドバイザーの方でも相手の話を整理しながら聞くことに注意を払っているため混乱がなくなっているように思える。ファミサポの難しいところは、あくまでも依頼を引き受けてくれているのが地域の有償ボランティアであるということである。そこが地域の助け合いという意味での良さでもあり、限界でもある。協力会員は善意の会員ということが前提にある事業であるが故に制度自体に整理されてない部分が多く、曖昧で、現場でひとつひとつ起こってきたことを検討しながら形づくっている段階である。その中で活動が進み、人と人が日々関わっている状況がある。協力、依頼、会員両者、もとより子どもたちが守られていなければならないと思っているが、そのために何より大切なのはコミュニケーションだと痛感している。今年度、市と協議して会員の車を使っての活動を廃止にした。会員同士の個人契約で便利さばかりを求めてしまうと、何かがあった時に地域での身近な関係性を壊し、ひいては地域を壊してしまうことにもつながってしまう。とてもいい事業でもあるが、そういうリスクと隣り合わせの事業でもあると認識している。依頼会員の切実なニーズと、協力会員が自分達の出来る範囲のことをやりがいを持って気持ちよくやれる活動という側面をバランスをとりながら実践していかなければならない仕事である。そういう意味で、バランス感覚を必要とする事業であると思う。両会員、アドバイザー、センター長を含めて、互いの感謝という気持ちこそがリスクを回避し、活動を円滑にし、ひいては子どもたちを大人皆で育てていく、地域を耕していくというところに発展していくのだと実感している。</p>	年間利用者数	<p>○子ども家庭支援センター</p> <table border="1"> <tr> <td>・子ども延べ利用者数</td> <td>12,113人</td> <td>・相談件数</td> <td>新規</td> <td>656件</td> </tr> <tr> <td>・大人延べ利用者数</td> <td>10,837人</td> <td></td> <td>活動延べ件数</td> <td>1688件</td> </tr> <tr> <td>・延べ利用者総数</td> <td>22,950人</td> <td></td> <td>発達相談</td> <td>118件</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>こころの相談</td> <td>75件</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>助産師相談</td> <td>31件</td> </tr> </table> <p>・ボランティア 登録者数 35人 活動実施回数 264回 参加者延べ人数 597人</p> <p>○ファミリー・サポート・センター</p> <table border="1"> <tr> <td>・協力会員</td> <td>99人</td> </tr> <tr> <td>・依頼会員</td> <td>654人</td> </tr> <tr> <td>・両方会員</td> <td>28人</td> </tr> <tr> <td>・活動件数</td> <td>3079件</td> </tr> </table>	・子ども延べ利用者数	12,113人	・相談件数	新規	656件	・大人延べ利用者数	10,837人		活動延べ件数	1688件	・延べ利用者総数	22,950人		発達相談	118件				こころの相談	75件				助産師相談	31件	・協力会員	99人	・依頼会員	654人	・両方会員	28人	・活動件数	3079件
	・子ども延べ利用者数	12,113人	・相談件数	新規	656件																															
・大人延べ利用者数	10,837人		活動延べ件数	1688件																																
・延べ利用者総数	22,950人		発達相談	118件																																
			こころの相談	75件																																
			助産師相談	31件																																
・協力会員	99人																																			
・依頼会員	654人																																			
・両方会員	28人																																			
・活動件数	3079件																																			
<p><ファミリー・サポート・センター></p> <p>① ファミリー・サポート・センターの役割について、周囲にファミサポができること、できないことの整理がついてきているように感じている。初期の頃のように無理な活動を依頼されたり、関係機関から何でもファミサポを紹介されるということもなくなり、アドバイザーの方でも相手の話を整理しながら聞くことに注意を払っているため混乱がなくなっているように思える。ファミサポの難しいところは、あくまでも依頼を引き受けてくれているのが地域の有償ボランティアであるということである。そこが地域の助け合いという意味での良さでもあり、限界でもある。協力会員は善意の会員ということが前提にある事業であるが故に制度自体に整理されてない部分が多く、曖昧で、現場でひとつひとつ起こってきたことを検討しながら形づくっている段階である。その中で活動が進み、人と人が日々関わっている状況がある。協力、依頼、会員両者、もとより子どもたちが守られていなければならないと思っているが、そのために何より大切なのはコミュニケーションだと痛感している。今年度、市と協議して会員の車を使っての活動を廃止にした。会員同士の個人契約で便利さばかりを求めてしまうと、何かがあった時に地域での身近な関係性を壊し、ひいては地域を壊してしまうことにもつながってしまう。とてもいい事業でもあるが、そういうリスクと隣り合わせの事業でもあると認識している。依頼会員の切実なニーズと、協力会員が自分達の出来る範囲のことをやりがいを持って気持ちよくやれる活動という側面をバランスをとりながら実践していかなければならない仕事である。そういう意味で、バランス感覚を必要とする事業であると思う。両会員、アドバイザー、センター長を含めて、互いの感謝という気持ちこそがリスクを回避し、活動を円滑にし、ひいては子どもたちを大人皆で育てていく、地域を耕していくというところに発展していくのだと実感している。</p>	人事その他	<p>○子ども家庭支援センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・責任者 宮澤陽子 ・子ども家庭支援ワーカー <table border="1"> <tr> <td>名取知子</td> <td>発達相談 相談員</td> <td>松田景子(言語聴覚士)</td> </tr> <tr> <td>伊藤綾子</td> <td>こころの相談 相談員</td> <td>藤森由比子(臨床心理士)</td> </tr> <tr> <td>南部真紀(非常勤)</td> <td>助産師相談 相談員</td> <td>金岡直子(助産師)</td> </tr> <tr> <td>岡本久美子(非常勤1月～)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>○ファミリー・サポート・センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター長 宮澤陽子 ・アドバイザー 本多真理(非常勤) 榎本 香(非常勤) 田頭祐子(非常勤～10月) 神宮由美子(非常勤11月～) 	名取知子	発達相談 相談員	松田景子(言語聴覚士)	伊藤綾子	こころの相談 相談員	藤森由比子(臨床心理士)	南部真紀(非常勤)	助産師相談 相談員	金岡直子(助産師)	岡本久美子(非常勤1月～)																								
名取知子	発達相談 相談員	松田景子(言語聴覚士)																																		
伊藤綾子	こころの相談 相談員	藤森由比子(臨床心理士)																																		
南部真紀(非常勤)	助産師相談 相談員	金岡直子(助産師)																																		
岡本久美子(非常勤1月～)																																				

1. 総括

- ・今年度は、所長・主任の変更、新人職員の配置など職員体制が大きく変わった。兼務も多いため、職員の毎日の変化に動揺する利用者も見られた。
- ・2名の退所者がでる。（1名-亡くなる。1名-他の施設へ異動。）3月に1名入所。
- ・利用者の工賃安定をより図るため、造花作りなど新しい作業を受注した。
- ・月1回の調理実習では、20代から50代までの5名が参加し、コロッケ作りに取り組んでいる。作業場所を区切り細かな手順を写真で示すことにより、利用者の理解を深めることができ、現在は作業工程もかなりスムーズに行えるようになってきている。
- ・グループかがわ成人部門施設と連携し、行き帰りに問題行動のある利用者に対しては、送り迎えの支援をした。
- ・利用者の健康面を考慮し、家庭で対応できない場合は、医療機関へ職員が一緒に行くケースも増えている。
- ・今までの支援のほかに、排泄介助などの介護を必要とする高齢利用者もでてきている。しかし、小金井市が、新体系事業への移行、高齢利用者の今後について、まだ具体的に考えを示していないため、共同作業所の方向性を決められないのが現状。

2. 施設運営

(1) 実施事業

作業内容

受託作業：福祉会館内清掃・福祉会館風呂清掃・小金井市凧制作・割り箸袋入れ・説明書折アロマオイル充填・ケース組み立て・付録袋詰め・ダイレクトメール封入・造花作り

(2) 利用者の支援

利用者現員 18名

支援方針

- ・明るく、楽しい作業所の雰囲気大切に、毎日の職員会で作業面・生活面ともに個別の援助内容を考え支援した。
- ・意欲的に作業に取り組めるよう作業配置、作業内容を提案し環境を整えた。
- ・利用者の自主性を重んじ、行事の企画から話し合い、支援した。

健康管理

2月 2日 健康診断 小金井市障害者検診

11月20日 内科検診 嘱託医

- ・インフルエンザ等の予防対策として、加湿器2台を購入。

主な行事

4月11日 花見会（2.2万円）

5月 9日 日帰り旅行（8.5万円）

10月10日・11日 一泊旅行（12.2万円）

12月25日 クリスマス会（4.5万円）

(3) 職員の処遇

職員構成

所長	1名
主任支援員	1名
支援員	2名（正規職員）
支援員	2名（週3日パート職員）
支援員	1名（障害者雇用職員）
嘱託医	1名
相談員	1名

健康管理

健康診断 年1回

会議

法人全体集会	3月28日
主任会	6月17日
GK全体職員会	7月19日・12月13日・3月28日
成人部門全体会議	5月10日・2月7日
運営会・成人部門会議（所長、主任）	月1回
職員会議	月1回（ケース会議含む）
ショートミーティング	毎日

研修

法人内研修 法人外研修

3. 施設管理

(1) 設備関係

- ・食堂の壁の塗り替えを行った。
- ・前年度に続き、硝子張りの出入口に硝子の飛び散り防止フィルムを張った。

(2) 備品関係

- ・利用者の安全性を高めるため、重量及びシーソー運動に耐久性のある作業椅子を購入。
- ・扇風機2台購入

(3) 災害対策

- ・避難訓練…福社会館全体避難訓練 3月23日
小金井市福祉共同作業所内避難訓練 4月30日・8月1日・1月22日
- ・非常食糧の備蓄

4. 地域社会との連携

- ・福社会館まつりに参加し、自主製品の販売など積極的にかかわった。
- ・福社会館利用者が主催する会に参加し、合唱・踊り・お茶会などで交流した。
- ・障害者週間では、例年通り利用者がポスターを描き、COCOバス、市内の公共施設へ展示された。
- ・特別支援学校3年生1名、通所希望実習1名、小金井市社会福祉協議会より1名、厚生労働省職員1名、高校生2名の実習生を受け入れた。

	子育て支援活動	学童クラブ（本館・分室）	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																																																																											
事業の総括		<ul style="list-style-type: none"> ・行事の準備や練習、おやつ班など、日頃から学年の枠を越えた縦割りのグループ活動を行なっていたことで、学童クラブの仲間としての一体感が生まれ、主体性や助け合う気持ちを育むことができた。 ・さまざまなことを体験して欲しいという思いから、遠足、合宿、祭りなどの行事を積極的に行ってきた。これらは、児童、保護者双方から好評をいただいた。 ・保護者のニーズの多様化に伴い、連絡や聞き取りをこまめに行い、頂いた意見や要望はいち早くクラブの運営に反映させるよう努めた。 ・クラブでの生活が画一的なものにならないよう、児童館、支援センターや公園、図書館や学校など、地域の社会資源を出来るだけ活用した。 ・学校の授業時数の変更に伴い、保育計画を組み直した。 																																																																														
活動・行事報告		<p>・4月入会式・5月遠足（科学未来館）・6月遠足（木場公園）・7月夏祭り、観劇会・8月合宿、遠足（葛西臨海公園）・10月ハロウィン・11月遠足（昭和記念公園）、土曜クラブ遠足（こどもの城）・12月ガムラン鑑賞会、クリスマス会・3月お別れ会、お別れ遠足（大島小松川公園）、深川北部ドッチボール大会</p> <p>定期活動：月1回 ゲーム会、にこにこひろば（深川北子育て支援センターとの交流事業）、さんぽ、避難訓練 月2回 制作</p> <p>その他：ぬりえコンクール（年3回）・保護者会：5月、7月、3月・入会説明会：3月・個人面談：5月、11月</p>																																																																														
登録者・来館者	<p>(登録数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス名</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>1歳児クラス</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2歳児クラス</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	クラス名	男	女	計	0歳児クラス			0	1歳児クラス			0	2歳児クラス			0				0				0				0	計	0	0	0	<p>(在籍時数)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>26</td> <td>31</td> <td>57</td> </tr> </tbody> </table>	1年生	6	13	19	2年生	9	7	16	3年生	11	11	22	4年生	0	0	0	計	26	31	57	<p>(2008年度来館者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中・高校生</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※会館日数 _____ 日 ※1日平均 _____ 人</p>		男	女	計	乳幼児			0	小学生			0	中・高校生			0	一般			0	計	0	0	0	<p>(その他の事業、特記事項)</p>
クラス名	男	女	計																																																																													
0歳児クラス			0																																																																													
1歳児クラス			0																																																																													
2歳児クラス			0																																																																													
			0																																																																													
			0																																																																													
			0																																																																													
計	0	0	0																																																																													
1年生	6	13	19																																																																													
2年生	9	7	16																																																																													
3年生	11	11	22																																																																													
4年生	0	0	0																																																																													
計	26	31	57																																																																													
	男	女	計																																																																													
乳幼児			0																																																																													
小学生			0																																																																													
中・高校生			0																																																																													
一般			0																																																																													
計	0	0	0																																																																													

記入者 松原 万紀子

2008年度 雲柱社 児童館ブロック 亀戸児童館 大島四丁目学童クラブ 事業報告

記入者 永澤 和男

	子育て支援活動	学童クラブ（本館・分室）	小学生活動	中・高生活動	全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など																								
事業の総括																													
活動・行事報告		<p>日常活動 みずべボランティア（週1回）、買い物体験（月1回）、誕生会（月1回）、帰りの会（毎日）食育の時間（月1回）</p> <p>延長保育 5時～6時。延長保育では集団遊びや個々での遊びを展開。トランプや将棋などのテーブルゲームやおままごと、コマ、ぬり絵などで楽しむ。</p> <p>おやつ バイキング方式（自分でお菓子をお盆からお皿に取る）と大皿方式（グループのみなさんでお皿のおやつを取り分ける）を実施。その他、駄菓子屋さん形式やくじ引きおやつなどを取り入れることもあった。昨年度に引き続き、保護者の管理栄養士に来ていただき、こどもたちに食育の話をしていただいた。</p> <p>グループ活動・誕生会等 こどもの誕生日にリクエストおやつを行なう。また、誕生会では手作りの冠とお菓子のレイをプレゼントし、みんなと一緒に誕生日を祝う。</p> <p>行事・外出 オリエンテーション（4月）、工作タイム（5月）、ぬり絵コンテスト（6月）、観劇会・大八との交流＜水遊び＞・公園へおでかけ（8月）、ドングリ工作（10月）、ぬり絵コンテスト（11月）、クリスマス会、大掃除（12月）、ぬり絵コンテスト（2月）、サイン帳作り・合同ドッジボール大会・卒室進級を祝う会・お別れ遠足（3月）</p> <p>その他の活動 第1回保護者会（5月）、第2回保護者会（7月）、個人面談（11月）、次年度入会説明会（3月）</p>																											
登録者・来館者	(登録数)	<p>(在籍児数) 2009.3時点</p> <table border="1" data-bbox="379 1535 795 1755"> <thead> <tr> <th></th> <th>男</th> <th>女</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>2</td> <td>11</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9</td> <td>16</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table>		男	女	計	1年生	6	4	10	2年生	2	11	13	3年生	1	1	2	4年生			0	計	9	16	25	(その他の事業、特記事項)		<p>放課後児童対策として始まった放課後こども教室（通称：げんきっず）により、在籍児童数が減少し大きなグループとしての活動は出来なかった。しかし、人数が少なかったことで、外遊びや近所の公園へのお出かけ、買い物体験などが実施できた。前年度より引き続き行なっているこども家庭支援センターとの共催プログラムも好評で、今後も異年齢交流にも力を入れ、共に学び、分かち合う心を培う学童クラブを目指す。</p>
	男	女	計																										
1年生	6	4	10																										
2年生	2	11	13																										
3年生	1	1	2																										
4年生			0																										
計	9	16	25																										

委託

大島四

2008年度 雲柱社 児童館ブロック 亀戸児童館 大島八丁目学童クラブ 事業報告

記入者 永澤 和男

事業の総括	<p>子育て支援活動</p> <p>◇2008年度も「誰でも自由に安心して来ることができる」くつろぎスペースを目指して開設。ひとりひとりとのコミュニケーションを大切に、気になる子どもの様子等の話をいつでも出来る雰囲気作りを心掛ける。新しく利用する親子(概ね0歳児)が多かった。ひろばをきっかけにお互いの家を行き来したり、「同じ保育園に行くから、これからも助け合おうね。」という会話もあり、「ひろば」が地域に密着し、ネットワークが広がっていることを実感できた。</p> <p>◇低月齢の0歳児の登録が多く、地域に乳幼児を持つ家庭が多くあり、これからも増加していく傾向があることを感じた。大島八丁目は近くに児童館がなく、近い月齢のこどもを持つ親が知り合うことの出来る場所が少ないため、保護者の交流の場としての役割も大きかったと感じる。</p> <p>◇年齢・月齢に縛られない自由な雰囲気を大事にしつつも安全面に考慮し、室内をねんねスペースと動けるこどものスペースに分けた。それぞれのスペースの利用状況に差があるときがあり、空間設定が難しかった(ねんねスペースは年度途中で少し広げた)。</p> <p>◇スペースを分けたことで、同月齢のこどもを持つ保護者同士での関わりが多かったが、発達の不安や疑問、地域の病院等の情報交換をするときには、スペースを越えての情報交換をする姿が見られた。異年齢のこどもを持つ保護者同士が話し合うことで、育児不安の軽減に繋がっていることが多くあるので、会話が広がって行くように努めた。</p> <p>◇家の近くにすぐにいける場所があるということが、保護者にとって大きな意味を持っているようだった。近隣の児童館の休館日である月曜日に開設したことで居場所の提供ができた。小学校の長期休暇中はひろばは開設しないが、「行くところがない」という声があり、対応の必要性を強く感じた。</p> <p>◇全体でのプログラムは手遊びと紙芝居を中心に行い、他の時間は自由に過ごすという気楽さが、利用のしやすさでもあった様子。また、コミュニケーションを大切にすることで、地域を歩いているだけでも声をかけてくださる親子や学童クラブに将来通わせたいと話す保護者も居り、『地域密着型の子育てひろば』の良さを出すことができた。</p>	<p>学童クラブ(分室)</p> <p>日常活動 一日の流れ<通常>: 来室→宿題・自由遊び→おやつ→外遊び(室内遊び)→帰りの会→班ごとに帰宅 <学校休業日>: 来室→勉強→自由遊び・集団遊び→昼食→自由遊び・散歩(夏休みのみ昼寝)→おやつ→外遊び(室内遊び)→帰りの会→班ごとに帰宅</p> <p>「ゲーム会」(月1回)、「スポーツの日」(月1回)、「避難訓練」(月1回)、「公園遊び」(週1回) 季節の行事製作 等</p> <p>延長保育 17時</p> <p>17時～18時。在籍児の半数以上が延長を申請。延長児童の半数は保護者がお迎えに来ている。残りの児童は、班で帰宅。方向的に一人帰りになってしまう児童は、可能な限り、職員が自宅付近まで送っていった。延長保育限定のプログラム有り(室内ドッジ・タスケ、集団ゲーム、雑巾がけ、年末お楽しみ会 等)</p> <p>おやつ 個別包装で、準備時に手で触れない物にし、触る場合は手袋をすることを徹底。衛生面の管理には十分に気を配った。内容的には、出来る限りバラエティに富み、季節の行事に合ったおやつを出すようにした。地域の商店のお惣菜を使い、既製品に頼り過ぎないように配慮した。</p> <p>グループ活動・誕生会等 月のゲーム会は生活班対抗。縦割り集団で協力し、達成する喜び・楽しさを体験できるように配慮した。また、クリスマス会・では、自分達で出しものを決め練習・発表した。誕生会は、ひとりひとりにカードを準備。司会は3年生が順番で行った。 10月はハロウィンパーティーを行い、大8ひろばの親子を招待した。</p> <p>行事・外出 オリエンテーション・お祝い会(4月)、ミニ遠足(小松川公園)(5月)、塗り絵コンテスト・杵つ釣り大会(6月)、お楽しみ昼食会・観劇(ティアラ江東)(7月)、いっしょご飯の日・大四と交流(水遊び)・お化け縁日(大島児童館)・遠足(プレイパーク・本所防災館)、引取り訓練(9月)、大四・大八・亀戸学童交流遠足(10月)、ミニ遠足・塗り絵コンテスト(11月)、クリスマス会・昼食会・大掃除(12月)、1年の目標・羽根つき大会(1月)、節分ゲーム会・塗り絵コンテスト(2月)、五目並べ大会・江東区ドッジボール大会・お別れ会・昼食会・お別れ遠足(国立科学博物館)(3月)</p> <p>その他の活動 保護者会(5月・7月・月)、個人面談(希望者)(11月)、新年度説明会(3月)</p>	<p>小学生活動 中・高生活動</p> <p>全世代事業、自然体験事業、ボランティア活動など</p>																																					
	活動・行事報告	<p>○日常活動 10:00自由来室・ひろば活動→11:25片付け→紙芝居→連絡事項・予定報告→11:30ひろば終了→11:40片付け→12:00振り返り</p> <p>○特別プログラム: パネルシアター:講師に来ていただき行った(年1回) ハロウィンパーティー(学童クラブにひろば親子を招待)</p>	<p>(その他の事業、特記事項) 生活班を用いたグループ活動を多く取り入れた。縦割りの生活班での生活・遊び・ゲーム会等を通じ、協調性・社会性を育むことができた。3年生が中心となって学童クラブを作り上げていけるように、活動等を考えていきたい。また、公園に行くと学童が来るのを待っているこども達も居り、学童という枠に捉われすぎない遊びの展開もしていきたい。 保護者との関係は概ね良好。保護者会・個人面談・送り迎え時の日々の会話を通して、安定した信頼関係を築きつつある。職員の異動や交代が多い学童クラブなので、連絡帳やお迎えなどの機会を通してコミュニケーションを密にとり、こどもにとって安心して過ごすことが出来る、保護者が安心して預けることの出来る学童クラブを目指していきたい。</p>																																					
登録者・来館者	<p>子育て支援活動 (登録数) 2008.3時点</p> <table border="1"> <tr><th>クラス名</th><th>計</th></tr> <tr><td>0歳児クラス</td><td>85</td></tr> <tr><td>1歳児クラス</td><td>23</td></tr> <tr><td>2歳児クラス</td><td>8</td></tr> <tr><td>3歳児クラス</td><td>1</td></tr> <tr><td>計</td><td>117</td></tr> </table>	クラス名	計	0歳児クラス	85	1歳児クラス	23	2歳児クラス	8	3歳児クラス	1	計	117	<p>学童クラブ (在籍児数) 2008.3現在</p> <table border="1"> <tr><th></th><th>男</th><th>女</th><th>計</th></tr> <tr><td>1年生</td><td>7</td><td>8</td><td>15</td></tr> <tr><td>2年生</td><td>11</td><td>13</td><td>24</td></tr> <tr><td>3年生</td><td>2</td><td>3</td><td>5</td></tr> <tr><td>4年生</td><td></td><td></td><td>0</td></tr> <tr><td>計</td><td>20</td><td>24</td><td>44</td></tr> </table>		男	女	計	1年生	7	8	15	2年生	11	13	24	3年生	2	3	5	4年生			0	計	20	24	44		
クラス名	計																																							
0歳児クラス	85																																							
1歳児クラス	23																																							
2歳児クラス	8																																							
3歳児クラス	1																																							
計	117																																							
	男	女	計																																					
1年生	7	8	15																																					
2年生	11	13	24																																					
3年生	2	3	5																																					
4年生			0																																					
計	20	24	44																																					

委託 大島八

2008 年度（平成 20 年度）事業報告書

施設名／小平市ファミリー・サポート・センター

記入者／両方 仁子

事業の内容と展開総括	<p>2008 年度 4 月から委託を受けて 1 年間の活動をしてきた。(3 年間委託)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初年度の取り組みであり、以前 3 年間の実績が見えないので手探りで 1 年間であった。アドバイザーも当初の約束の 5 日間勤務の者が都合で勤務できなくなり、3 日間勤務の 2 人も、続ける意志を途中変更して話し合いをするなどスタート時から人事での難しさがあった。結局 4 人のアドバイザーが勤務して週を交代する事とし、一日 2 人勤務で行っている。 ・養成講座も、以前の委託先に講師を派遣していたので内容はある程度知っていたものの、見直しをする事になった。他市プログラムを参考にさせてもらって短時間の養成講座を初級としてステップアップ講座や交流会をしながら提供会員のスキルを高めていきたいと考える。 ・ファミリーサポートは、互助的な性質が強いので、提供会員やアドバイザーのモチベーションに影響されると考える。その点での把握が弱く、適切な対処は元からいたアドバイザー 2 人の判断に委ねている。 ・次年度途中で、なんとか週 5 日間通して働けるアドバイザーを確保したいと考える。また、全体の仕事を見通せないと業務をまかせられないと考えている。 ・子育て支援として非常に必要性のある活動であり、よりよい人材を見出して少しずつ市内の信頼を得ていかななくてはならない。 	<p>事業目標・方針と展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のニーズを汲みとり、適切な提供をしていかななくてはならない。ファミリーサポート活動内容としての制限もあるので、市内の NPO、民間の活動につなげ利用者にとって必要とされるサービスの提供を目指さなくてはならない。その点で今年度は手探り状態であった。また、養成講座のあり方もやってみてわかってきたというところである。 ・地域資源と結びつきなんとか人材育成をしていきたい。ファミリーサポートの活動をよく理解すると同時に、この活動に興味と愛着を持ち、いまの子育て世代の親子への支援に情熱を傾けてくださる人材を育てて行かなければならないと考えている。
	<p>利用状況</p> <p>会員数 総会員数 1,178 人 (利用会員数 999 人) 養成講座 2 回 フォロー研修 2 回 交流会 5 回</p>	
	<p>人事報告</p> <p>センター長(兼務) 両方仁子 アドバイザー 塚本茂子、 井上明子、 堀内幹子、 安蔵雅子</p>	

中 村 悠 子

利用者のニーズに応え、また経営基盤を確保するため、さくらの木との協力体制を強化した。また、第三者評価の結果を運営に生かすよう、新たな取り組みを行った。近年、週1日通園クラスの希望者が増えてきていることを受け、週1日通園利用の受け入れ枠を増やす必要に迫られている。

- **療育の質を維持・向上させるため、従来の指導員数を確保する。**
→丁寧な療育を行うことができるよう指導員数を維持した。また保護者の意向を療育に取り入れるため、アンケートを計画的に実施した。
- **自らの療育のあり方や今後の方向性を考えていくため、他の療育機関の見学を積極的に進める。**
→学校見学を中心に、できるだけ多くの関係機関を見学するよう努力した。
- **療育の技術を高め、職員間での共通理解を図ることを目的に、指導手順の文書化を試みる。**
→手順書の作成までには至らず、指導手順の確認を行った。ケース会議に協力医療機関の臨床心理士を招き、療育についての専門的な助言を受けた。
- **療育の個別的な目標を保護者へ分かりやすく示すため、計画書の書式を検討する。**
→新たに指導計画の書式を作成し、保護者と一緒に園児への具体的な対応を話し合った。
- **児童部門としてさくらの木との連絡を密にするため、児童部門としての職員会議を定期的に実施する。**
→年2回実施した。よい情報交換の場になった。
- **調理室の冷凍冷蔵庫、食器保管庫が老朽化しているため、買い替えのための助成金申請を行う。**
→助成金を得られなかったが、食器保管庫が故障したため事業費にて購入した。

1 施設運営

(1) 事業実績

- ・集団保育と個別学習 年間保育日 276日、延べ利用者数 7,622人
- ・外来相談（入園待機児） 週1回実施
- ・きょうだいの会 月1回実施
- ・卒園生のアフターケア

(2) 児童の処遇

ア クラス編成（定員35名）

- ・週5日通園クラス 3クラス（27名）
- ・週4日通園クラス 1クラス（6名）
- ・週1日通園クラス 5クラス（26名）

イ 健康管理

- ・内科検診 年2回（4月、10月）
- ・身体測定（身長・体重） 毎月
- ・身体測定（頭囲・胸囲） 年2回（4月、10月）
- ・歯科検診 年1回（11月）
- ・蟯虫卵検査 年1回（5月）

ウ 主な行事

4月 入園式	5月 春合宿	6月 お楽しみ会	9月 運動会
10月 遠足	12月 クリスマス会	2月 スケート体験	3月 卒園式

エ 栄養管理

- ・給食会議を職員会議内で毎月実施し、園児の様子や指導員の意見を献立や配膳に反映させるよう努めた。

- ・ノロウイルスやそのほかの感染症への対応を職員間で確認し、園内に掲示することで対策を強化した。

オ 安全管理

- ・遊具の破損部分で負傷した園児が出たことから、特に遊具の安全点検に力を入れ、看護師による定期的なチェックを行った。

(3) 職員の処遇

ア 職員構成

園長（常勤）	1名	※他事業所との兼務
主任指導員（常勤）	1名	※運転手と兼務
児童指導員（常勤）	11名	
調理員（常勤）	1名	※他事業所との兼務
看護師（パート）	1名	
事務員（パート）	1名	※他事業所との兼務
児童指導員（パート）	3名	
調理員（パート）	5名	※他事業所との兼務

※スーパーバイザー及び嘱託医、相談は各1名の業務委託により実施。

イ 健康管理

- ・健康診断 年1回（7～10月）
- ・細菌検査 調理員のみ毎月1回

ウ 職員会議

- ・GK全体職員会（年3回）
- ・ブロック会議（年3回）
- ・児童部門会議（月1回）
- ・児童部門職員会議（年2回）
- ・定例職員会議（月1回）
- ・リーダー会議（月1回）
- ・ケース会議（月3回）
- ・クラス会議（週2回）
- ・報告会（毎日）

エ 職員研修

- ・法人本部研修（経験年数別） …2年目、中堅研修
- ・かがわブロック研修 …年2回、延べ24名参加
- ・心理の専門家を招いてのケース会議 …年2回、延べ23名参加
- ・スーパーバイザーによるカンファレンス…1回、9名参加
- ・外部機関の企画する講習会の参加 …8講座、延べ13名参加
- ・学校・施設見学 …14ヶ所、延べ20名参加

2 施設管理

(1) 設備関係

- ・故障により調理室の食器保管庫を買い替えた。

(2) 災害対策

災害時に備え、避難訓練を毎月1回実施するとともに、保護者への引渡し訓練を8月～9月に実施した。また隣接する愛の園保育園・かがわ工房との合同総合避難訓練を10月に実施した。防災設備の点検を委託し年2回実施（内、消防署への届け出1回）、非常時食糧の確認を園の防火管理者が実施した。

3 地域社会との連携

隣接する愛の園保育園とはお互いの園庭やホールの利用、行事練習への協力等で交流を行った。保護者からは健常児との交流を期待されているため、今後、さらに交流が持てるかどうか検討したい。また実習生やボランティアを積極的に受け入れ、障がい児や家族の理解者を増やし、福祉に関わる人材を育成するよう努力した。

11月にはグループかがわ後援会主催のバザーに職員・保護者が協力し、近隣住民や地域の事業者との交流を図った。

例年通り、都立小金井養護学校の運営連絡協議会（年3回）の委員、小金井地域ケア連絡会（年5回）の世話人等、地域の関係機関との情報交換を行なった。

総括

2009年3月末で64名の利用者登録があり、今後も増加していく見込み（2009年現在、5名の待機登録希望者）である。

2007年度は日中にウイングスを主体として働ける女性ヘルパー(パート)が2名増えたことで、余暇支援サービスを安定して提供できるようになったが、新たに共同作業所と兼任で行動援護支援に対応できる職員の男性ヘルパーが配置されたことにより、懸案事項だった中高生から成人にかけての特に配慮を必要とされる利用者の方(要同性介護)への支援を増加させることができた。さらに3月に男性の学生ヘルパーの登録希望があったので、2009年度からまた支援時間を拡充していきたいと考えている。現在の利用料収入はおおむね月額65万～75万円程度までになってきたが、まだ運営費収入が不足している状況であるので、2009年度は、運営状況の改善に向けて月間90万円、年間で1000万円の利用料収入を目指していく。

9月に東京都の監査を受け数点の指摘を受けた。不足していた書類は整備し、組織体制の変更（管理者の変更）、利用者への支給の是正の依頼（居宅介護での外出支援は不可。移動支援や行動援護に支給を変更。）を行なった。

課題としては、サービスの質の均一化と緊急時への対応で、屋外の地域で1対1で活動するためどうしても職員の目が行き届かず、各ヘルパーの裁量に任される部分が多くなってしまっているので、職員による支援同行を増やしたりヘルパー支援マニュアルをより具体的で実用的なものに改訂していったりといった対応をする必要がある。恒例のガイドヘルパー研修事業は2009年度も6月に開催し、募集定員も20名から30名に増やしたので、今後のさらなるヘルパーの人材確保を図っていきたい。

1 施設運営

(1) 実施事業

- ①知的障害児・者 居宅介護事業（行動援護を含む）
- ②知的障害児・者 移動支援事業（各市町村の地域生活支援事業）
- ③その他有料の預かり事業
- ※ウイングス利用の80%以上は②の移動支援事業

(2) 利用者の処遇

ア 利用者数

総利用者数64名

【利用者分布一覧】

市町村名	小金井市	国立市	府中市	小平市	国分寺市	日野市	その他
人数	22名	10名	6名	12名	7名	2名	5名

計 64名

【月間利用料収入の推移】

2008年4月～2009年3月

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計(半年分)
利用料	¥609,129	¥672,818	¥663,583	¥833,208	¥763,988	¥799,868	¥4,342,594
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(半年分)
利用料	¥661,556	¥782,035	¥799,757	¥769,726	¥730,982	¥921,597	¥4,665,653
						総額	¥9,008,247
						月平均	¥750,687

イ 処遇について

- グループ活動は減り、各々の利用者のニーズに合わせ、ほとんどマンツーマンの活動にシフト
- トラブル発生時はすぐにスタッフがフォローするよう心がけているが、屋外活動ということで支援地が拡散しているため迅速に駆けつけられない場合もあり、今後の対応が課題となっている。
- 連絡は主に電話とeメールで、事務所に職員が不在時はケータイに転送する設定にすることにより連絡漏れを防いだ。賀川学園やかかわ工房、さくらの木所属の利用者が多いため、職員間で細かく連絡をとるよう努力した。
- 土日・休日のお出かけや夏休みの預かり企画等を行なった他、放課後の余暇支援や施設での授産活動が終わった後の運動不足の解消のためのスポーツ等を行なった。

(3) 職員の処遇

- 非常勤ヘルパー3名、その他登録ヘルパーが7名、兼務の職員1名、サービス提供責任者1名(ヘルパー兼任)という体制で支援にあたった。昨年度は男性ヘルパーがゼロになり中高生や成人の支援が難しくなった時期もあったが、2008年度は男性職員が週1回兼務で入ることとなり、今まで屋外での対応が困難だった方への支援も少しずつ増やしていけるようになっている。
- ヘルパーは学生が中心のため、年度ごとの入れ替わりがあり、個々に向けての説明や講習はあったものの、ヘルパー全体に向けての研修が充実できなかった反省があるので、ヘルパー支援マニュアルの改訂も含め、障害者支援の人材確保と育成にさらに力を入れていきたいと考えている。

【ヘルパー数】

	週5回以上支援	週3回以上支援	週1回程度支援	月1～2回程度支援	それ以下の頻度
男性	1	0	2	1	0
女性	0	4	1	1	2

※2008年度3月時

2 施設管理

KAGAWA館301号室を事務所として利用。日常的に利用者の出入りはないが、雨天時などに奥の保育室を利用することも多いので、カーペットを敷いたり絵本を用意したり、さらに環境を整えていく。

3 地域社会との連携

近隣地域の居宅介護・移動支援事業所(色えんぴつ・くじら雲…等)との連携を深め、情報交換を積極的にするようにした。

1. 総括

2008年度は、年末年始も開所した初めての年となった。今回は利用者の保護者が急な体調不良になり自宅帰省が困難となった事例だが、今後もこのようなケースは増加すると思われる。1年間を通して開所できる体制作りが急務となった年でもあった。

神奈川県綾瀬市で起きたグループホーム火災を受けて、消防法が改正されることになり、各寮で消防立ち入り検査が行われた。新たに指摘された事項については、東京都から補助金が出ることになり、改修工事は3月までに終わることができた。

支援内容の統一と徹底を図るため、日中事業所と各寮でチームを組んで支援を行うようにした。利用者や職員にとってわかりやすい体制で対応することができた。

保護者の方の高齢化、利用者の体調不良・加齢による体力の衰えなど、様々な課題も出てきており、今後の展開と寮のあり方を考えさせられた一年でもあった。

2. 施設運営

(1) 施設体系（2009年3月）

施設体系	定員	利用者数
ケアホーム（共同生活介護）	26名	26名
グループホーム（共同生活援助）	1名	1名

(2) 利用者の支援

・ 利用者数（2009年3月）

ホーム名	定員	利用者数
シリウス	6名	6名
ミラ	5名	5名
カペラ	5名	5名
ベガ	4名	4名
ジュピター	7名	7名
計	27名	27名

- ・ 安定して生活できること、身の回りのことが一人で出来ることを目標に、個別支援計画を作成し、保護者個人面談時に保護者からの同意を得た。
- ・ 利用者への支援は成人部門のケース会議や日中の活動先であるかがわ工房、ワークスタジオかがわ、小金井福祉共同作業所の職員と情報を共有化し、一人ひとりのニーズに合わせた支援ができるよう努めた。
- ・ 離職されている利用者については、企業面接に同行するなど就職活動の支援を行ってきた。3月に2週間の実習を経て、一般企業に就職することができた。今後の支援については、就労支援センターと連携を図りながら進めていく。
- ・ 事業計画にはなかったが、利用者本人と保護者の方から強い要望のあった宿泊行事を行うことにした。あきる野市のコテージで9月にキャンプを行なったが、数少ないか

がわの家全体の行事ということもあり、利用者と職員にも貴重な経験の場となった。次年度も継続して行なっていきたい。

- ・ 利用者の余暇支援や休日利用の対応で、サポートセンターウイングスとの連携を深め対応を進めた。週末は少ない職員数で対応しなければならないため、利用者の余暇活動の充実を図るためウイングスの協力はとても助かっている。
- ・ 健康管理面では、発熱等の風邪にかかった利用者の病院の付き添いや日中の看病が何度かあった。KAGAWA館にあるむさしの小児発達クリニックに通院している利用者については、職員もできる限り付き添い、対応方法等を医師と確認をした。また、日々の健康管理については、食欲・睡眠の他、利用者健康診断の結果に基づいた食事の提供や毎月の体重測定を行った。
- ・ 夜間専門員も含めたケース勉強会を開催し、支援内容の統一と徹底を図った。
- ・ 余暇活動は各寮で誕生日会やクリスマス会、外食など季節に合わせた行事を実施した。

(3) 職員の処遇

- ・ 職員体制は宿直の日数が偏らないように夜間支援専門員を各寮に配置した。遅番や週末の日中勤務にパート職員を配置するなどの配慮をしたが、休日を利用する利用者も増加傾向にあり、より一層の工夫が必要となった。
- ・ 職員の健康診断は年1回実施した。
- ・ 会議は、GK全体職員会（年3回）、成人部門全体職員会（年3回）、グループかがわ運営会議（月1回）、成人部門運営会議（月1回）、かがわの家全体会議（年3回）を実施した。また、ケース会・行事前打ち合わせは随時実施した。
- ・ 研修は、勤務体制上全員が参加することがなかなか困難であった。

3. 施設管理

(1) 施設整備

- ・ シリウスの風呂場の扉、台所の水道蛇口の修理を行なった。
- ・ KAGAWA館の下水道が老朽化のため詰まりやすく、定期的な業者清掃を行なわなければならなくなった。

(2) 設備関係

- ・ ミラのガス給湯器が故障したため、交換工事を行なった。

(3) 災害対策

- ・ 避難経路や消火器の設置場所を確認し、非常時に対応できるようにした。
- ・ 消防設備の点検を実施した。
- ・ 防災カーテンと防災絨毯の設置を完了した。

4. 地域社会との連携

- ・ お祭りや餅つき大会、資源回収など町内会の行事には積極的に参加した。また、町内の会議には定期的に出席し、地域の方に理解を得られるように努めた。
- ・ 職場への通勤など、近隣とのトラブルにならないように、利用者によっては職員が付き添うなど配慮した。

記入者 中村悠子

1. 総括

東京都の移譲から2年が経過し、活動プログラムや利用者のグループ分けも固定し、安定的な利用者支援を継続的に行うことができた。

保護者個別面談（年2回）と保護者会（年2回）、保護者学習会（年1回）、グループ参観日（グループ毎に年1回）を開催し、保護者の意見を積極的に聞くように努め、信頼関係を築いている。

4月にパン工房「リトルシープ」を開設した。店内に喫茶スペースを設置したことで、近隣の方々との交流の場ともなっている。利用者は無理のないように就労継続支援事業の利用者が交代で作業に取り組んでいる。

生活介護事業の利用者にも、一年間取り組んできた生産活動の収入と陶芸や手工芸の売上げから、12月に一時金をお渡しした。生まれて初めて自分が働いて得た収入として、ご本人や保護者の方々から大変喜ばれたものとなった。今後も、自信を持って取り組める活動の一つとして、また、利用者の社会参加の場面として、ご本人に合った作業内容の開拓に努めていきたい。

保護者の方々の高齢化は進んできており、今後の新たな展開を考えさせられた一年でもあった。

2. 施設運営

(1) 施設体系（2009年3月）

施設体系	定員	利用者数
生活介護事業	32名	29名
就労継続支援事業B型	10名	10名
短期入所事業	2床	

(2) 利用者の支援

- ・利用者本人やご家族の方からの要望を聞き、個別支援計画を作成した。作成した個別支援計画は保護者の方から同意を得た。また、中間と年度末に個別支援計画の見直しを行なった。
- ・利用者の障がい特性やペース、体力、年齢に応じたグループ分けを行い、各グループの特色を活かしたプログラムを作成し活動に取り組んだ。
- ・就労継続支援事業では、新しくパン作業が作業内容に加わった。利用者が無理なく取り組める作業内容を考え、交代で作業に入るようにした。接客で地域の方と交流し嬉しそうにする姿など、今までにない利用者の新たな一面も見ることができた。
- ・生活介護事業では、利用者の方が安全に快適に過ごせる環境設定を行ないたいと考え、部屋の使い方など模様替えを行なった。食堂にカーペットを敷いたことで、麻痺のある方もリラックスして過ごせる環境を整備した。体育の活動には引き続き講師の方に来て頂き、利用者の運動能力の把握に努めた。
- ・統一した支援方法を確立するため、援助マニュアルを作成した。また、癲癇発作がある方や麻痺がある方には個別の安全マニュアルを徹底し、事故や怪我の防止に努めた。
- ・利用者ご本人とご家族の方からの要望がある一泊旅行を今年度も2回に分けて実施した。
- ・第三者評価を受診した。
- ・保護者の方を対象に、12月に学習会を開催した。学習会の内容は、講師の方に来ていただき「成年後見制度について」の講義を行なってもらった。終了後、保護者の方にはアンケート

トを配布し、内容についての意見を伺った。今後の学習会等の開催に役立てていきたい。

- ・ 地元の企業からバイオディーゼル精製事業への取り組み打診があった。地域の企業との繋がりを深めていくためと、環境問題への貢献として積極的に関わられる方法を考えていきたい。

(3) 健康管理

- ・ 利用者の健康に配慮した支援を行うように、看護師とも連携を取りながら毎日の支援にあたった。食事や水分の摂り方には十分な注意をはらい、必要な人には摂取量表を作成し経過観察を行った。
- ・ 薬の保持、服用は看護師が管理を行った。
- ・ 毎月の内科検診・体重測定、年1回のレントゲン健診・耳鼻科健診、年2回の整形健診を行った。また、9月には理学療法士に来てもらい、保護者も含めたPT相談を行った。

(4) 職員の処遇

- ・ 職員健康診断を年1回実施した。
- ・ 会議は、ミーティング（朝）と報告会（夕）を毎日実施。その他の会議は、グループ別ミーティング（それぞれのグループで隔週1回）、職員会議（毎月1回）、GK 全体職員会（年3回）、成人部門全体職員会（年2回）、運営会（毎月1回）、成人部会（毎月1回）を実施した。日中は利用者の方がいるため、会議開催の時間が夕方からになってしまうのが今後の検討課題である。
- ・ 外部研修は、「ヒヤリハットについて」（東社協）、「本人支援のあり方」（さざんかの会）、「自閉症の理解と支援」（東社協）、「就労支援について」（明治安田こころの健康財団）、他施設見学（親の会）、「パン展示会」（企業）に職員がそれぞれ参加した。参加した職員は、職員会議で報告を行なってもらった。

3. 施設管理

(1) 施設整備

- ・ 排水溝のつまりと雨漏りする箇所があったため、2階ベランダ部分の排水溝業者清掃と浸透マスの設置工事を行なった。

(2) 設備関係

- ・ 不具合が出ていたエアコンの全面交換工事を行なった。
- ・ 自動扉が老朽化に伴い故障してしまった為、交換工事を行なった。

(3) 災害対策

- ・ 毎月1回の避難訓練を行った。また、3月には消防署員立会いで総合避難訓練と消火訓練をおこなった。
- ・ 消防設備の点検を実施した。

4. 地域社会との連携

- ・ ホールや備品（和太鼓等）の貸し出しを地域の団体へ向けて行った。
- ・ 陶芸活動は、地域の陶芸サークルの方々にボランティアで来ていただいて、一緒に活動を行なっている。製作した作品はボランティアと一緒にバザーやみのりフェスタで販売した。
- ・ 地域の方々との交流の場として実習所祭「みのりフェスタ」を3月に開催した。地域の和太鼓サークルやサンバサークルの方にも参加してもらい、来客に演奏していただいた。当日は、多くの方々が来て下さり盛況に終えることができた。

1. 総括

新体系事業への移行については、行政の動向や他障害者施設等の情報収集、また運営面の施設収入のさらなる減額が予想されることから、2008年度も見合わせ、旧法知的障害者授産施設として運営をした。先の移行先としては、運営面の最低限の保障という観点から生活介護事業との方針を固めたが、移行年度については未定としている。

パン製造が小金井生活実習所へ移動したことに伴い、新規事業として焼き菓子製造作業に取り組み、1年目として成果をあげることができ、わずかながらも工賃アップに反映できた。

第三者評価の結果を受けて、本人主体の取組みを行い、個別支援計画の説明に本人が同席したり、行事に利用者の意見を反映したプログラムを実施し、好評を得た。

少数の職員配置で、非常勤職員が日常支援体制の半数を占めている。非常勤職員との情報の共有化、連携、業務上の役割分担等を行い、支援サービスの質の維持向上に努めた。

2. 施設運営

(1) 実施事業

ア、受託作業…付録の袋詰め、プラスチック試験管の袋詰め、土のう袋制作、ダイレクトメールの封入、封筒制作、会報紙の封入、アロマオイル取扱い説明書の折り、チラシ広告組み合わせ、アルミ缶回収事業等を行った。かがわブロック間で作業の連携と分業を行なってきた。また、単発の大口の作業も入り、作業に忙しい1年であった。一方、年明けより馴染みの業者からの作業が中断するなど作業内容の不安定さもみられている。

イ、自主製品パンの販売・焼き菓子製造・販売…小金井生活実習所とのパンの販売体制が整った。新規事業として本格実施した焼き菓子製造作業体制が整い、焼き菓子種類・販売量・販路が増え、売上の実績があがり、1年目として成果をあげることができた。

ウ、リサイクル事業…アルミ缶回収。年明けより経済不況の影響を受けて、アルミ缶引き取り額が0円となり、収入減となった。

エ、ボランティア活動…市からの要望により、公園清掃作業を復活し、月1回実施した。

(2) 利用者支援

ア、利用者数 定員…25名 在籍…24名

イ、支援方針

- ・利用者の個別支援計画を策定し、個人面談にて本人が同席し、保護者とともに本人にもわかりやすい形で説明を行い、同意を得た。上半期で到達度を確認し、必要に応じて見直しを図った。
- ・行事において、利用者の要望を取り入れ、利用者が主体となって参加できる内容を企画、実施した。
- ・利用者の年長化や心身の状態の変化に対応するため、日中プログラムの幅をもたせる取り組みを行った。体操教室、昼の音楽放送、カレンダー作り、給料授与式など心身の気分転換に効果をあげた。
- ・作業支援マニュアルを作成し、作業室に整備し、職員間で見直し活用に努めた。
- ・3月末に、2名が就労継続支援B型事業所へ入所のため、退所した。

ウ、健康管理

5月15日 内科健診 嘱託医

1月28日 2月25日 健康診断 武蔵野三鷹地域センター (12万5千円)

エ、主な行事

6月13日 春の日帰り旅行 国営武蔵丘陵森林公園 (3万4千円)

10月2日～3日 秋の一泊旅行 千葉県勝浦 (26万5千円)

12月25日 クリスマス会(2万円)

3月6日 慰労会 宮ヶ瀬園地バーベキュー (7万2千円)

オ、給食

- ・利用者の状態に応じて分量の調整や食器の工夫をした。
- ・季節感や行事を盛り込んだメニューを提供した。

カ、安全管理

- ・防災訓練 毎月実施(以下の訓練を含む) ・賀川学園との合同訓練(6月24日)
- ・三施設(愛の園保育園・賀川学園・かがわ工房)合同総合避難訓練(10月21日)
引渡し訓練(8月31日)
- ・ヒヤリハット報告書・事故報告書を整備し、再発防止対策を協議、周知を図った。

(3) 職員の処遇

ア、職員の処遇

施設長	…	1名	リーダー(生活支援員)	…	1名(常勤兼務)
作業指導員	…	1名	生活支援員	…2名(常勤兼務)	8名(パート職員)
事務員	…	1名	(兼務・パート職員)		
調理員	…	1名(常勤兼務)	5名(兼務・パート職員)		
嘱託医	…	1名	相談員	…	1名

イ、健康診断 年1回実施 若年健康診断 生活習慣病予防健診(多摩健康管センター)

ウ、会議 法人全体会 かがわブロック施設長会(月1回) かがわブロック主任会(年2回)

グループかがわ全体職員会 7月19日 12月13日 3月28日

成人部門合同会議 5月10日 2月7日

運営会 月1回(児童・成人・サービス事業所各施設長・主任)

成人部会 月1回(成人事業所各施設長・主任) 職員会議 ケース会議

エ、研修 法人本部研修(経験年数別)…1年目(1名)、3年目(1名)

かがわブロック研修…講演会2回実施7月19日、12月13日、延べ10名参加

他事業体験研修 2回実施2名参加

賀川の実践2008合評会実施7月19日 5名参加

成人部門研修…4コマ実施 4月26日 2月7日 延べ20名参加

各種専門講座外部研修…6講座 延べ6名参加

3. 施設管理

(1) 設備関係…女子トイレブース補修工事 ・外部階段手すり設置工事

備品関係…ワゴン車修繕 ・PC環境整備 ・コピー機リース

(2) 災害対策…自衛消防訓練 毎月1回実施 ・防災設備の点検委託 年2回

4. 地域社会との連携

- ・町内会へ班長として町内会議に参加。町会祭りに出店し、備品の貸し出し等で協力した。
- ・パンの販売やアルミ缶回収などで近隣の方や各施設、市民との交流を深めた。
- ・グループかがわ後援会主催バザーで、会場として賀川学園と共に施設開放を行った。
- ・地域のボランティア希望者や中学生の体験学習を受け入れた。
- ・特別支援学校実習生、社会福祉援助実習生、保育士実習生、介護体験等学生を受け入れた。

社会福祉法人雲柱社 ワークスタジオかがわ
2008（平成20）年度 事業報告

記入者（施設長）

網野一也

- 2010（平成22）年度、新体系（生活介護）に移行する予定であり、来年度については利用者を25人まで増やすことが可能なので、来年度からの利用を希望する方の実習の結果を受け、2009年度3人を新たに受け入れることとした。
- 作業内容については新たにプラスチック製品（携帯電話の部品）のマスキングの作業が入るようになり、作業内容の充実が図られたが、年度後半は景気の悪化にともない、仕事の入荷量が減っている。
- 年度途中から、不況、円高や北京オリンピック終了などの影響でアルミニウムなど金属の価格が暴落し、アルミ缶回収の収入が大きく落ち込んだ。
- 生活の流れを見直し、朝の作業開始時にラジオ体操を取り入れた。
- 食堂やラウンジ、トイレなどの環境整備を行った。
- 利用が増えるのにもない、パーテーション工事を行い、作業環境を整備した。
- 「ワークスタジオまつり」は地元のお囃子に参加いただいたことで、来場者も増え、地域の方たちとの良い交流の場となった。

1 施設運営

(1) 実施事業

作業内容

受注作業…付録の袋詰め、ビットのパック詰め、チラシの組み合わせ、プラスチック製品のマスキング

自主製品の製造・販売…ポストカード、せんべい

その他…アルミ缶回収、施設内外の清掃

(2) 利用者の処遇

利用定員…20人

在籍…21人

処遇方針

- ・作業と生活面から利用者の状況、課題を検討し、個別の支援計画をたて、支援内容の充実を図る。

健康管理

6月26日 内科検診 11月13日 健康診断

- ・作業前、毎日ラジオ体操を行う。

主な行事

4月23日 日帰り旅行 武蔵丘陵森林公園 67,000円

10月25日、26日 一泊旅行 神奈川・千葉
かんぼの宿鴨川 260,000円

12月24日 クリスマス会 18,000円

3月19日 慰労会 70,000円

給 食

- ・行事食などより楽しく食事ができるよう工夫してきた。

安全管理

- ・より具体的な状況を設定して訓練を実施した。

(3) 職員の処遇

職員の構成

施設長 1 人 作業指導員 2 人 (兼務) 生活支援員 3 人 (兼務)
生活支援員 (常勤パート) 1 人 生活支援員 (パート職員) 10 人
栄養士 1 人 (パート職員) 調理員 4 人 (パート職員)
嘱託医 1 人 相談員 (非常勤) 1 人

健康管理 健康診断 年 1 回

会 議

法人全体集会 1 回 GK 全体職員会 3 回
運営会 月 1 回 成人部会 月 1 回 成人部門全体会 3 回
職員会議 10 回 ケース会議 10 回

研 修

<法人> 新人職員研修 施設長研修 次世代育成プロジェクト
経験年数別研修
<ブロック内> 全体職員研修 実践報告・合評会 交換研修
<外部研修> 福祉振興財団 こころの健康財団
秋川流域生活支援ネットワーク

2 施設管理

(1) 建物・設備関係

- ・パーテーション工事
- ・トイレ、玄関等照明設備工事
- ・エアコン室外機修理
- ・東京善意銀行を通じて、食堂ソファとテーブルが寄贈された。

(2) 災害対策

- ・3階防火扉改修工事を実施した。
- ・自動火災報知設備作動時のマニュアルを作成した。

3 地域社会との連携

- ・10月25日(土) ワークスタジオまつりを開催し、地域の方たちとの親睦を深めた。
- ・あきる野市地域自立支援協議会に参加し、他の事業所とともに、地域福祉の向上のために活動した。
- ・瀬音会に参加し、地元商工会の方たちとのつながりを深めた。

3：学童クラブ事業

①事業の評価と今後の課題

キリスト教の行事や日本の行事に触れられるように努力した。各イベントや行事に関する製作をし、子どもの気持ちが高まるように努めた。また、自分自身の記録更新に向けて頑張ることを目的とした「宝ギネスに挑戦」というチャレンジ種目を設定したことで、子どもの挑戦の気持ちが生まれた。異年齢の交流や男女問わず遊ぶ姿が見られ、子供同士の輪の広がりを感じた。2009年度は子どもの意見を聞き、取り入れながら子どもたちと一緒に学童クラブを作り上げていきたいと思う。

学年別 男女別	1年生		2年生		3年生		その他		合計	延長保育
	女	男	女	男	女	男	女	男		
4月	3	4	3	0	3	4	0	0	17	5
5月	3	4	3	0	3	4	0	0	17	5
6月	3	5	3	0	4	4	0	0	19	5
7月	3	5	3	0	4	4	0	0	19	5
8月	3	5	3	0	4	4	0	0	19	5
9月	3	5	3	0	4	4	0	0	19	5
10月	4	5	3	0	4	4	0	0	20	5
11月	4	5	3	0	4	4	0	0	20	4
12月	4	5	3	0	4	4	0	0	20	4
1月	4	5	4	0	4	4	0	0	21	4
2月	5	5	4	0	4	4	0	0	22	4
3月	5	5	4	0	4	4	0	0	22	4
合計	44	58	39	0	46	48	0	0	235	55

③事業報告
日常活動

<一日保育> 8:30登所 9:00学習タイム 10:00自由遊び 12:00昼食 13:00自由遊び(公園)
16:00おやつ 16:30掃除 17:00帰りの会 (学校終了後から同様に保育)

延長保育

18:00～19:00 室内で宿題やおもちゃ遊びで過ごす

おやつ

16:00(複数の学校の為、登所時間を考え遅めのおやつ)
一週間に2回手作りのおやつを提供し、様々な食に触れる機会を増やした

グループ活動

掃除当番、食前・食後のお祈り、帰りの会の挨拶当番

行事・外出

月日	行事名	内容
4月1日	入所式	新しい入所児を受け入れる式
4月12日	ウェルカムパーティー	新しい入所児、保護者を受け入れるパーティー
6月20・21日	お泊り合宿	夕食作り、お楽しみ会(スポーツ大会)
7月30・31日 8月1日	キャンプ	千葉市少年自然の家にて、泥んこ遊び、ハイキング ナイトハイク、製作、キャンプファイヤー
10月22日	ハロウィンパーティー	仮装しお世話になった方々の所を訪問
12月20日	クリスマス会	会食、学童児の出し物発表(かくし芸)
3月19・20日	お別れ合宿	思い出の場所を巡るナイトハイク、夕食作り、銭湯
3月31日	お別れ会	卒所児との楽しい思い出作り

④その他の活動－個人面談、保護者会、他

5月23日 保護者会(職員の挨拶・学童での子どもの様子・合宿やキャンプについて)
 10月～11月 個人面談(個別にて子どもの態度・様子について)

小学生一時預かり事業「クオレ」

学年別 男女別	1年生		2年生		3年生		その他		合計
	女	男	女	男	女	男	女	男	
4月									0
5月									0
6月									0
7月									0
8月									0
9月									0
10月									0
11月									0
12月									0
1月									0
2月									0
3月									0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※活動の評価と課題

4：小学生事業 (地域児童健全育成事業－自由来館児童を中心とした事業－)

①事業の評価と今後の課題

学童卒所児限定という枠を設定し、通常保育活動での小学生ボランティアの受け入れを行った。また、卒所児プログラムとしてバーベキューパーティー企画し、3年生のお別れ合宿にもボランティアとして参加させ、卒所しても学童との繋がりを持てる活動を行うことが出来た。来年度以降の課題としては、プログラムの充実を図り、保育園の行事にも積極的に参加させていきたい。

②体育室活動(設定スポーツの回数、延べ人数、1回平均)

種目名	回数	延参加者	1回平均
(例) ドッチボール	10	100	10
合計			

③図書室活動(貸し出し延べ冊数、貸しだし図書ジャンル別数、1日平均貸し出し数など)

(年間)	利用者	延貸出数	月平均	日平均
児童書				
雑誌				
コミック				
他				
合計				

④視聴覚・創作等の活動

⑤その他の行事 (2005年度に実施した事業をすべて報告する)

⑥学年別グループ活動 (期毎に各グループの事業内容を報告する)

(1)1年生グループ活動 1期(月 ~ 月)

開催日	活動内容	参加者数

※活動の評価と課題 (各グループ毎に記入してください)

--

※複写にて毎月に作成の上記入

⑦自然体験活動

開催日	活動内容・行き先等	対象者	参加者数

※活動の評価と課題

--

⑧ボランティア活動等

開催日	活動内容・実施場所等	対象者	参加者数

※活動の評価と課題

--

⑨小学生学習支援活動

学年別	学習内容	回数	延人数	回平均
1年生				
2年生				
3年生				
4年以上				

※活動の評価と課題

--

⑩小学生対象年間イベント

開催日	イベント名	参加者数
10月25日(土)	保育園児・学童児・卒所児交流プログラム(バーベキュー)	17名
3月19日(金)～20日(土)	3年生お別れ合宿(ボランティア参加)	2名

※活動の評価と課題

卒所児限定という中での活動であったが、まずまずの参加者だった。しかし、卒所児以外の小学生から参加したいとの声もある為、彼らをどう方法で対応していくかが課題である。次年度からは、年数回になるかもしれないが、学童や保育園などの行事と連携して活動を行い、小学生の受け入れの幅を広げていきたい。

中村 悠子

1. 総括

現在新体系への移行先が決まっておらず、交付されている補助金制度がなくなった場合、この事業を継続させていくために、職員の育成と指導枠の維持・増加を考え新人職員を迎え4名の常勤職員数で今年度は事業を進めた。指導枠の維持・増加に努めるため、非常勤職員を採用した。

新人職員や非常勤職員が増えたことで、業務内容などを話し合う職員会議を増やし、さらに職員の質の向上をはかるためにケース会議の日程を増やし、昨年度に引き続き学習会を定期的に取り組んだ。また常勤職員の数が増えたことで、昨年度中断していた講演会を実施し、さらに体験学習の日程を増やし、利用者のニーズに応えられるように努力した。指導の一環として取り組んでいた料理のレシピを昨年度に引き続き「レシピ集」としてを作成し販売した。

建物の老朽化による修繕・正規職員の雇用などにより年々支出が増大していく傾向が顕著である。現在できることは、今後に備えて収入を増やし支出を減らすことである。しかし収入は限られているため、職員間の経費節減への意識を高め、光熱費の使用削減・消耗品の使用・廃棄について効率的な方法を周知し実践するように努めた。

2. 施設運営

（1）実施事業

個別指導、ペア指導、グループ指導、余暇支援、体験学習4回、キャンプの年間の延べ利用者数は補助金事業対象者の年間延べ利用者数は3,699名。その他、講演会年2回、さくらの木相談室年3回、コミュニケーションブック29冊頒布、レシピ集を作成し13冊頒布。

（2）利用者の支援

自閉的傾向や発達に遅れのある子どもとその家族が、社会の中でより豊かに暮らしていけるよう支援を行った。指導は主に日常生活における基本的動作及びコミュニケーション手段の獲得、集団生活の適応を目標にひとりひとりの子どもの発達に応じたプログラムを立て取り組んだ。

ア 利用者年齢構成

	利用者数（名）
幼 児	3
小学生	77
中学生	14
高校生	10
合 計	104

イ 月別開所日数 (日)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
20	23	25	25	14	24	26	21	19	20	21	14	240

ウ 健康管理

利用者の健康状態に留意し、軽い怪我には対応できるような薬を常備した。

(3) 職員の処遇

施設長 1 名、指導員 16 名で指導にあたった。

職員には年 1 回の健康診断を行い、健康の管理に努めた。

事業所内の職員会議（原則、週 1 回）を中心に、法人全体集会（年 1 回）、グループかがわ運営会議（月 1 回）、児童部門職員会議（年 2 回）、グループかがわ全体職員会（年 3 回）、ケース会議（月 4～6 回）を行い、運営上の課題、支援の方法等を話し合った。

発達障害に関する専門性向上を目的に、研修（他機関主催の研修に 1 人年 1 回）、学習会（月 1 回）、学校等の関連機関の見学（延べ 30 件）や受け入れ（延べ 18 件）を積極的に実施した。また発達障害に関する書籍を購入し、研鑽に努めた。

3. 施設管理

消防用設備の点検をした。

利用者の増加に伴う指導室の確保のため、電気容量を増やし、エアコンを設置した。

4. 地域社会との連携

賀川学園の卒園生の他、小金井市及び近隣市区町村在住者の利用も受け付けている。

発達障害や事業への理解を促進し、近隣との良好な関係を保つため、ボランティアや見学者を積極的に受け入れた。またグループかがわ後援会主催のバザーや自治会に参加するなど、地域住民との交流を図った。